

三木市体育協会

30年のあゆみ



昭和59年

三木市民憲章

昭和45年11月3日制定

市民の一人であるわたしが、この憲章の道を実践することによって、人々がより幸福に、より繁栄にむかうものと自認するとき、市民憲章をみつめるわたしの心はあたたまる。
市民わたしは、市民わたしのこの世における義務として、この市民憲章に生きる。

わたしたち三木市民は

1. 素直で謙虚で創意に富んだ人にならましよう

身も心も健康な人になろう

喜びと感謝に生きよう

正しい考えをしっかりと

1. なごやかな活気に満ちた家庭をつくり愛情のこもった郷土にしましよう

わが家のだんらんをはかろう

隣人と手をつなごう

誠意は行為であらわそう

1. 産業の振興を図り豊かなまちづくりに励みましよう

うでと心の信頼される人になろう

仕事に工夫と発展をはかろう

協力一致で繁栄しよう

1. 教養を深め道義に生き文化の高いまちを築きましよう

良識ある市民となろう

安全都市宣言を守ろう

まちの美化につとめよう

1. 先輩の功績をたたえ後輩のよき鏡となって今を生きていしましよう

伝統を守り進歩するまちを築こう

責任と義務をはたそう

青少年の夢と希望を育てよう



三木市章

(昭和29年7月に制定)

「木」又は「キ」を三つ組み合せて図案化し、ハート形にして心臓部を表し、三方に出る動脈により活動の旺盛さを表しています。三方同形により天・地・人三体の調和をとり、将来の発展、円満和合を意味しています。



三木市旗

(昭和41年8月に制定)

紺地に白で曲尺を組み合せて図案化したもので、曲尺は金物を象徴しています。

スポーツマン綱領

スポーツは人間だけがもつ文化の一つである。

これをより高く、美しいものにするには、スポーツを行うものの精神とそれを取りまく環境の清らかなことが必要である。美しいスポーツマンシップは、このような世界のなかで生まれ、やがて生活を導く基として社会のために貢献するであろう。故にスポーツマンは競技場にあると同じ精神と態度で生活し、りっぱな社会人でなければならない。

ここに真のスポーツのあまねくゆきわたり、すべての人のものとして発展することを希い、スポーツマン綱領を定めた。

◎競技するものはスポーツを愛好し、ひいてはそれを心と身体の糧とし、明るい光とすがすがしい空気の中で、純粹にスポーツを行うこと。

◎競技するものは、スポーツを行うことによって、社会的名声や物質的な利益を得ようという考えをもたないこと。

◎競技するものは、審判の判定を重んじ、その決定に満足しない場合でも感情に支配されぬ行動をとること。

◎競技するものは、つねに明朗で相手を尊重しつつ自分の最善をつくし、その成果に満足すること。

◎競技を審判するものは、規則に従って公平に判断し、競技を明るく進めること。

◎競技を見るものは感情にとらわれた応援をせず、美しい精神とすぐれた技をたたえスポーツのよりよい発展を希うこと。

歴代体育協会会長



初代会長 井本 政夫
(昭和29年～36年)



第2代会長 故 衣巻 顕明
(昭和37年～42年)



第3代会長 鷺尾 弘志

表紙題字 第3代会長 鷺尾 弘志

目 次

三木市民憲章

体 協 旗

スポーツマン綱領

歴代体育協会会長

21世紀に向けて	体 育 協 会 々 長 鷺 尾 弘 志	1
祝 辞	三 木 市 長 大 原 義 治	2
〃	三 木 市 議 会 議 長 中 尾 保	3
〃	兵 庫 県 体 育 協 会 々 長 田 村 亨	4
〃	三 木 市 教 育 委 員 会 教 育 長 川 崎 正 雄	5
三木市体育協会のあゆみ		6
体協歴代役員名簿		8
59年度役員		13
体育功労者表彰・スポーツ最高賞		15
体育・スポーツ年度別主な出来事		17
30年をふりかえって(談)	(井 本 政 夫)	21
三木市体育協会をふりかえって	(横 山 昇)	23
駅伝あれこれ	(前 田 薫)	24
柔道協会	(武 川 茂 夫)	25
軟式庭球協会回顧録	(井口威和緒)	26
三木市卓球協会を振り返って	(藤 原 正 明)	27
30年の軌跡		28
加盟協会の紹介		53
市制・体育協会設立30周年記念市民総合スポーツ大会		99
スポーツ少年団一覧表		112
三木市の社会体育関係団体紹介		113
三木市体育協会規約		116
三木市民スポーツ最高賞選定規則		120
三木市社会体育施設一覧表		121
三木市体育協会組織		120
編集後記		122

21世紀に向けて



体育協会々長 鷺 尾 弘 志

三木市体育協会も協会関係者の努力と市民各層の体育に対する情熱のもと、年と共にスポーツ参加層の拡大と競技力の向上等大きな成果をあげてまいり、ここに、栄ある30周年の今日を迎えることとなりました。

創設以来30年、本市における体育活動の中心であり組織活動の中心として体育、スポーツの普及振興に惜しめない努力と御指導をいただいた先輩、そして体育協会関係者のご協力、ご支援の賜ものと深く敬意を表すとともに心から感謝申しあげる次第であります。

申しあげるまでもなく、近年の都市化の進行とわが国、社会の急激な変貌は、身体活動の場を狭めるとともに自然に親しむ機会を少なくするなど、心身ともに健康で文化的な生活の維持を難しくする傾向のなかで充実した日常活動への希求心を満すことは、今日将来を問わず重要な課題と考えられます。こうした中で、日常活動のひとつとして、子どもから高齢者にいたる広い範囲で定着しつつある体育、スポーツの果す役割は、単に健康づくりのみならず、円満な社会生活の根源ともいわれ重要さを加えつつあるものと存じます。今私たちは、情報化時代、高齢化社会を迎えようとしておりますが、21世紀を目指し老いも若きも「ドウ・スポーツ」により健康でしかも心豊かな人間性を、「共に生きる」隣人愛にもとづく文化的生活の実現にむけて新しい時代の観点に立つとともに市民の要請に既応出来る市民スポーツの振興を推進することが当協会に課せられた使命であり、その重大さを十分認識し30周年を契機に関係者一同体育、スポーツ振興への決意をするものであります。

ここに記念誌を発刊するにあたり三木市体育協会の輝かしい30年の歩みを振りかえり、感慨を新たにするとともに更に全市民のスポーツ振興へと飛躍発展することを祈念し、発刊の辞とします。

発刊を祝して



三木市長 大原 義 治

三木市体育協会が設立三十周年を迎えられ、ここに三十年の歩みを記す記念誌が発刊されますことは、誠に意義深いことであり心からお喜び申し上げます。

顧みますと、三木市体育協会は市制施行と同じ昭和二十九年にスポーツを愛好される皆様方の大変なご努力によっていち早く結成され、戦後の混乱と厳しさの中で市民の心に明るい希望と楽しみをもたらし、本市社会体育の基礎を築かれたのであります。

設立当時五団体であった組織も三十年を経た今日、十三種目加盟団体に大きく発展を遂げておりますのも、役員をはじめ会員各位が幾多の困難と苦勞を克服し協会発展のためご尽力された賜ものであり、衷心より敬意を表するものでございます。

近年、スポーツに対する国民の関心はますます強くなっておりますとき、三木市においても「人間性豊かなまちづくり」を市政推進の柱として、明日の豊かな郷土を切り拓く原動力とも言える教育、文化、スポーツ等の振興に積極的に取り組む一方、市民福祉の充実向上に努め健やかで幸せな三木市を築くため鋭意努力しております。

スポーツマン綱領に「スポーツは人間だけが持つ文化の一つである」と言われておりますが、複雑多忙な現代こそスポーツで汗を流し人間性の回復を図り、また、次代を担う青少年の体力向上と精神力を培い、私たちが健康で文化的な生活を営む源泉であると言っても過言ではないと存じます。

市制三十周年並びに三木市体育協会設立三十周年を記念して、市民総合スポーツ大会が関係者の大変なご努力によって盛大に関催されましたことを心からお喜び申し上げますとともに、今後さらに固い結束のもと三木市体育協会の組織充実と本市の社会体育振興のため、皆様方のなご一層の御活躍を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。

三木市体育協会結成30周年

おめでとうございます



三木市議会議長 中 尾 保

戦後の復興が始まった中で、新しい三木市の誕生とともに結成されました協会は、市民のスポーツ熱を大いに奮いたたせ、市民の心に明るい灯火をともしられました。

そして今日までの30年間地域スポーツがしっかりと根をはり隆盛を迎えましたのも、ひとえに驚尾会長さんをはじめとする役員並びに会員の皆様方のご苦勞とご熱意によるものと、深く感謝を申し上げるところでございます。

戦後わが国は短期間に世界有数の先進国に発展し、日常生活に多くの物質的な恩恵をもたらしたものの、一方において都市化にともないモヤシッ子・成人病の増加等々というひずみも発生しました。

このような社会的背景の中で当協会はスポーツを通じ健康体力の立ち遅れを克服し、国民の全てが健康を楽しみひいては、労働生産を高め経済発展の原動力を培い三木市の伸展の基礎を築く体力づくりに積極的に取り組まれたのであります。

まだ記憶に新しいロサンゼルス・オリンピックは多くのドラマを生みました。特にマラソンのアンセルセン、37才のゴールドメダリスト、ロベス、山下とゴールドメダルをかけて戦ったアシュワンのスポーツマン精神。これらは私達の心に感動を呼びました。

青少年のモラルが低下している今日、スポーツを通じて青少年の健全な心身を育成するという面から考えてみましてもスポーツのもつ意義は計り知れないものと確信いたしております。

地域スポーツを通じ青少年がすくすくと成長いたし、明るく健康的な三木市へと発展いたすことを願い、最後になりましたが協会のますますのご繁榮と皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

祝 辞

兵庫県体育協会会長 田 村 亨

このたび、三木市体育協会が創立30年を迎えられ、その輝かしい伝統を「三木市体育協会30年のあゆみ」として発行されましたことを心よりお喜び申し上げます。

三木市体育協会は、創立から今日に至るまで体育・スポーツ活動を通して、豊かな人づくりと健康な町づくりに取り組まれ、輝かしい成果を挙げてこられました。

特に、市民スポーツとして全市あげての三木市民バレーボール大会は、家族ぐるみのチームを含め約170チーム、2,000人の老若男女が参加し楽しんでおられると聞いております。このことは、とりもおさず勸日本体育協会が提唱しています「みんなのスポーツ」、兵庫県体育協会が目標としている「県民のスポーツ振興を図るため、体力づくりの輪を広げる」ことを実践されているといっても過言ではありません。

県政の重要施策の一つに「健やかな家庭・福祉社会の実現」がありますが、三木市政におきましても「たくましい心・豊かな人づくりと健康で明るい家庭づくり」を重点課題として採り上げておられますように、私達の生活の中で、心身の健全な生活を営むための「健康な家庭づくり」が、今や県政・市政の重要課題となってきました。

このような現状から、21世紀を目指し健康で文化的生活を実現していくための条件として、体育・スポーツ活動の果す役割はますます重要となり、それに伴って今後の体育協会のあり方としても、県体育協会及び市町体育協会が一体となって、取り組んでいかなければならない時機になってきております。

三木市体育協会が30年を迎え、再び新しい一歩を歩み始めようとしておられますが、どうかこれからも市民のため県体育協会と一体となって、体育・スポーツの普及発展を図っていただき「スポーツの町」、「健康の町」として、全国的に飛躍発展されることを期待しております。

最後に、今日まで御尽力賜りました先輩諸氏に深く感謝申し上げてお祝いのことばいたします。

30年のあゆみ発刊に寄せて



教育長 川崎 正雄

三木市体育協会が結成されて30年、このたびそのあゆみをまとめられ冊子として刊行されましたことは、まことに意義深いことと心からお祝い申し上げます。

ひと口に30年と言いますが、その間に協会の果たしてこられた役割りのすばらしさと、協会を支えて今日の発展にまでみちびいてくださった多くの役員や指導員等のボランティア精神に深甚なる感謝の意を捧げるものであります。

今では陸上競技をはじめとして、13種目の協会があり、協会規約をはじめとして細則等の諸規則も整備されております。第3代目会長として県会議員の鷺尾先生を頂き、組織としても堂々としたものでありますが、発足の当初のご苦労はなみたいていではなかったと推察いたします。

ちなみに、書架の片すみから、そのころの日記をとり出してみました。昭和29年6月30日には志染村解村式があり、7月6日には三木市合併の旗行列をしたと書いています。一面の麦畑の上をひばりがのどかにさえずり、夏には川で子どもたちが元気に水とたわむれ、秋の山には松たけが笠を連ねていました。そして、昭和32年9月22日の日曜日には、初代の井本会長のもとに第1回市民総合体育大会がはなばなしく開催されました。もちろん、市民体育館や市民グラウンドもない当時のこととて、7種目の試合を市内の小中高3校の運動場等を使用して行いました。私もバレーボール・チームの一選手として出場して、3位に入賞したと記しています。

思えば三木に市政がしかれて、それにとまって体育協会も発足して今日30周年を迎えたわけですが、世の中の進展、三木市の発展変化もまことにおどろくべきものがあります。私たちの先輩の者にとって、この30年は子育ての時代であり、人生のもっとも元気盛んな時期でありました。第2代の会長衣巻市長がなくなられた昭和42年ごろは、日本経済の高度成長が始動しはじめ、モーターゼリエーションが起り、山では松くい虫の被害が広がりはじめました。広報「みき」の市予算に関する記事には、社会的事業経費の増加といったことが目につき、社会体育が社会教育の一環として大きくクローズアップしてきました。やがて経済成長の伸展にともなう余暇の増大と平均寿命の延長が生涯教育のあり方として大きく論議される時代になりました。

大原市長の施政方針の中にも「スポーツは人の集いをつくり、心の交わりを培ううえで健全な社会基盤をなす」と示されています。人間性豊かな町づくりをめざす三木市として、市民文化とともに市民スポーツの振興が望まれます。そういった意味でも三木市体育協会の今後ますますの発展隆盛を祈念してご挨拶いたします。

昭和59年

三木市体育協会のあゆみ

昭和26年3月15日、美濃郡三木町が久留美村を編入し、29年6月1日に別所村、細川村および、口吉川村と合併して三木市制を施行、兵庫県下で16番目の市として発足。同年7月1日、志染村と合併し現在に至っている。市制施行当時の人口は、3万9千余人で、7千8百世帯であった。

時間じくして、それまで各種単体であった体育・スポーツ団体がこの時7月1日に、初代会長井本政夫氏を迎え、三木市体育協会が結成された。当初の加盟団体は、陸上競技・排球・軟式庭球・野球・柔道・剣道・卓球の7種目団体であった。

市制が施かれた年、市内各地区の親睦と職場のレクリエーションに資する第1回職域対抗バレーボール大会が三木中学校特設コートに於て、選手・応援300人が参集の中、熱戦が繰り広げられ、細川小・中学校連合チームが優勝した。この大会が、バレーボールが三木市に於て普及するきっかけとなった。

昭和30年、まだまだ生活水準も高くない時代であったが、三木市では時代の先端を行くスキー教室を、第1回スポーツ教室として峰山ゲレンデに於て開催している。

同年7月に第1回市民排球大会が排球協会の主催で開催された。

昭和32年9月22日に、念願であった第1回三木市民総合体育大会が、三木中学校・三樹小学校・三木高等学校で三木市体育協会の主催で行なわれる運びとなり、陸上競技・排球・庭球・野球・柔道・剣道・卓球の7種目団体、1,500人の参加で盛大に行なわれ、三木B地区の優勝で幕を閉じた。

昭和33年2月23日に、三木市陸上競技協会の主催による、市内一周駅伝大会が開催された。現在は、交通量の増加により行なわれなくなったが、代って42年2月11日に第1回建国記念市民ロードレース大会が開催された。この大会は、今もなお継続されて、昨年の第19回大会には参加者が2,000人を超える冬の一大行事へと発展してきている。

昭和40年10月10日の体育の日には、第1回三木市民ハイキングが、健康と体力づくりを目的として行なわれ、昨年で19回を数え、家族づれの参加も多く好評である。この頃から、体育協会の地道な努力が実を結び、優秀な選手が育ち始めてきた。そこで、43年7月に「三木市民スポーツ最高賞選定規則」が制定され、協会からの推薦により、優秀選手を表彰する準備がなされた。

昭和43年には、県立三木高等学校空手道部OBを主体とした、空手道同好会が結成され、三木市体育協会に加盟し、8種目団体となる。

その年の10月に、協会は衣巻前会長の突然の死去により役員会を開催し、三代目会長に鷺尾弘志氏、副会長兼理事長に大林嘉蔵氏、副会長横山昇氏、理事に、前田薫氏、渋谷守氏、岡野清氏、岡田逸治氏、以上のように決定した。

昭和44年11月23日に、第1回三木市民家庭バレーボール大会が、三樹小グラウンドに於て75チームの参加で開催された。この大会は、市民の健康意識の高揚と相まって、三木市の社会体育を代表する行事となり、昨年の第19回大会では、参加チーム数173チーム、参加者数2,000人という一大行事にまで発展していった。この三木市におけるバレーボール熱は、他市に類を見ないものがある。そのバレーボール熱に支えられて、昭和48年12月には三木中学校男子バレーボール部が、大阪商大付属高校で行なわれた近畿大会で優勝、翌年8月には、東京で行なわれた全国

中学生バレーボール大会で準優勝という輝かしい成績を取めた。近年では、昭和 57 年 12 月、「排釜会」が近畿クラブバレーボール連盟発足記念大会で優勝、昭和 58 年 9 月には、全国家庭婦人バレーボール大会に於て、「自由が丘ママさんクラブ」が銀メダルを受彰という栄誉に輝いた。又、昭和 52 年 2 月には、三木市のバレーボール熱は益々さかんになって、市民大会を開催するうえで審判員が不足し運営に支障をきたすようになってきた。そこで、三木市体育指導員の主管でバレーボールの正しい理解と審判員の不足解消を目的として、三木市民家庭バレーボール審判員養成講習会が開催された。

昭和 48 年 4 月には、三木市水泳協会が、三木市体育協会に加盟。そして、翌 49 年 8 月 17 日に第 1 回三木市民水泳大会が同協会の主催で、三木中学校プールに於て開催された。

昭和 48 年 4 月 18 日に、三木市の市木（松）市花（さつき）を制定された二周年記念として、普及と緑化運動を推進するために、三木市民ハイキングが、市役所→城山橋→跡部→加佐のコースで行なわれた。

昭和 49 年 2 月には、スポーツ少年団を中心に、第 1 回少年サッカー大会が、三樹小、三木小学校のグラウンドに於て開催される。同年 4 月、三木サッカー協会が、三木市体育協会に加盟する。

昭和 49 年 6 月 30 日に、三木市制 20 周年記念体育大会が、三木市体育協会の主催で市民 1,500 人が参加し、県立三木高等学校グラウンドを主会場として開催され、開会式で永く三木市の社会体育・スポーツに貢献された方々に感謝状を贈る。

昭和 49 年頃、社会体育施設面では、まだまだ不十分であったが、スポーツ・レクリエーションの普及には、体育施設の整備は必須の事項であると市当局に訴え、市当局と地元住民の協力もあって、昭和 51 年 10 月 1 日には別所町巴に野球場・テニス兼バレーボールコートが、昭和 52 年には、三木勤労者体育センターが、昭和 56 年には、自由が丘コミュニティーセンターと高木コートがオープンするなど、まだまだ不十分であるが徐々に施設は整い始めている。特に、三木勤労者体育センターが建設されたことによって、今まで離れた会場ごとにしか開催できなかった大会も市民体育館との併用で、より効果を発揮するようになった。

昭和 52 年 8 月 21 日には、三木市民バドミントン大会が、三木バドミントン協会の主催で開催される。翌 53 年 4 月に三木バドミントン協会が、三木市体育協会に加盟、同年 7 月には、第 1 回家庭婦人バドミントン教室が、技術の普及と会員の募集を目的として行なわれた。

昭和 53 年 8 月 27 日には、第 1 回三木市民ソフトボール大会が、三木市ソフトボール協会の主催で行なわれた。翌 54 年 4 月に三木市ソフトボール協会が、三木市体育協会に加盟。昭和 58 年 10 月 23 日には、第 25 回兵庫県都市対抗ソフトボール大会が三木市で県下 19 市町を迎えて開催された。この大会で三木市代表の「緑が丘西三丁目チーム」が準優勝をするなど、ソフトボール熱も年々高まっている。

昭和 55 年 5 月には、三木市硬式庭球協会が、三木市体育協会に加盟。昭和 57 年 9 月、同協会主催の硬式テニス市民大会が高木コートで開催された。

昭和 59 年 11 月現在の体育協会は、鷺尾会長のもとに陸上競技・排球・軟式庭球・野球・柔道・剣道・卓球・空手道・水泳・サッカー・バドミントン・ソフトボール・硬式庭球（テニス）の 13 種目団体が加盟し、昭和 59 年 7 月 1 日には、市制 30 周年記念市民総合スポーツ大会（成績は別表参照）を開催するなど活発な活動が続けている。一方、競技種目においてもその活動は年々盛んになってきている。

三木市体育協会歴代役員名簿

役 職 名		昭和29年度	昭和30年度	昭和31年度	昭和32年度	昭和33年度
会 員	会 長	井 本 政 夫				→
	副 会 長					
	副会長(理事長)					
	副会長(副理事長)					
	会 計					
	監 査					
	監 査					
	理 事					
	〃					
	〃					
	〃					
	〃					
	〃					
	〃					
事 務 局	主 事	寺 本 勇 善				→
	書 記	横 山 正 三				→
	〃	梨 原 宗 純				→
	〃					

役 職 名		昭和34年度	昭和35年度	昭和36年度	昭和37年度	昭和38年度
会 員	会 長	井 本 政 夫		→	衣 巻 顕 明	→
	副 会 長					
	副会長(理事長)					
	副会長(副理事長)					
	会 計					
	監 査					
	監 事					
	理 事					
	〃					
	〃					
	〃					
	〃					
	〃					
	〃					
事 務 局	主 事	寺 本 勇 善				→
	書 記	横 山 正 三				→
	〃	梨 原 宗 純				→
	〃					

役 職 名		昭和39年度	昭和41年度	昭和42年度	昭和43年度	昭和44年度
会 長		衣 卷 顕 明	----->		鷺 尾 弘 志	〃
副 会 長					横 山 昇	〃
副会長(理事長)					大 林 嘉 蔵	〃
副会長(副理事長)						
会 計						
監 査						
監 査						
理 事					前 田 薫	〃
〃					渋谷 守	〃
〃					岡 野 清	〃
〃					岡 田 逸 治	〃
〃					武 川 茂 夫	〃
〃					藤 原 正 明	〃
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
〃						
事務局	主 事	横 山 正 三	横 山 正 三	〃	横 山 正 三	〃
	書 記	小 池 清 三	池 村 幸 隆	〃	池 村 幸 隆	〃
	〃	赤 松 輝	吉 永 七 郎	〃		田 中 宏 道
	〃					

役 職 名		昭和45年度	昭和46年度	昭和47年度	昭和48年度	昭和49年度
会	長	〃	〃	鷺 尾 弘 志	〃	鷺 尾 弘 志
副	会 長	〃	〃	横 山 昇	〃	横 山 昇
副	会長(理事長)	〃	〃	大 林 嘉 藏	〃	大 林 嘉 藏
副	理 事 長			渋谷 守	〃	渋谷 守
会	計			中 嶋 将 雄	〃	中 嶋 将 雄
監	査			宮 脇 義 昌	〃	宮 脇 義 昌
監	査			池 田 哲 雄	〃	池 田 哲 雄
理	事			小 倉 滋	〃	小 倉 滋
〃	〃	〃	〃	前 田 薫	〃	前 田 薫
〃	〃	〃	〃	池 町 早 苗	〃	池 町 早 苗
〃	〃	〃	〃	衣 川 堯 之	〃	衣 川 堯 之
〃	〃	〃	〃	岡 田 逸 治	〃	岡 田 逸 治
〃	〃	〃	〃	井 口 威和緒	〃	井 口 威和緒
〃	〃			岡 野 清	〃	岡 野 清
〃	〃			常 深 陽太郎	〃	常 深 陽太郎
〃	〃			池 町 耕 一	〃	池 町 耕 一
〃	〃			岡 森 晴 夫	〃	岡 森 晴 夫
〃	〃			大 豊 次 郎	〃	大 豊 次 郎
〃	〃			野 田 義 一	〃	野 田 義 一
〃	〃			木 島 昌 伸	〃	藤 田 貢
〃	〃				山 村 富 和	山 村 富 和
〃	〃				服 部 武 司	服 部 武 司
〃	〃					塩 田 満
〃	〃					今 井 正 人
〃	〃					
〃	〃					
〃	〃					
〃	〃					
事務局	主 事	横 山 正 三	〃	〃	〃	横 山 正 三
	書 記	池 村 幸 隆	森 本 吉 治	〃	〃	森 本 吉 治
	〃	沢 井 一 男	戸 田 明 義	〃	〃	戸 田 明 義
	〃					黒 井 敏 男

役 職 名	昭和50年度	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度
会 長	〃	鷺 尾 弘 志	〃	鷺 尾 弘 志	〃
副 会 長	〃	横 山 昇	〃	横 山 昇	〃
副会長(理事長)	〃	大 林 嘉 蔵	〃	大 林 嘉 蔵	〃
副 理 事 長	〃	渋谷 守	副会長(副理事長)	渋谷 守	〃
会 計	〃	中 嶋 将 雄	〃	中 嶋 将 雄	〃
監 査	〃	宮 脇 義 昌	〃	宮 脇 義 昌	〃
監 査	〃	池 田 哲 雄	〃	池 田 哲 雄	〃
理 事	〃	小 倉 滋	〃	河 合 正 美	〃
〃	〃	前 田 薫	〃	池 町 早 苗	〃
〃	〃	池 町 早 苗	〃	前 田 薫	〃
〃	〃	土 出 勝	〃	小 倉 滋	〃
〃	〃	藤 原 淳 作	〃	広 田 勇	〃
〃	〃	井 口 威和緒	〃	土 出 勝	〃
〃	〃	永 尾 隆 保	〃	井 口 威和緒	〃
〃	〃	常 深 陽太郎	〃	永 尾 隆 保	〃
〃	〃	池 町 耕 一	〃	藤 原 淳 作	〃
〃	〃	岡 森 晴 夫	〃	野 田 義 一	〃
〃	〃	野 田 義 一	〃	藤 田 貢	〃
〃	〃	藤 田 貢	〃	今 井 隆 之	〃
〃	〃	山 村 富 和	〃	山 村 富 和	〃
〃	〃	服 部 武 司	〃	服 部 武 司	〃
〃	〃	小 山 伊 一	〃	小 山 伊 一	〃
〃	〃	横 山 誠 一	〃	平 田 義 則	〃
〃	〃	河 合 正 美	〃	玉 木 芳 弘	〃
〃	〃	告 野 嘉 朗	〃	高 力 孝 行	〃
〃	〃	竹 内 齊 克	〃		大 塚 美智夫
〃	〃	上 崎 長太郎	〃		前 田 友 子
〃	〃			竹 内 齊 克	〃
〃	〃			鹿 森 修 男	〃
〃	〃			玉 井 俊 夫	〃
〃	〃			池 町 耕 一	〃
〃	〃				
〃	〃				
〃	〃				
〃	〃				
〃	〃				
事 務 局	主 事	〃	森 本 吉 治	〃	〃
	書 記	〃	戸 田 明 儀	〃	佐 藤 雅 勝
	〃	〃	黒 井 敏 男	〃	〃
	〃	〃	生 田 達 雄	〃	〃

役 職 名	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度
会 長	鷺 尾 弘 志	〃	鷺 尾 弘 志	〃	鷺 尾 弘 志
副 会 長	横 山 昇	〃	横 山 昇	〃	横 山 昇
副会長(理事長)	大 林 嘉 蔵	〃	大 林 嘉 蔵	〃	大 林 嘉 蔵
副会長(副理事長)	渋谷 守	〃	渋谷 守	〃	渋谷 守
会 計	中 嶋 将 雄	〃	中 嶋 将 雄	〃	中 嶋 将 雄
監 査	宮 脇 義 昌	〃	宮 脇 義 昌	〃	宮 脇 義 昌
監 査	池 田 哲 雄	〃	池 田 哲 雄	〃	池 田 哲 雄
理 事	河 合 正 美	〃	河 合 正 美	〃	池 町 早 苗
〃	池 町 早 苗	〃	池 町 早 苗	〃	五百蔵 征 幸
〃	前 田 薫	〃	前 田 薫	〃	前 田 薫
〃	小 倉 滋	〃	小 倉 滋	〃	小 倉 滋
〃	広 田 勇	〃	松 井 藤 男	〃	上 崎 長太郎
〃	土 出 勝	〃	山 本 晃 一	〃	山 本 晃 一
〃	井 口 威和緒	〃	佐 藤 充	〃	佐 藤 充
〃	佐 藤 充	〃	中 川 清 矩	〃	財 田 佳 朗
〃	藤 原 淳 作	〃	藤 原 淳 作	〃	藤 原 淳 作
〃	藤 田 貢	〃	野 田 義 一	〃	野 田 義 一
〃	今 井 隆 之	〃	藤 田 貢	〃	佐 藤 綱 紀
〃	山 村 富 和	〃	今 井 隆 之	〃	今 井 隆 之
〃	服 部 武 司	〃	山 村 富 和	〃	山 村 富 和
〃	小 山 伊 一	〃	服 部 武 司	〃	神 崎 良 雄
〃	平 田 義 則	〃	小 山 伊 一	〃	石 丸 和 馬
〃	高 井 孝 行	〃	内 田 忠 志	〃	内 田 忠 志
〃	吉 田 一 茂	〃	高 井 孝 行	〃	高 井 孝 行
〃	大 塚 美智夫	〃	上 田 正 人	〃	上 田 正 人
〃	酒 井 友 子	〃	大 塚 美智夫	〃	大 塚 美智夫
〃	長曾我部次郎	〃	酒 井 友 子	〃	立 山 亘
〃	竹 内 秀 夫	〃	長曾我部次郎	〃	長曾我部次郎
〃	竹 内 齊 克	〃	石 原 義 勝	〃	石 原 義 勝
〃	鹿 森 修 男	〃	岡 田 哲 臣	〃	玉 井 俊 夫
〃	玉 井 俊 夫	〃	鹿 森 修 男	〃	片 嶋 次 郎
〃	池 町 耕 一	〃	玉 井 俊 夫	〃	岸 本 博 介
〃	告 野 嘉 朗	〃	片 嶋 次 郎	〃	告 野 嘉 朗
〃		実 井 憲 二	実 井 憲 二	〃	池 町 耕 一
〃			告 野 嘉 朗	〃	魚 住 正 男
〃			池 町 耕 一	〃	
〃			魚 住 正 男	〃	
事 務 局	主 事	森 本 吉 治	〃	森 本 吉 治	西 山 博 文
	書 記	佐 藤 雅 勝	〃	西 山 博 文	佐 藤 雅 勝
	〃	黒 井 敏 男	〃	佐 藤 雅 勝	黒 井 敏 男
	〃	生 田 達 雄	〃	黒 井 敏 男	岩 崎 国 彦

昭和59年度役員

会 長



鷺尾 弘 志

副 会 長



横 山 昇

副会長兼理事長



大 林 嘉 蔵

副会長兼副理事長



渋 谷 守

会 計



中 嶋 将 雄

監 査



宮 脇 義 昌

監 査



池 田 哲 雄

理 事



前 田 薫



小 倉 滋



池 町 早 苗



五百蔵征幸



上崎長太郎



山本晃一



佐藤 充



財田佳朗



藤原淳作



野田義一



佐藤綱紀



今井隆之



山村富和



神崎良雄



石丸和馬



内田忠志



高井孝行



上田正人



大塚美智夫



立山 亘



長曾我部次郎



石原義勝



玉井俊夫



片鳴次郎



岸本博介



告野嘉朗



池町耕一



魚住正男

事務局



西山博文



佐藤雅勝



黒井敏男



岩崎国彦

三 木 市 体 育 功 労 者 表 彰

(順不同)

年次	兵庫県体育指導 委員功労者表彰	兵庫県体育協会 功 労 者 表 彰	東 播 磨 体 育 指 導 委 員 功 労 者 表 彰	三木教育功労者 教育委員会表彰	三 木 市 民 ス ポ ー ツ 最 高 賞	感 謝 状 贈 呈 者
42				三木野球協会		市制20周年 功労者表彰 澁谷 守 市制25周年記念大 会功労者感謝状贈 呈者 小倉 滋 前田 薫 池町 耕一 池町 早苗 井口威和緒 宮脇 義昌 池田 哲雄 中嶋 将雄 藤田 貢 山村 富和 服部 武司 告野 嘉朗 竹内 斉克
44	澁谷 守					
47				井口威和緒、横山 昇、戸田 俊一 魚住 正男、池町 耕一、藤原 正明	〔個人〕 小原強志(陸上)、平井可津代(陸上)	
48				魚住 正男 高橋 正造、河合 正美 丸山愛之助	〔団体〕 三木中学校男子バレーボール部 〔個人〕 澁谷俊司(水泳)、泉 秀和(水泳)	
49					〔団体〕 三木中学校男子バレーボール部、三木フットボールクラブ 〔個人〕 山村祐一(水泳)、黒田静男(水泳)、出雲 誠(水泳)	
50				澁谷 守、岡田 逸治	〔団体〕 三木クラブ(バレーボール)、三木市スポーツ少年団サッカー部、口吉川スポーツ少年団女子 サッカー部、三木SSS(サッカー)、三樹スポーツ少年団6年、星陽中サッカー部、県立三 木高空手道部、県立三木高山岳部、三木中学校サッカー部、三木中学校テニス部 〔個人〕 金鹿玉緒(陸上)、藤井晃正(陸上)、名倉正憲(水泳)、河中好之(陸上)、藤原貴代(水泳)、大 東美恵子(水泳)	
51			池町 早苗	池町 早苗	〔個人〕 福本政浩(水泳)、戸田光則(水泳)	
52				大林 嘉蔵、前田 薫、岡森 晴夫 常深陽太郎、池町 耕一、池田 哲雄	〔団体〕 三木中学校男子バレーボール部、緑が丘中学校サッカー部、三木中学校水泳部男子リレー メンバー、朝日ヶ丘スポーツ少年団(サッカー) 〔個人〕 金鹿玉緒(陸上)、磯野恵理子(水泳)、小坂良子(水泳)、藤田晴子(水泳)	

三 木 市 体 育 功 労 者 表 彰

(順不同)

年次	兵庫県体育指導 委員功労者表彰	兵庫県体育協会 功 労 者 表 彰	東播磨体育指導委員 功 労 者 表 彰	三木市教育功労者 教育委員会表彰	三 木 市 民 ス ポ ー ツ 最 高 賞	感謝状贈呈者
53				横山 昇、井口威和緒	〔個人〕 八木睦美(陸上)	市制30周年記念大会 功 労 者 表 彰 大林 嘉蔵 横山 昇 前田 薫
54			池町 耕一	河合 正美、宮脇 義昌	〔団体〕 キャンディーズ(女子ソフトボール)、三木中学校男子バレーボール部 〔個人〕 藤本哲也(水泳)、高橋真利(水泳)、内山直美(水泳)、栗林英夫(水泳)、荒川興子(水泳)	感謝状贈呈者 鷲尾 誠 藤井 晃正 渋谷 博生 河合 正美 岡田 正一 池町 早苗 渋谷 守 上崎長太郎 広田 勇 土出 勝 坂田 憲治 山本 晃一 三宅 祐治 三宅 得之 永尾 隆保 武川 茂夫 武川 正英 今井 隆之 服部巳代基 小紫 邦夫 高橋 洋三 須藤 正寿 玉井 俊夫 荒川 三治 神崎 良雄 横山 誠一 塩田 満 飯田 弘次 松沢 功 藤木 義和 吉田 一茂 大塚美智夫 酒井 友子 西坂 豊 原 春男 佐藤 充 長曾我部次郎
55	魚住 正男 池町 耕一	井口威和緒	池田 哲雄 寺本 興道 魚住 正男		〔団体〕 三木中学校駅伝競走部、三木中学校男子バレーボール部 〔個人〕 八木睦美(陸上)、金鹿玉緒(陸上)、安随ゆかり(陸上)、横山重政(陸上)、藤本由雄(水泳)、 温湯奈緒美(水泳)、若杉多江子(水泳)、大西智子(水泳)、福本信浩(水泳)、高木 耐(水泳)、 長田由美(水泳)、村松律子(陸上)	
56	寺本 興道	大林 嘉蔵	山村 富和 藤原 淳作	山村 富和 中嶋 将雄	〔団体〕 別所中学校サッカー部、三木バドミントンチーム、三木排釜会、県立三木高女子水泳部 〔個人〕 安随ゆかり(陸上)、切原孝治(陸上)、赤松哲次(陸上)、形本ゆかり(剣道)、清水義一(水泳)、 藤田晴子(水泳)、増家秀彦(水泳)、沢田あゆみ(水泳)、大東大樹(水泳)、森本真由美(水泳)、 井上豊和(水泳)、市枝郁子(水泳)	
57	藤原 淳作	前田 薫		藤原 淳作 池町 早苗	〔団体〕 別所中学校サッカー部、緑が丘西3丁目同好会(ソフトボール)、三木中学校相撲部、三木 排釜会(バレーボール)、緑が丘中学校陸上部リレーメンバー 〔個人〕 永尾嘉章(車イス・スラローム)、赤松哲次(陸上)、栗林英夫(水泳)、戸田香織(陸上)、徳平 一郎(水泳)、片岡伸二(相撲)、滝谷美津子(陸上)、横山重政(陸上)、金鹿玉緒(陸上)	
58	池田 哲雄	渋谷 守		服部 武司 小倉 滋	〔団体〕 緑が丘西3丁目同好会(ソフトボール)、県立三木高男子バレーボール部、県立三木高サッ カー部、県立三木東高女子陸上競技部、三木中学校相撲部、三木排釜会(バレーボール)、 三木自由が丘M. C. (バレーボール) 〔個人〕 今福仁志(陸上)、滝谷美津子(陸上)、本岡弘隆(陸上)、山田勝美(陸上)、坪田義智(相撲)、 新倉優美(陸上)、稲田百寿(水泳)、浜口佳美(陸上)、上田純子(陸上)、山本隆一(水泳)、 末瀬 文(水泳)、徳平一郎(水泳)、永尾嘉章(車イス・スラローム)	
59	山村 富和		高井 孝行 竹内 斉克			

三木市体育・スポーツ年度別主な出来事

年	月 日	行 事
29	6. 1	三木市制施行（（美の郡三木町、別所村、細川村、口吉川村合併）
	7. 1	三木市と志染村合併
29	7. 1	三木市体育協会発足 加盟団体：陸上競技協会、排球協会、庭球協会、野球協会、柔道協会、剣道協会、卓球協会 7団体
30	2.	第1回スポーツ教室（スキー） 於：峰山ゲレンデ
	7. 4	第1回市民排球大会 （主催 排球協会） 16チーム参加 於：三木中グラウンド
32	4. 17	第1回別所公春まつり協賛スポーツ大会 青年団史跡マラソン大会、相撲大会他
	9. 22	第1回三木市民総合体育大会 （主催 三木市、体育協会） 1,500人参加 於：三木中学校、三樹小学校、県立三木高校
	11. 3	第1回三木女子排球大会 （主催 市教委、排球協会） 於：中央公民館広場
33	2. 23	三木市駅伝大会 （主催 陸上競技協会）
40	10. 10	第1回三木市民ハイキング （主催 三木市、体育協会）
42	2. 10	第1回建国記念三木市民ロードレース大会 （主催 三木市、体育協会）
	3.	三木市民運動場オープン （県立三木高校体育館グラウンド市へ移管される）
43	4.	三木空手同好会発足し体育協会に加盟する
	7.	三木市市民スポーツ最高賞選定規則制定
44	11. 23	第1回三木市民家庭バレーボール大会 （主催 三木市、体育協会） 75チーム参加 於：三樹小グラウンド
45	11. 3	三木市民憲章公布
47	10. 8	自然歩道設定記念 三木市民ハイキング

年	月 日	行 事
48	4 .	三木市水泳協会発足し、体育協会に加盟する。
	4 . 18	市木制定2周年記念 三木市民ハイキング
	12 . 15	三木中男子バレーボール部 近畿大会優勝 於：大阪商大付属高校
49	2 . 1	第1回少年サッカー大会 (主催 サッカー協会) 23チーム参加
	4 .	三木サッカー協会、体育協会に加盟する。
	5 . 19	市制20周年記念協賛第6回三木市民家庭バレーボール大会 126チーム参加
	6 .	三木市制20周年記念体育大会。 陸上 170名 野球 100名 庭球 160名、バレーボール 208名 柔道 100名 剣道 200名 空手 50名 サッカー 500名 参加
	8 . 15	三木中男子バレーボール部全国大会出場 成績 準優勝
50	8 . 17	第1回三木市民水泳大会 (主催 水泳協会) 於：三木中プール
	9 . 7	東播家庭バレーボール大会 (主催 東播体育指導委員会) 末広チーム優勝 於：西脇高グラウンド
	10 . 5	第1回三木市老人会連合会体育大会 (主催 老人会連合会) 於：市民グラウンド
	11 .	第23回全国青年大会出場 種目 バレーボール 成績 全国7位 於：東京体育館
51	10 . 1	ともえ運動公園オープン 野球場、テニス兼バレーボールコート
52	2 . 11	建国記念三木市民ロードレース10周年記念大会 於：県立三木高校
	2 . 13	第1回三木市家庭バレーボール審判員講習会 (主催 体育指導委員会) 受講者66名 於：市消防庁舎会議室
	5 . 25	三木勤労者体育センターオープン
	8 . 21	第1回三木市民バトミントン大会 (主催 バトミントン協会)
	11 . 13	三木ライオンズクラブ創立15周年記念 スポーツ巡回車受贈
	11 . 27	第1回三木市民硬式テニス(ダブルス)大会
	4 .	三木バトミントン協会、体育協会に加盟する。
	4 . 30	第1回三木市民硬式テニス(シングルス)大会 (主催 硬式庭球協会)
	7 .	第1回家庭婦人バトミントン教室 (主催 バトミントン協会)
	8 . 27	第1回三木市民ソフトボール大会 (主催 ソフトボール協会)

年	月 日	行 事
54	3 .	第1回市民ゲートボール教室 (主催 教育委員会)
	4 .	三木市ソフトボール協会 体育協会に加盟する。
	5 .	スポーツ広場 (660㎡) オープン 三樹小学校東側
	7 . 1	三木市制25周年記念総合体育大会 (主催 三木市、体育協会) 陸上、卓球、バレーボール、剣道、サッカー、野球、ソフトボール、バトミントン、 テニス、空手、柔道 (8/26水泳…三木中プール) 於 県立三木高校、市民グラウンド、市民体育館、勤労者体育センター
55	1 .	市民健康マラソン (主催 陸上競技協会) 於：県立三木高校周辺コース
	5 .	三木硬式庭球協会 体育協会に加盟する
	7	大規模年金保養基地「グリーンピア三木」オープン
56	4 .	自由が丘コミュニティセンター体育館オープン 高木公園テニスコートオープン
	10 .	第1回三木市民剣道大会 (主催 剣道連盟) 於：市民体育館
	7 . 25	第31回国際ストークマンデビル 車イススローラム世界新 永尾嘉章氏 於：英国ロンドン
	8 . 21	全国中学サッカー大会 別所中学校サッカー部出場 於：松山市
57	9 . 26	市民硬式テニス教室 (主催 硬式テニス協会) 於：高木テニスコート
	12 . 12	近畿クラブバレーボール連盟発足記念大会 優勝 排釜会
	2 . 11	第1回三木市民女子駅伝大会 (主催 陸上競技協会) 於：グリーンピア三木
	9 . 5	全国家庭婦人バレーボール大会 準優勝 (銀メダル) 自由が丘M.C 於：東京都
	10 . 5	全日本中学校相撲選手権大会 三木中学校相撲部出場 於：東京都
	10 . 25	第25回県都市対抗ソフトボール大会 (主管 ソフトボール協会) 於：三木北高校、緑が丘東小グラウンド
	11 .	三木城跡内トリムランニングコースオープン (国民健康体力増強補助事業) 2000m往復コース
	4 .	わんぱく広場オープン (身近な運動広場整備事業) 2096㎡
	7 . 1	市制、体育協会設立30周年記念三木市民総合スポーツ大会 陸上、野球、排球、卓球、軟式庭球、柔道、剣道、空手、サッカー、バトミントン

年	月	日	行	事
	8.		ソフトボール、硬式庭球（8/26水泳） 近畿中学校総合体育大会相撲大会 三木中学校相撲部団体、個人優勝	於：高砂市
	11.	4	第1回三木市小学生陸上競技選手権大会	（主催 陸上協技協会）

30年をふりかえって（談）

体育協会初代会長 井本政夫

「このたび、協会30周年記念誌の発刊にあたり、今も井本刃物株の会長としてご活躍中の初代会長の井本政夫さんを訪問。当時のお話しをお伺いいたしました。」

——大変お忙しい中ですが、初代会長をなさっておられたときの思い出などをお聞かせ願いたいのですが。

井本—昔のことで大部分忘れていますが、私が体育協会長に就任したことは、軟式野球に関係していたことと、市議会議長をしていたことから体育協会長を務めることになりました。

——その当時、協会の仕事にかかわっておられた方々は…。

井本—教育委員会の梨原君が中心となっていたようですが、彼が何か残しておりませんか。その他郵便局に務めておられた若田さん、野球の染さん、それから田中さん、排球では大内さん、渋谷さん、陸上では前田さんかな……全部思い出せませんが。

——創設時も含め会長時代の御苦労話がありましたら…。

井本—一番の思い出は、なんといっても第1回三木市民総合体育大会では色んなことがありました。金は無いらしい、私と梨原君と若田さんと3人で、主なところに寄付集めに回りました。若田さんが会計で梨原君が事務をしておりました。

——その時の体育大会はどんなものでしたか。

井本—盛大な催しものでしたが、何ぶん当時この様な催しは、主催者も又参加する方も初めてなので競技ルールにうとい者ばかりなので色んなことがありました。開会式の時、国旗掲揚の「君が代」を歌うとき2回歌って国旗を掲げて、県警のブラスバンドの人に「こんな初めて……」と言われまして……笑。

又、地下タビ、ゾウリ、向こうハチマキをして野良仕事に行く様な格好の選手もあり、今と比較になりませんし、走っている前の選手のシャツを引っばったりして妨害する選手もあり、えらいことでした……笑。そうそう、綱引きは、志染が強かったのを憶えております。それから競技進行の途中で日が暮れて途中で終わったため、得点集計がゴタゴタした思い出があります。

——大会の運営は、どんな方法でなされていたのですか。

井本—陸上競技協会があったので、協会と学校の先生が主になっておりましたが、特に下石野の前田先生にはよくやっていただいております。

——当時、三木のスポーツ界の動きはどうでしたか。

井本—今は、ほとんどのスポーツが生活の中に密着しておりますが、その当時スポーツ愛好家の集り程度でした。又、青少年の生活が戦後の混乱期のあおりで乱れており、青少年に何かさせなあかん言うて、生活に希望を持たせるとともに互助精神を養う上からチームプレーを必

とする野球を17～18才の青少年を対象にチームづくりを始めたのです。今と違って試合中にボール、グローブが盗まれたりした物資の無い時代で、練習用のボールはあっても試合のボール、グローブが無くて試合用のボール、グローブを神戸のヤミ市、大阪のヤミ市までも捜しに飛び回り中古品でもあればという様な時代で、しまいにはヤミ市に売っている電球がボールに見えてよかったですわ……笑。

—— 体育施設は十分ではなかったと思いますが、どんな様子でしたか。

井本—体育施設として専用のものはなく、三樹小のグラウンドと永代池の広場しか無かったと思います。それからくらべると今はめぐまれておりますね。

—— 今、何かスポーツをなさっておられますか。

井本—気候の良い時期には、ゴルフを親しんでおる程度です。

—— 今後、体育協会に望まれることを一言。

井本—スポーツは、健康づくり、体力づくりに今後ますます市民生活の一部となっていくと思いますので、関係者の皆様のご活躍と三木のスポーツ界のご発展をお祈りいたします。

—— ありがとうございました。

三木市体育協会をふりかえって

体育協会副会長 横 山 昇

三木市体育協会が生まれてはや30年を迎えることになり、誠に感慨深いものがあります。発足以来30年間市民の社会体育の振興はめまぐるしく発展を遂げ、今日の隆盛をみておりますことは、ご同慶に堪えません。その間、本協会に対し、ご指導をいただいた諸兄に対し厚くお礼を申し上げる次第であります。

かえりみますれば、昭和29年三木市制が施行された年に「市民生活の基盤はスポーツから」と同好の士が相集い、その産声をあげたわけであります。当初加盟団体は、7団体でしたが、30周年を迎えた今日では、13種目団体とその数を増し、着実な伸展を続けて参りました。発足以来、本協会は市の社会体育行政の一端をにないつつ、本市の体育、スポーツの振興に寄与してきたわけですが、このことは本協会の発展がとりもなおさず本市社会体育の伸展であり、本協会30年の歩みは、そのまま本市における社会体育の歩みといっても過言ではないと思います。

昭和32年秋、第1回三木市民総合体育大会に市民1,500人の参加を得て実施されましたが、これを皮切にその後年々多彩なしかも権威ある競技会が体育協会加盟の各協会を中心に開催してまいりました。特に昭和44年11月には、市民の体力づくり、健康づくりを目標として、75チームの参加のもとで第1回三木市民家庭バレーボール大会が開催され、現在の家庭バレーボールブームの一端を開き、それ以後、遊休地にはバレーボールコートを整備等が各自治会単位でなされ、休日、夜にはプレイヤーの歓声がとびかい、地域のコミュニティーづくりとして大いにその成果を発揮し、市民の日常活動の一部として定着。今も年1回の大会には、年々参加チーム数の増をみているのが現状でございます。

一方種目協会の設立も当初7種目から出発した体育協会も現在では13種目となり、単位協会での競技大会も市民のスポーツニーズから数多く開催され、休日には市内の体育施設で何らかの種目競技が開催されるなど、日常の生活の中でのスポーツ行事も盛んになって参ってきております。ここに30周年を迎えるこの機に私たち体育協会関係者は改めてスポーツの重要性を再認識し、市民のスポーツの振興と市民の健康と体力づくりをめざして一層の努力をすることを誓うものであります。

駅伝あれこれ

三木市陸上競技協会 前田 薫

三木市体協が今回30周年を迎え、年史刊行に至ったことは、誠に喜ばしい次第です。多くの先輩、役員諸氏の大きな協力と、たゆまぬ努力に対して、心から感謝の意を表します。

私たちの陸上競技協会は25年頃より有志により仮設して、美囊郡内の選手権大会を行っていましたが、兵庫陸上競技協会より要望され昭和28年9月8日に美囊郡陸上競技協会を創立し、兵庫陸協に加盟した。その当時の行事のあれこれについて書いてみたいと思います。

I. 兵庫県都市対抗駅伝競走大会について

- ① 第9回大会、とき、昭和30年1月23日、コース、赤穂市役所前——県庁議事堂前、距離93750m、区間10区間、参加、19チーム

三木市チームは初参加で、清原、清原、羽田、村上、村上、田中、西海、吉永、青木、横山諸君で、駅伝の定石に従い、スタートより前半に主力をそそぎ後半はその余勢でゴールという作戦をとる、1～3区の走者は前日より宿泊付添各1名と共に各中継所に配置する。他方応援団はバス一台をチャーターして、三木陸協のたれ幕をかがげ、24～5名が乗りこんで、当日出発加古川より国道2号線を姫路に向い、すでに赤穂をスタートして神戸に向うトップの走者とどこで出会うか、またどのチームか、三木市は何番で来るだろうか期待に心はずませバスは走る……曾根の西側にて「ああ見えた見えたぞこのチームや」と車内で大声と共に一斉に窓より首を出す、やがてトップの相生市チームが過ぎ去る、一同拍手で送り、下車して次走者を待つ、2、3、4、5位に続き6番目にあの特長のある走り方をする三木市のT君の姿が見えて来た、三木だ、三木だ、一同大喜びびでよくやった！よくやった！！大声でがんばれがんばれと、拍手と共に送り、すぐバスに乗り込み伴走に移る（自チームの後方10mのところを伴走するようきめられている）。車中より声を限りの声援を送りつつ、加古川にてN君ヘタッチ、土山にてM君へと、大久保の手前の直線コースで、次のチームが近づくと来たぞ、がんばれよとといったうちにすぐスーと抜き去った明石チームだった（あとで彼は山本長司君で区間賞をとったベテランであった）、一同アーと肝をぬかれた。明石、須磨で応援の限りをつくしたが中継ゴールへ入ったのはぬかれぬかれて遂に13位だったがよくやってくれた。来年を期待して引上げる。

- ② 12回大会、昭和33年1月19日、コース、明石一社間折り返し、71,000m、10区間参加15チームゆきは三木で7位だったがゴールで12位、残念でした。

II. 三木美囊郡一周駅伝競技大会について

第1回大会、昭和29年1月24日、8区間、参加、全10町村

各チームの伴走車はオート三輪一台、トップ走者の前方500mをマイク車を走らせ一般観衆に知らせた。レースははげしい順位あらそいを演じ結果は一位別所（3°42'30"）2位志染であった。

終りに三木陸協創設の功労者は岡崎晴夫先生（元、三木高校）です。厚く感謝の意をささげつつ筆をおきます。

柔 道

武 川 茂 夫

戦後の柔道は三木市上町にあった。松村馨先生の三木尚武館が水害の為、水浸しになり再起不能になり、私武川五段が先生のお許しを得て、門下生の私が三木警察署の道場を借りて近くの青少年を教え、三木町警察の柔道教師の傍らやったものである。

昭和27、8年頃から県立三木高校教諭、常深陽太郎氏の要請により、高校へ招かれ、生徒の柔道を指導した、それこそ精魂を傾けて指導した、21年間、東播は元より県下に三木高校柔道部ありと名を売ったものである。近畿大会に藤原二郎二段、梶山義矩二段を送ったのも昨日の様だ。それこそ常深先生と協力、苦勞したものであるが、教えた生徒数、約〇〇百名、五段以下、常深先生の御子息、加古川東高教諭の常深進次郎5段、之は日体大卒業後にマレーシアへ2年間海外指導に行き、帰国後高校の教師になり頑張っている。岡田4段も同様、大阪府警の巡査部長でアフリカへ指導に行き、頑張っている。井本五段（物故者）之は惜しい事をした。大阪で警察官していたもの。池田5段、之は私の教え子の中の逸材中の逸材で体協の役員をして現在に至っている。兵庫県警の警視木島3段は池田氏と同期、大阪経大OBの宮野4段、金井3段は県警の巡査部長何れも三木高校のOBだ。三木高校柔道部OB会は青雲会と称し寺口二段が会長になり多くの有段者を持ち頑張っている。昭和29年頃から時の市長衣巻氏を武道連盟の会長に推し、柔道は山本徳二氏と私武川、剣道は警察の西村県之助氏、岡田逸治氏、宮脇義昌氏、藤原淳作（広野小校長）氏等をようし、毎年金物祭大会を神戸新聞後援で盛大に開催した。併せて体協の傘下に入り体協の一翼を担ったものと自負しているが、整骨の本業と学校柔道が多忙になった為、体協の方は池田5段に譲ったつもりだが、武川道場は武川7段、卒先三木の青少年を引卒、昭和51年、昭和56年と再度に亘って台湾、中華民国に遠征、国際親善を果し、昭和59年末に3度目の台湾、中華民国遠征を計画している。昭和54年4月緑ヶ丘に中村3段が三木誠心館を設立、青少年指導に当たっているが、同業の縁で応援をしている。翻って最終的人間的修練の為の柔道修行に心が及ぶ時、青少年にやさしく教え、ソフトな内容を多く盛り込んだ毎日の練習こそ必要ではないか。その中でチラリと柔道のキビシさを教えこもうと思っているが仲々理想通りに行かない現状である。それには先づ初歩的な指導が出来る指導者の養成が急務であると思ふ。昭和9年4月奈良の天理中学校入学と同時に柔道部に入り柔道修業の第1歩を印した。丁度満50年になり、誠に感無量である。三木体協よりの要請により、思い出の一部を述べたまでです。

軟式テニス協会回顧録

井 口 威 和 緒

終戦当時の三木は混沌とした金物の城下町だったが戦災を衆むらなかつのと特殊な産業の町だけに復興は早かった、しかしスポーツに関しては設備等はその運営と共に遅々たるものがあったが敗戦と言う大きなショックを受け心身ともに疲れきった日本人に活を入れたのがスポーツで戦後日本のスポーツ界の勃興は目覚ましいものでした。

翻って目を地元に移してみると何れもいま一步の感がある。就中我が軟庭は遠く大正の頃から始まっていたがあまり目立たず戦後の中興は学生を除けば、昭和25年の春からで三木クラブで発足したもので、当時のコートは中学校と三木高校にしか無く、クラブ或は一般の人のふだんの練習などままならず部員は無聴をかこつばかり。

更年協会が市内の主だった企業を迎り寄附をおおぎその融出金の浄財で三木中学校東側に恒久的なコート二面を構築しこのコート開きは当時の市長を招くなどで市民コートが出来上り皆をよろこばせてくれたのも東の間で数年の後にこのコートがその頃から各学校に水泳のためのプール構築が流行しこの三木中学校でも台頭してその用地をこともあろうにせっかく造った市民コートをつぶしてそこえプールを造るという無謀さが無造作に通って我々の苦汗で出来たコートは影もなく消え去ったもので自来再三の陳情にも再現なく苦慮したものが、たまたま某企業の従業員のための厚生施設として、テニスコート2面が造設されるに当り（自分がこの企業に関連あり）我が協会が、特に申し出て毎年行う春秋二回の開催に特に開放してもらうようお願い出て許可を得るに至り、愁眉を開いたとので自後自分の在任中継続された。……

因に現在の軟庭協会の会員は、新都市街地区からの加入が多く、数百と増加し高木在に新しく出来た四面のコートでは、とてもさばききれない現状になって居ると、情報を耳にする。

三木市卓球協会を振り返って

藤 原 正 明

三木市体育協会が発足したころ、私は三木高校に勤務し卓球部の顧問であった。その関係で三木卓球協会の理事や事務局長の仕事をするようになった。昭和40年前後のころには会長となり、体育協会の役員や体育指導委員もしばらく勤めたことがある。昭和45年、転勤となり、これらの仕事から離れ、現在は卓球協会の顧問となっている。

卓球協会は、市の誕生と共に三木市卓球協会と改称し、中嶋正明君が会長、平井基一、土出勝、坂田憲一、鈴木喜久雄君らが理事で、旧三木町役場の庁舎で当時、図書館を兼ねていた公民館に集まり、理事会を開いていた。夜遅くなるとよく酒も飲んだが、そのころは、自転車が最も便利な交通用具であり、細川町の自宅まで帰ると、大抵、酔いも醒めていた。

中嶋君は、戦後、学生時代に大阪市代表として卓球大会に出場した著名選手であり、明石・加古川・高砂の各市の卓球人の間にも、よく顔を知られていたから、近年の東播七市対抗卓球大会の誕生にもいち早く参加し親善の成果をあげることができた。他の理事諸君は、三木中学や三田学園で活躍した選手であった。

30年間の卓球協会の事業を振り返ると、経済の成長に大きく影響されていたと思う。人々は仕事を大事にしてスポーツに割く時間を持てなかった。せいぜい見るスポーツで満足していたように思う。日本の卓球は世界でたびたび優勝し、日本の中央では卓球ブームが起きてはいたが、地方にまでは及ばず、低成長期となってようやく卓球人口が増えるようになった。

市民卓球大会は、当初、昭和29年には卓球用具のメーカーが所属のコーチを派遣し、優勝旗を寄贈するなど大きな援助を受けながらも、現市役所のある地にあった公民館に2台の卓球台を置いて開催したから、参加選手も僅かだったに違いない。第2回大会は、旧三木高校講堂で開催した。去る6月の市制30周年記念大会は第43回である。春秋2回開催を原則としていたが、年1回しかできない年が多かったと思う。

この間、卓球協会を支えて発展させてくれた人たちは、寺本興道、山本晃一、沢田勝、その他の若い理事諸君、緑ヶ丘から参加の理事森田博則君、女子の宮本敦子さんらで、10年以上の努力の積み重ねがあった。「継続は力なり」という言葉を改めて思うのである。

また、旧三木高校の体育館であった市立体育館や、勤労者体育センターを利用しての、市民卓球教室の開催、卓球クラブの練習、初期のころ卓球台を寄贈されたライオンズクラブ等、多くの市の関係者の目に見えないご援助があったことは忘れられない。最後に、今後、若い優秀な選手が輩出することを願うものである。

第一回三木市民

総合体育大会終る

かにその幕を閉じた。

三木市体育協会の主催、三木市、三木市教育委員会、三木市児童協議会、三木市婦人会、三木市連合青年会等の後援により、去月廿二日三木中、三木小、三木高に於て第一回の三木市民総合体育大会が開催された。この日千五百人の選手はボーイスカウト三木隊の先導、警察ブラストンドの行進曲で入場、井本大会長、小林市長、衣笠議長のあいさつに続き別所地区選手の魚住正男選手の宣誓で大会の幕を開けた。



写真(上)は警察ブラストンド(下右)挨拶する井本大会長(下左)は全小林市長



三木市職域対抗

排球大会 第一回三木女子 排球大会開かる



秋晴れの十一月三日、三木中央公民館広場に於て三木市排球協会、三木市教育委員会共催の排球大会が開催された。当日三木市役所チームも職域の部に出場したが、第一回戦に三木小中学校チームに惜しくも敗れた。

寒さを吹きとばす 体づくりに耐寒マラソン

風の子。寒さも吹き飛ばし大いにハッスル一人の落着きなく無事にゴールイン。

存を最近に接し、寒さに負けず健やかな体をつくるため、さる二月四日三木小学校では、金沢児童の耐寒マラソンを行ないました。朝の冷えが、つたつた天気に直まれ、児童たちは早業の力をためさんものと、金具大張り切り、丹生おろしの寒風で気温は四度、しかし風の子。寒さも吹き飛ばし大いにハッスル一人の落着きなく無事にゴールイン。



(写真は、元気に走る児童たち)

二月二十三日

三木市陸上競技協会 主催

三木市陸上競技協会(会長久米孝二氏)では来る二月二十三日(雨天の際は三月二日)に市内一周駅伝大会を開催する。

市民会館の位置近く決定 高校運動場跡 市民運動場に

かねてより強い要望のありまし
た市民会館の建設事業については
昭和四十二年度に起債が認可され
る見通しとなりましたので、着工
にかかるべく現在その位置、規模
内容等について検討を加えており
、会館の建設にあたっては、不必
要に豪華にすることをし、み
気楽に使える市民会館とする方針
で、建設場所の選定についても、
市内の他施設との関連性、市民の
寄りやすい場所、将来の計画との
かねあい等総合的な観点から決定
する考えであります。

体力づくり運動推進大会

別所町公民館

「わたしたちは、生まれてきて
よかったと実感ができるような一
日一日を迎えたいと願う。そのた
めには、なによりも健康でなけれ
ばならない。身体的に、精神的に
も社会的にも健康でなければなら
ない。その意味における健康こそ
人間共通の切なる願いである、と
ころが現実はどうであらうか見か
ける体格は大きくなり、立派に見
える。しかし、身体的機能や運動
能力がそれに伴っていない……
」と、健康教育書の中で「各教育
長が書かれておりますが、わたし
たちは誰もが太陽の光に明るく
大地のように限りなく力強い人間
になりたいと願っている。
幸福と進歩も、このような「強
く逞ましい人間」にこそ、支えら
れるものであります。文明は日一
日と進歩しています。しかし文明
は命を奪っていく反面、人間の
身体を弱くし心をむしばみます。
わたしたちの健康、体力は、他
人から与えられるものではなく、
自らが造り出さねばなりません。
別所町では、地域ぐるみで日常
生活の中に健康、体力づくりの営
みをとり入れ、習慣的にこれを持
続していくよう、この運動を展開
していこうとしています。そのス
タートとして、去る四月二十八日
「体力づくり運動推進大会」を開
催、あわせて「体力診断テスト」
を実施しました。その結果、全般
的に体力の衰えが目立っています
また、この運動の展開にあつた
て、各郡団体から推進委員を委嘱
し、体力づくり運動指導員を組織
して、住民運動として広く活動し
ていきたい。毎日の生活に幸福と
満足を得て、豊かな人生をつく
るために、この運動に進んで参加
していただきたい。



子どもの遊び場をつくろう

新設に固定資産税の免除
— 遊具の購入に補助金交付

めまぐるしい交通の発達に伴
い、その事故は日まに増加の一
途をたどっています。
子どもを交通事故から守るため
路上遊びが追放され、外に広場が
ないので家庭でテレビの前で座り
込む子どもが多くなりました。
昨今では、子どもの遊び場が重要
な社会問題の一つとなっています
市および市社会福祉協議会では
子どもの遊び場づくりを奨励して
おります。子ども会や公民会、町
内会などにおいて、子どもに健全
な遊び場をあたえることに協力
ください。
遊び場の新設には、固定資産税
の免除を受けることができ、遊具
を購入するときは、その二分の一
の費用を市から補助金を交付
することになりましたから福祉事
務所へお申し出ください。
(写真は別所町公民館で)

3月15日～9月13日

科学と文化の祭典

日本万国博開幕

万国博覧会は、世界の国々が科学や文化の成果を一堂に展示し、相互の交流を通じて世界の平和と繁栄をめざす、きわめて意義深い祭典です。

その歴史は、一八五一年ロンドンで第一回が開催されて以来二世紀を越え、その間、欧米の各地で大規模なものだけでも二十数回にわたって開かれてきました。

そして、それぞれの時代の進歩を確認するとともに、新しい発展への強い刺激を促し、人類の進歩に大きな役割を果たしてきました。

万国博は、その輝かしい歴史の中で、数多くの製品や技術を生み人びとの生活を大きく変えてきましたが、ミシンや自動車、テレビ、ナイロン、プラスチックなどは、その良い例です。

また、建築や都市計画の面に多くの影響を与え、同時に、国際間の文化交流の場として活躍してきました。

日本万国博は、このような万国博の歴史と伝統のもとに、その成果の上に立ってアジアではじめて開かれるものです。

では、万国博のどのような見方などを紹介します。

○万国博のしようすな見方

会場は三三〇万平方メートルあつて甲子園球場が八〇数個もはいる広さです。

しかも会場にひろがる一〇〇以上の展示館とおもな施設を全部みるには、どうしても七日から十日は必要とされています。そこで一日か二日間の限られた時間でみようとすれば、前もって会場についての知識を持ち、対象を絞って能率よく回るように計画しておくことがたいせつです。

そこで、つぎの点に心がけて計画を立ててください。

一、日曜、祭日はできるだけ避けて、シーズンでは六・七月が比較的によい。

一、ぜひ見たいところを朝のうちにするませ、あとはエキスポサイバスや電光掲示板で見学しやすいくところを知る。

一、半額料金で入れる夜間見学を上手に使う。

一、催し物やナショナルデーなどその日のプログラムを事前に十分調査する。

一、入場券は、会場以外の販売店で求めておいて、会場出入口で時間をとられないようにする。

バスその他効率的な輸送手段を選ぶ。

一、通勤ラッシュの時間帯を避ける。

一、交通情報をよく確かめる。

一、貸切の団体バスは、割当を受けた台数しか駐車できないので早目に予約する。

つぎに、見どころですが、開幕後一カ月もすれば評価は固まってくる。そこで人気のある展示館、施設とそうでないところがあるが、これらの評価を利用して好みに合わせて、特徴ある見学プランを立ててください。

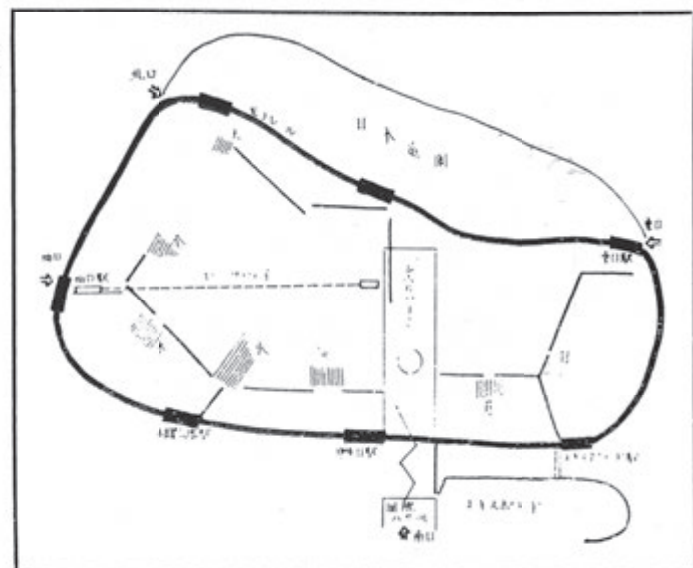
○一日見学モデルコース

一、一般コース（十時間）

中央口：テーマ館、お祭り広場
土曜広場：金曜広場、食事
水、木曜広場：火曜広場、日曜広場
油、万国博ホール
お祭り広場、夜のショー、国際パザール、ショッピング、帰路

一、世界旅行コース（十時間）

北口：金、土曜広場、水曜広場、火曜広場、日曜広場
お祭り広場、テーマ館、中央口



一、ファミリーコース（八時間）

中央口：テーマ館、お祭り広場
万国博ホール、美術館、日本庭園、食事、金、土曜広場、火曜広場、水、木曜広場、日曜広場
国際パザール、帰路

一、団体コース（十時間）

中央口：テーマ館、お祭り広場
日本庭園、食事、日、月曜広場、火曜広場、水、木曜広場、金、土曜広場、帰路

「新入学児童を
交通事故から
守りましょう」

みき 広報

昭和48年 4月 1日 発行 第216号

発行 兵庫県三木市役所 編集 総務課 電話 ② 2000番 印刷 昭文堂

春の自然に親しむ催し

市民ハイキング 参加盛況

三木市の市民ハイキング大会は十八日、開かれました。
この催しは三木市の市木（松）市花（さつき）を制定した二周年記念として普及と緑化運動を推進

するために行なわれたもので、陽春への、さきがけとして、非常に好評でした。

春の野山を歩き緑の郷土に親しみましょうという、市民ハイキング大会、参加した、千どもさんの作品から。

あさの9時、三木市役所前に、いろんな人があつまりました。

二オウのけんき、ことなか、このまがった八十オウ、いのおとしりまで二百三十人。「さあ、出発」と、市役所のおじさんがマイクで話す声を、あとにして、城山橋、アトベ、加佐と歩きました。

そこまではよかったのですが、ろろ山に入ると、急に斜面がきつくなり、おとなの人たちは「ふうふう」「はあはあ」と、いきがきれるような声を出していました。

頂上で休んだあと、道は、とうぜん、せまくなりました。

がけも、さかも、ものすごい急でしたが、くだり坂ですから、わりとくぐりました。

こんど寺についたのは、しゅばつしてから二時間ほどしてから

でした。山の上から、お寺のやねが見えたときは「やっつ、ついたなあ」とうれしかったです。

おとなの人たちはきねんのしょくじけをしました。

ほくらほ、市役所の人から、ほんさいの木や、バツジなどを持ち、おべんとうをたべて、こんど寺から家まであるいてかえりました。

春のみどりの山は、ほんとうにすばらしいと思いました。

三木を知るためにも

三木市を知るためにも、健康づくりにも、経済のかららない、こうした催しは非常に結構だと好評です。で今後も継続しますので、これまでに参加できなかった人たちも、一人でも多数参加していただいて、みんなで歩きましょう。

写真は、末広十自から露部へ入る道歩く、ハイカーたち。

このころは、まだまだ死灰でいよいよ加佐裏山の難所入り



「やっただ三木中学校」 バレー 近畿大会で優勝

この中学校バレーボール教室は二年生が出席するユニニア大会で六府県の十二チームが出場、優勝戦では大阪太子中学校と対戦、熱戦の末、二で三の優勝という快挙を成し上げた。

さる十一月二十五日に大阪商大付属高校で開かれた日本バレーボール協会主催の第六回近畿中学校バレーボール教室で、兵庫代表として出場した三木中学校が、なご初優勝の栄冠に輝いた。

錦秋の野路を歩こう 体育記念日の10日に

10月10日は、体育記念日です。秋の色も増してきました。自然の姿をそのままの三木市郊外を散策してみませんか。

三木市では体育記念日ハイキングを、つぎのとおり計画しています。

当日午前8時30分、三木市役所前を出発し、東条町一電々公社前、三木小一水久橋、竹中半兵衛の墓、平井一細川慶路、横山の三木ゴルフ場、大谷加那院、昼食等、二時参下さい。現地で解散します。

出席者はパスシと記録カードを進呈します。



女子チーム好試合 寒風について 少年サッカー大会

○寒風についてボールを蹴り、元気いっぱい走る子。それがなんと女の子とあっては、慣れない大人たちは目を白黒させる。

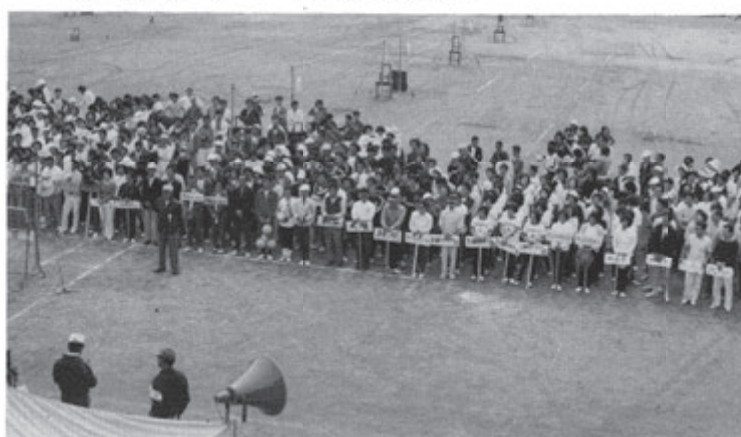
さる一月13日と15日に三木小、三木小グラウンドで開かれた、第一回三木少年サッカー大会での一コマ。

○現在、三木市内には小学校5、6年チームが14チーム、3、4年チームが3チーム、そして女子チームが6チームある。5、6年チームは三木A、緑が丘のように県下のベスト4に入る強力チームもあり、延長戦で勝敗がつかず抽選で三木A優勝という好勝負もあった。一万、3、4年男子も3チームリーグ戦で三木が優勝した。

○男顔負けにグラウンドせましと走り回る女子小学生チーム、おそろいのユニフォームで各チームムラ散らして口吉川Dチームが栄冠に輝き、応援の家族やおともたちも寒さを忘れて拍手喝采していた。

第一回三木少年サッカー大会で男子にひけをとらない好試合をした女子チーム数

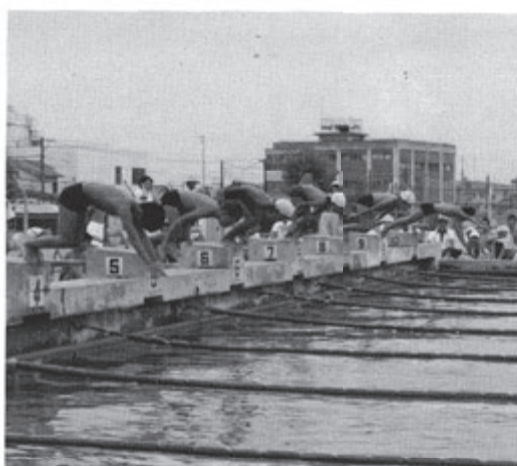
第7回 三木市民家庭バレーボール大会
 ▼と き 昭和50年5月18日(日)
 ▼と ころ 三木市民グラウンド
 ▼チー ム 構成 一般・女子・職域の従来通り
 なお、本年から一部ルールの変更がありますので、詳細は市立勤労青少年ホール(079-411)へどうぞ



昭和50年 9月7日

末広チームが初優勝
 市立勤労青少年ホール大会
 一、九月七日、西脇市立勤労青少年ホールで「市立勤労青少年ホール大会」が開催され、三木市の末広チーム(男子)が初優勝しました。
 この市立勤労青少年ホール大会は、西脇市立勤労青少年ホールで開催されたもので、男子の部「三木チーム」、女子の部「三木チーム」が参加して優勝が果たされたものです。
 なお三木市からは、男子の部で末広チームが出場、初優勝を飾ったもので、また女子の部では、三木チームが準優勝、一回戦は優勝したものの、二回戦で敗れてしまいました。

広 報 み き 昭和50年 8月17日



広 報 み き 昭和50年11月1日



お年寄りの第1回スポーツ大会

スポーツを楽しみながら心身の鍛錬と若返りを図ろうと三木市老人会連合会(前本連合会)では、第1回スポーツ大会を10月16日市民グラウンドで盛大に開催しました。

この日参加されたお年寄りは約1,300人。そして競技種目は、綱引き、電車、聖火リレー、双子ボール遊び、玉入れ、キックリレーなどで、明るく楽しい一日を過ごされました。(写真は仲良く双子ボール遊びをする選手のみなさん)

第二回 三木市民水泳大会

申込みは8月9日まで

市民水泳と体力づくりを目的として、第一回市民水泳大会を三木市水泳協会の主催で次の要項により実施されます。よろしくご参加下さい。

▼日時 昭和50年8月17日(日)

午前9時から

▼場所 三木市立中学校プール

▼競技種目 (全種目個人競技)

種目は自由形、平泳、バタフライ、背泳の四種目で、高校生(男女共)、青年(35歳までの男子)、壮年(35歳以上の男子)、一般女子の各部です。

なお兼種目として、高校生、青年の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

の部は50mと100m、壮年、一般

第1回オリエンテーリング

11月16日・対象は青年

軽装で多数参加を—

軽装で多数参加を—
 輝く太陽、美しい緑、澄んだ空
 気の中で、自然にふれあうことに
 仲間を誘う。第一、第一、第一
 同オリエンテーリング大会を催し
 ます。多数参加して下さい。
 ▼とき 11月16日(日) (雨天中
 止)
 ▼集合場所 神戸電鉄えびす駅前
 ▼場所 三木市内一帯
 ▼対象 青年なら誰でも参加で
 きます。
 ▼形式 ポイントOL形式

広報みき 昭和50年10月10日



市民ハイキングに370人

秋晴れに恵まれた10月10日(体育の日)に、市民ハイキングを実施しました。コースは市役所前から平井山、細川を経て伽耶院への約12キロで370人が参加されました。

広報みき 昭和50年11月



全国大会に出場したメンバー

『三木クラブ』 全国青年大会に出場

三木の青年で構成する「三木クラブ」(メンバー21人)が兵庫県代表として全国青年大会(東京)のバレーボールの部に出場しました。その結果、一回戦は不戦勝、二回戦は夢遊、三回戦は鳥取にそれぞれ二対一で勝ちベスト8に進出し、神奈川代表と対戦、惜しくも敗れたものの全国四位の好成績を収めました。

広報みき 昭和51年2月11日

第九回建国記念

ロードレース

▽日時 昭和五十一年二月十一日
 (水) 午前九時三十分
 ▼集合場所 県立三木高等学校
 ▼種目

男子の部 小学四、六年一・五
 キロ、中学生五キロ、二十九歳
 までの一般五キロ、三十代、四

十代、五十代の一般二キロ
 女子の部 小学四、六年一キロ
 中学生一・五キロ、一般一・五
 キロ
 ▼出場資格 三木市、高川町在住
 者、出身者、勤務先のある人
 ▼申込み 小学生は各校一居の
 上、高校一般の人は各自で効
 労少年ホーム(電話〇一〇九
 四一)へ申込み下さい。な
 お、当日も受け付けます。
 ▼表彰 各種目とも十位まで
 ▼コース案内 当日午前九時から
 行います。
 ▼その他 小学生の参加者は当日
 保護者、又は代理人不在の場合
 参加できません。また、参加者
 の事故に対し応急手当は主催者
 で行いますが、以後の責任は
 本人にあるものとします。

主催 三木市教育委員会
 三木市陸上競技協会
 後援 神戸新聞社

元気いっぱい!

第2回市老連 スポーツ大会



各競技をにこやかに観戦



元気に玉入れ競技

「スポーツを通して仲間づくりにつとめよう」と三木市老人会連合会(稲本宣一会長)では、第二回スポーツ大会を五月晴れに恵まれた五月五日、三木小学校で約千八百人参加のもとに盛大に催されました。

このスポーツ大会は、お年寄りが一堂に会しスポーツを楽しみながら、心身の鍛錬と若返りを図り、日常生活に「明るさ」と「和やかさ」を取りもどし、生きがいある新しい人生を見出す、と昨年からはじめられたもので、今年が二回目です。

当日は八チームに分れて聖火リレー、パン食い競走やダブルボール運びなどの競技に若さを大いに発揮され、元気いっぱい楽しい一日を過ごされました。

広報みき 昭和51年5月16日

市民ぐるみで楽しむ!! —第8回市民家庭バレーボール大会—



手に汗にぎる熱戦を展開した
市民家庭バレーボール大会

「親睦と健康の祭典」——第八回三木市民家庭バレーボール大会は、五月十日で盛大に開かれました。

六日午前八時三十分から市民グラウンドで盛大に開かれました。



パン食い競走



選手宣誓する鳥居二夫さん

仲良く、爆発物に注意。の競技



- この日は、熱のち雨という悪天候にもかかわらず地域の部七十一、女子の部七十、職員の部二十八の計百六十九チームが参加、各チームとも目標の練習の成果をいかんなく発揮され、市民ぐるみでバレーボールを楽しみました。
- 当日の成績は次の通りです。
- (地域の部)
- 優勝 ナメラチーム
 - 準優勝 里脇チーム
 - 第三位 末広チーム
 - 第四位 大村チーム
- (女子の部)
- 優勝 緑が丘東チーム
 - 準優勝 加佐東Bチーム
 - 第三位 東雲美丘チーム
 - 第四位 自由が丘パールチーム
- (職員の部)
- 優勝 金蔵Cチーム
 - 準優勝 星陽中チーム
 - 第三位 三木中チーム
 - 第四位 豊橋機チーム

家庭バレーボール審判員

66名を新しく登録



家庭バレーボールが、年々盛んになってきていますが、近隣自治会単位で行われる親善試合や地区内の大会での審判員不足が訴えられております。

そこで、市教育委員会では、審判員の養成をすべく、去る二月十三、二十七日の両日、家庭バレーボール審判員養成講習会を開きました。この講習会には、六十六名の方が参加され、新しく審判員として登録されました。審判員として登録された方々は次の通りです。

生田(舊代一別所町花虎)▽
今安一成(別所町中庄)▽岩田
文野(別所町日ヶ丘)▽上山
登(福井)▽大内光明(福井)
三)▽大木(美太村)▽岡田
真由美(別所町國林泰治(平
田)▽川林(北見)▽緑が丘(北
二)▽浦安(北見)▽北
井利喜(別所町日ヶ丘)▽紀
田房生(本町)▽清原正和
別所町林(本町)▽清原満子(別所
町小林)▽黒田静男(加佐)▽
黒田利正(弘前)▽黒田文夫(一

平田(一)▽黒田正三(福井)▽小坂輝男(福井)▽小谷達雄(加佐)▽小堀芳男(緑が丘町西三)▽近藤清一(別所町高木)▽近藤義輝(福井)▽坂田保新(細川町中里)▽崎本義一(別所町東白岩)▽貞徳三義(志染町東白岩)▽沢屋隆志(細川町中里)▽下芝清通(二口吉川町植根)▽渋谷弘弘(福井)▽杉田勝美(本町)▽高田輝夫(別所町高木)▽田中貞子(別所町朝日ヶ丘)▽畠田桂江(別所町高木)▽畠田進(宿原)内藤敏(未定)▽西尾昭一(未定)▽西尾サナエ(別所町朝日ヶ丘)▽西村隆(福井)▽西山丹子(本町)▽原明美(未定)▽東田勝治(緑が丘町東二)▽平佐佐(加佐)▽広町東二(二口和田澤和)▽井が峰(一)▽杉子(福井)▽藤本井(別所町朝日ヶ丘)▽藤原進(井)▽藤原美行(志染町磯成)▽船原喜子(別所町朝日ヶ丘)▽本田恵(大塚)▽前川国子(緑が丘町東二)▽正木登久子(上の丸町)▽見方エミ子(別所町朝日ヶ丘)▽松原久子(上の丸町)▽宮永新(加佐)▽本鶴(鳥町)▽安屋圭一(一口川町保木)▽安國昌子(緑が丘町東二)▽山内善行(志染町朝日ヶ丘)▽別所町朝日(上)▽山方陣一(別所町朝日ヶ丘)▽山下久子(別所町朝日ヶ丘)▽山本錠太(碧宮)▽山本圭(志染町戸田)▽吉田美(緑が丘町東二)▽吉田特孝(東葉美丘)▽吉孝年男(別所町高木)▽吉本恵美子(緑が丘町東二)▽和田澤和(井が峰)

171 チームが熱戦を展開

第9回市民家庭バレー

「新刊と改題の祭典」―第九回
三木市民会館ハレーボール大会は
四月十七日午前八時三十分から市
民グラウンドで盛大に開かれまし
た。

（二男男子の部）

阪 陽	ナスラチーム
摩 岐	加茂西チーム
第三位	大津町Aチーム
第四位	平山町Aチーム

この日は、おだちかヌボーツ
日曜大会、一般男子の部八十
一、一般女子の部六十八、職員の
部二十、計組七十、チームの選
手及び観客を含めて約二千五人
が、向う三ヶ通り市販をみてパ
レーボールをしてみたいの物をも
とに駆け回りました。
当日の古入選手チームは次の通
りです。

(一般男子の部)	(一般女子の部)
優勝 緑が丘東Bチーム	優勝 緑が丘東Bチーム
準優勝 緑が丘東Cチーム	準優勝 緑が丘東Cチーム
第三位 緑が丘東Dチーム	第三位 緑が丘東Dチーム
第四位 緑が丘東Eチーム	第四位 緑が丘東Eチーム

熱戦を展開した市民家庭バレーボール大会



バトミントン大会

参加者募集

三木市民バドミントン大会を次の要領で開催します。
お誘い合せで参加ください。
日時：昭和52年8月21日（日）午前9時より。
会場：三木市民体育館。
参加資格：三木市居住又は同勤務されている方。
申込先：三木バドミントン協会（市保健体育少年課②）
〇〇番又は別所公民館②〇〇番（まで）

▼申込先：三木バドミントン協会（市保健体育少年課②）
〇〇番又は別所公民館②〇〇番（まで）
▼申込期日：52年8月16日まで
▼参加資格：三木市居住又は同勤務されている方
▼会場：三木市民体育館
三木市労働者体育センター
三木市労働者体育センター

勤労者体育センターが完成

＝ 市民運動場管理規則決まる ＝

使用前3日までに申請書の提出を

昨年八月から工事をすすめていました、三木労働者体育センターが、このほど完成し、去る五月二十五日に竣工式を行いました。
この体育センターは、鉄筋コンクリート造りで建築面積は、〇・八四平方メートルあり、バレーボールコートなら二面、バスケットボールコートも同じく二面、バトミントンコートなら四面が使用できます。工事費は、本体工事、附帯工事および体育機器を含めて一億一千八百八十万円（雇用促進事業団が八百万円、市が千八百八十万円）です。
なお、この体育センターの竣工を記念して、今年の市民家庭バレーボール大会での優秀女子選抜八チームによる記念試合が実施されました。その結果は次のとおりです。

市民運動場使用料金表

施設 の 名 称	基本料金		夜間	別料金 (入場料を徴収するとき)	備 考
	午前 9:00～ 12:00	午後 0:00～ 5:00	午後 5:00～ 9:30		
市民グラウンド	2,000円	2,000円	3,000円	入場料総額の5%	
市民体育館	3,000円	3,000円	4,000円	〃	
勤労者 体育セ ンター	600円	1,000円	1,000円	〃	
	3,000円	3,000円	4,000円	〃	
器具 (一点につき)	1回 300円				卓球台 体操機 など

優勝
緑が丘東Bチーム
準優勝
緑が丘東Cチーム

市民運動場管理規則決まる
この三木労働者体育センターの完成に伴い、従来の市民グラウンドおよび市民体育館の三つを総称して「市民運動場」と決め、その管理運営規則を定めました。その規則を要約しますと次の通りです。
【施設名称】
三木市市民運動場
(三木市上の丸町字廣尾)
①三木市民グラウンド
②三木市民体育館

- ③三木労働者体育センター
- 【開場時間】
午前9時～午後9時30分
運動場の休場日
①毎週火曜日
②祝祭日および市制記念日(7月1日)
③年末年始(12月28日～翌年1月3日まで)
【使用許可手続き】

運動場を使用したいときは、使用前二日までに使用許可申請書を場長(場長は勤労者少年ホーム館長が兼任している)に提出し、その許可をうけてください。
【使用料】
別表の通りです。
その他、わしいことは勤労者少年ホーム(②〇九四一)へおたずねください。



▲市民運動場—左高台にあるのが勤労者体育センター、その右は市民体育館、手前は市民グラウンド(右端は勤労者少年ホーム)
▶記念試合をする市民家庭バレーボール女子選抜チームのみなさん



**家庭婦人の
バドミントン教室**

三木バドミントン協会では、運動不足になりがちな家庭婦人の健康増進をはかり、バドミントンの楽しさと正しいルールを知っていただくため、婦人バドミントン教室を開催します。

▽開催日時 11月まで毎週土曜日、午前9時～12時

▽会場 勤労者体育センター

▽募集人員 40人（市内に在住または勤務されている婦人を対象）

▽会費 220円（1ヵ月シャトル実費代）

▽申込み お問い合わせは、市教委保健体育青少年課の八九一または塩田延子さん（電話二三三三）へ。

市民ソフトボール大会

三木市ソフトボール協会では、第一回市民ソフトボール大会をきたる8月27日（日）午前8時30分から開催します。多数ご参加下さい。（雨天の場合は9月3日）

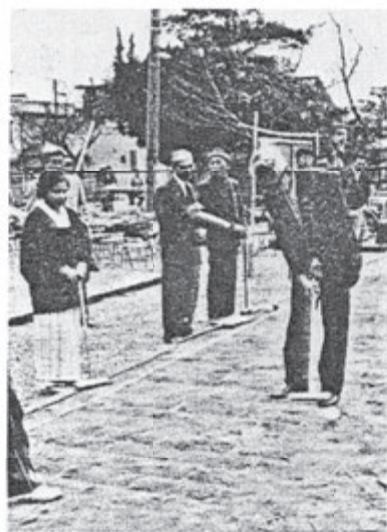
▽会場 緑が丘中学校、自由が丘小学校、▽参加資格 市内に在住または勤務されている一般男女

▽チーム編成 責任者1名、監督1名、選手15名以内

▽参加料 1チーム千円

▽申込み 切日 8月12日

▽お問い合わせ 大塚美智夫さん（岩富5一五番の六〇七七）、前田友子さん（緑が丘中学校内番一五〇〇）へ。



「ゲートボール教室」を開きます

参加者 3月20日までに申込みを
望者は

市民の皆さんの健康づくりとスポーツ振興を図るため、この春から三木市で初のゲートボールを始めます。そのルールや競技方法などの実技講習を主とした「ゲートボール教室」を開きます。希望者はお申込みを。▽教室の日程 四月二日

・九日・十六日・二十三日の四回、いずれも午前九時三十分～十一時三十分、スポーツ広場（三木中学校東側）で

▽募集人員 各回とも二十人（男女年齢不問）

▽申込み 三月二十日までに、住所・氏名・年齢・電話番号・希望日を電話または

たばこで直接、教育保健体育青少年課（上の九番番）の八九一へ。定員になり次第締め切ります。

ゲートボールとは

あまり速い運動ではなく、また高度な技術を要せず偶然性があり、チームワークを必要として、体力づくりとともに協力性を養い、子供や老人にもできるスポーツです。

幅二〇センチ、横二五センチの板で、赤白各五人が一チームをつくって木製ボール（直径七センチ、重さ一四〇グラム以上）を長さ七センチのスティック（木づら）で打ち、場内三か所に設けたゲート（幅三センチ、高さ三〇センチ）内を早く回ったチームが勝ちとなるゲームです。

スポーツ広場完成

一般開放は5月から

かねてから整備をすすめていた三木市スポーツ広場が完成し、去る三月二十五日、婦人会や子供会等、老人会代表等の参集のもとに開所式を行いました。

このスポーツ広場は、三木市環境保全条例に基づき、土地の所有者である吉本寛二さん（本町二）と市が使用貸借契約を結んだもので、五十六年八月まで市が管理し、広く市民の皆さんに開放するものです。

なお、このスポーツ広場は末広一丁目（三木小学校東側）にあり、面積は約六百六十平方メートルの広さで、ここにゲートボール場と練習場（十五メートル×二十メートル）をつくり、当面はゲートボール専用を使用する予定です。とりあえず四月中は毎月曜日に「ゲートボール教室」を開き、一般開放は五月上旬からです。使用の方法、手続などは次号で詳しくお知らせします。



187 チームが熱戦

市民家庭バレーボール大会

第十一回三木市民家庭バレーボール大会が、五月二十日市民グラウンド、市民体育館、勤労者体育センターの三会場で開かれました。市民の健康づくりと、親睦を目的としたこの大会は、回を重ねるごとに参加チームも増え、今年は一般男子八十五、一般女子七十七、職域二十五、あわせて百八十七チームの選手や、応援者三千人余りが参加しました。

特に今年から参加チームの多い一般男女を、昨年の成績からA、B、Cの三つのランクに分け、チームの力量に合った対戦方式をとりました。

この日は、五月舞のスポーツ日和に恵まれ、大会全員の大会市長と繁茂弘志大会顧問（県議）が、始球式を行ったあと、百八十余りの対戦で、日ごろの練習の成果を十分発揮した好評の大会が開かれました。

上位入賞チームには市長杯などが贈られました。当日の成績は次のとおりです。

【一般男子】○A級マ優勝 大手A、準優勝 大村A、三位 ナメラ○B級マ優勝 大手A、準優勝 大村A、三位 佐西、準優勝 大塚D、三位 大手B○C級マ優勝 里脇、準優勝 花灰A、三位 細川3部

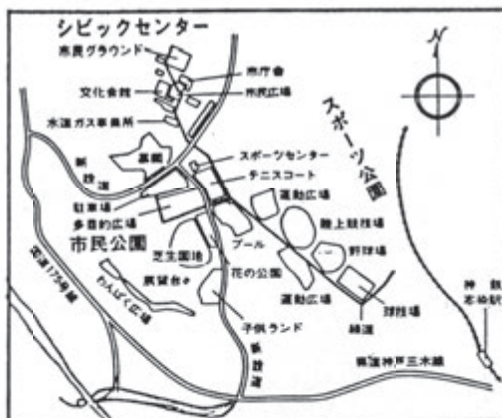
【一般女子】○A級マ優勝 緑が丘東C、準優勝 自由が丘本町A、三位 恵美須A○B級マ優勝 あさひが丘A、準優勝 緑が丘東B、三位 緑が丘中C○C級マ優勝 大手A、準優勝 自由が丘北、三位 細川4部

【職域】マ優勝 金蔵A、準優勝 神東工業A、三位 水道ガス事業所



記念体育大会で熱戦を展開したミニサッカー

この日は、三木市体育協会主催の記念体育大会があり、バレーボールなど室内競技六種目が四会場で開かれたほか、屋外競技四種目は、八日に順延して行われました。



提案の三木山利用基本計画図



長期総合利用へ

基本計画調査まとまる

三木市の中心市街地南部に広がる三木山固有林の総合利用を検討するため、コンサルタントに調査を委託していましたが、このほど調査結果がまとまりました。市では、この計画調査報告を基に、今後さらに検討を加え、具体化を図っていくことにしています。

三木山固有林は、約四百ヘクタールに及ぶ広大な面積を有し、場所的にも極めて重要な位置にあり、将来、市の都市計画の上からも大きな影響をもつ地域です。先般策定した「三木市総合振興計画」の中でも、三木市の顔づくりの拠点として、また、自然との調和をはかりながら開発整備をすすめる地域として位置づけています。

今回の計画調査は、これらの実現に向けて三木山固有林をどのように利用することが可能か、また開発条件はどうか、などについて専門的立場から計画の内容が提案されています。調査報告の内容は、①現況調査②現況評価分析③基本方針の検討④基本計画の策定⑤管理運営方法及び開発手法の検討——の五章からなっています。

現況調査及び現況評価では、当該地域の気象、地質、地形、水系、交通体系、自然景観などの調査と、それを踏まえて、三木山地区は場所的にも非常に重要な位置にあり公共施設施設の配置に適している——などその利用価値は高いと述べています。

4ゾーンに区分

シビックセンター、市民公園、スポーツ公園、墓園

野球場、バレーボールコート

次に、基本方針及び基本計画では、三木山地区は新旧市街地を結ぶかねめであり、都市の基幹構造を担う

地域として閉鎖的ではなく、都市へ開放された日常性のある利用が図られるべきであるとしています。また、計画地の範囲は、国道一七五号線以東の約百八十八ヘクタールを対象とし、それぞれ地形特性を生かした土地利用と施設配置がなされるべきであると提案しています。

ト、テニスコートなどを有機的に配置
「市民公園ゾーン」 大人も子供も、市民のだれもが利用できる芝生公園、子供わんぱく広場、花壇、散策道など自然を生かした施設を配置。
「墓園ゾーン」 近年特に市民の要望が強い墓地供給を図るため、公園機能を有する墓園を建設。

市では、この計画調査報告に基づいて、今後さらに検討を加え、施設ごとの年次計画、資金計画など長期的展望に立った三木山利用の具体化を図ることになっています。

北播ソフトボール
大会三木地区予選
中壮年者の体力づくりを目的としたソフトボール大会。10月7日、市民グラウンドなど2会場で、三木市ソフトボール協会主催。参加料は1チーム二千元。チーム編成は、原則として各自治会単位で人数18人以上。常時出場者は、50歳以上1人(女子の代用可)、40歳49歳5人、30歳39歳3人とし、学生・生徒は除きます。申込み、問い合わせは、9月30日までに教養保健体育青少年課へ。

1月15日午前9時から、三木高校周辺コースで。男子は4人、女子は3人。参加資格は市内に在住または勤務する健康な方。申込みはハガキに住所、氏名、年齢を明記し、三木市陸上競技協会、池町一丁目（〒671-07）細川町豊地、星陽中学校内へ。くわしくは市教委保健体育青少年課へ。



175チームが熱戦

市民健康マラソン大会

第12回市民健康マラソン大会が、5月18日、市民グラウンド、市民体育館、勤労者体育センターの3会場で開かれました。市民の健康づくりと親睦を目的としたこの大会に、今年も一般男女、職域合わせて175チームが参加して熱戦をくりひろげました。各ランク別の優勝、準優勝は次のとおりです。

〔一般男子〕マラソン①大村②恵比須マラソン③大島④豊陽マラソン⑤東広⑥下野A〔一般女子〕マラソン①緑が丘東②自由が丘本町Aマラソン①緑が丘西C②大村マラソン①細川第2部B②平田A〔職域〕①金蔵②ミヤナガB

大規模年金保養基地

グリーンピア三木
7月12日に開所

七月十二日にオープンする大規模年金保養基地「グリーンピア三木」の仕上げ工事が、細川町横山で急ピッチで進んでいます。総面積三百四十七坪（甲子園球場の約七十倍）という広大な丘陵地帯に完成するこの基地は、子供からお年寄りまで、家族連れ、グループで、一―三日の短期利用から一週間以上の長期滞在まで、ゆつくり余暇を楽しむ大型レジャー基地です。基地内には、多様な活動がコンビネーションよく作



グリーンピア三木のセンターゾーン

設できるよう、いろいろな施設が配置されています。例えば、幼児等には芝生広場、ジャブジャブプール、チビッ子広場など、また小・中学生等には、トリムコース、大ジャングルジム、サイクリングコースなど。青壮年向けにはテニスコート、野球場、サッカー場、陸上競技場、体育館など、高齢者向けには工芸場、農芸場、野外ゲーム場などがあります。

このほか、鉄筋七階建て三百人収容のホテル、ペンション、ロッジ、コテージなどの宿泊施設や多目的ホール、結婚式場、レストランなどのあるレクリエーションセンター、会議、研修、料理、絵画、茶・華道に親しめるセミナリハウスなど自分にあつた楽しみが自由に選べるよう各種の施設が配置されています。

園利用申込み・問い合わせグリーンピア三木開業準備事務所神戸311-3470へ。

待望の休育館

自由が丘コ
センに完成

生三十二人
西宮市ジュニア
ア体協クラブ
の女子児童ら
による陸上運動、平均台
の演技技が披露された。

また、八つと

自由が丘地区の
番地は、レオパ
・レオパ・リー
ン活動や力づく
りの場として、昨
年八月から建設を
進めていた。自由
が丘にミニシティ
センター体育館が
完成し、三月二十
八日から開校して
います。

この体育館は、
自由が丘にミニ
シティセンターの北



建設のあらましは、敷
面積二千五百平方
メートル、延床面積五十四平方
メートル、鉄筋コンクリート平
建て、練習用バレーボール
コートが二つと又テ
ニスコर्टが一つ、人工芝グラ
ス四百五十坪に、更衣室
四庫、浴室を設けてい
ます。総費は一億一千百
三万円です。

体育館の完成は三月
十八日に係員約九十人
出席し行われ、武蔵小
学校川口・大学池部の一

平 凡 的 一 天 一 夜 一 个 人 的 生 活 一 地



150チームが
熱戦を展開

としたこの大会に今年も男子チーム、約一
千人が参加して熱戦を繰り広げました。
各ランク別の優勝、準優勝、三位は次の
とおりです。

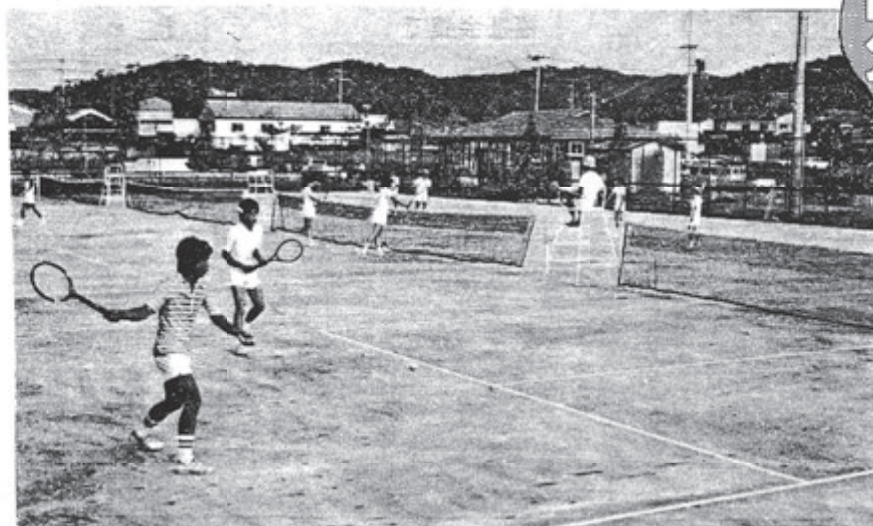
「一般男子」マラランキー①大村(A)②
平田(C)③下村(B)④ワビランキー①花沢(A)
②野村(B)③東田由佐④丁田マランキー
①緑の会②平田(B)③細川④三郎⑤一
般女子「マラランキー①緑が丘②三郎③
田村(B)④大村マラランキー①あさひの

—



広報みき 昭和56年8月

充実する市民のオアシス



高木公園に完成した市営で初の本格テニスコート



ニスコートも納税を終え、現在カラバハウスの建設など最後の仕上げ工事が行われています。総事業費は、僅六千六百万円です。

児童公園は、広さ二千平方足、子供たちが伸び伸び遊べるよう、グラシン

南公園をご紹介します。

摩基木公園 別府町東の旧八光鉄工所跡地の一画に、全天候型調装のテニスコート4面をもつ都市公園で、広さ七千三百平方メートル、児童公園は五十五年度事業です。すでに三月末に完成。

市では都市公園・緑地の増設整備を進めています。来月、別所町高木に完成する高木公園をはじめ、五年度事業で新設整備を完了した江野公園、朝日ヶ丘第四公園、今年度新設整備する東葉栗丘公園、緑が丘公園、新緑が丘公園、

市民が心身ともに休息の
とれるオアシスとして、オ
の住環境や都市景観を快適
に保つ都市空間として、健
康づくりやレクリエーショ
ン、地域のコミュニティの
場に役立てていただくため

コート
侍望の才

2面に夜間照明も
昼間は1時間500円

同級ハッピー、四郎、影三、ヤブバネ、新井、山田、ムサシを使ったブレイキヤツスルなどの道具をそろえているほか、ラジナやベンチなども掛け、市民の憩いの場として利用されています。また、ケヤキ、タスノキ、ヒラドフツジなど約六百本の樹木も植栽しています。

プリン



ハレーボールクラブを結成して七年。今回は、先ごろ東



全国大会で銀メダル

主婦のバレーボールグループ
自由が丘MCの皆さん

かのかのメンバーの一人、山西比佐恵さんは「最初は健康づくりと仲間づくりの目的に気遣ったが、徐々に健康な気持ちで始めた。市で、強くなればよいな!」と思っていたのが、全国大会へ出場でき、それも準備できたので、すから出たんです」。

全国大会では順調に勝ち進み、決勝戦へ進出。岐阜県立津市高校の対戦相手とつづかれた。この大接戦をフルセットの末惜敗。決勝では、相手選手の身長が高く、

なよつくってくれたと思ひます。」と主将の野中ヨヨ子

メンバーのほとんどがバレーボールの経験のない主将で、平均年齢三十七歳。練習は毎週月・木曜日の二回。チームでは最少(二十八歳)のイ・機恵子さんは「練習は小さいスィードです。わたと戦えていますね。今回の成長も戦い続けたたまのだと思つて

岡村チームは、早くも昨年八月大阪で行われる近畿選手権に開催を合せて練習を開始。「全国はもっともっと強豪チームが多いです。これらもフル練習をやる中で実力をけたい」と語る。選手さんたち、今後の活躍をお祈りします。

です」と語るママさんたち。今後のご活躍をお祈りします。

チームがいます。これから練習を積んで実力をつけたい

「全国にはもっともっと健康増進を促して、健康を合わせて練習を再開」

同チームは、早くも来年の月大坂で行われる近畿大会に

しい練習のためものだと思
ています」

いいですね。今回の成績も

ムマは最年少（二十八歳）の
横恵子さんは「練習はマイ

毎週月・木曜日の二回。チ

ーボールの経験のない主婦で

さん。

なよくやってくれたと思っ

あと一歩及ばず力尽きました
負けたのは残念ですが、み

た。最終セツトも十封十とい
いところまでいったんですが

持ち前のチームワークと粘りでフルセットへ持ち込みまし

した。でもストレートで負けるのは悔しいですからね。

とても歯がたたないと思ひ



再興4年目で全国大会出場

三木中・相撲部の皆さん

で、再び顧問を引き受けてゐる藤原亮一教授は、「私が三本に赴任した二十六年当時は、相模が大変盛なときで、市内の各々の学校にも相模部がありました。部員も多かったし七人ぐらいいましたね」と当時の模様を話された。

現在、部員は十三人で、練習は毎日放課後二時、ぶつかり、運び足、野けいこなど豊なメニューをこなしては一日の部員の中では一番軽量の三木徹吾(二年十才)は、「相模が好

今年には再興四年生目してやうな出来あつたといふ快報をやつてのけた。あの頃の顧問岡田技雄での暗れ舞台だったが、惜しくも予選リーグで敗退。

「幾度もたは、来年もぜひ全国大会へ出場して、来年まで今年以上の成績を付けてもらいたいです」と前主将の高山清明君(三年)

練習に取り組み生徒たちを前に藤原教授は、「生徒たちに

は相模を学んで、ふんでき

ないことを学んでもらいた

して自他共に尊敬もする人

間になつてほしいですね」と

語られていました。今後この

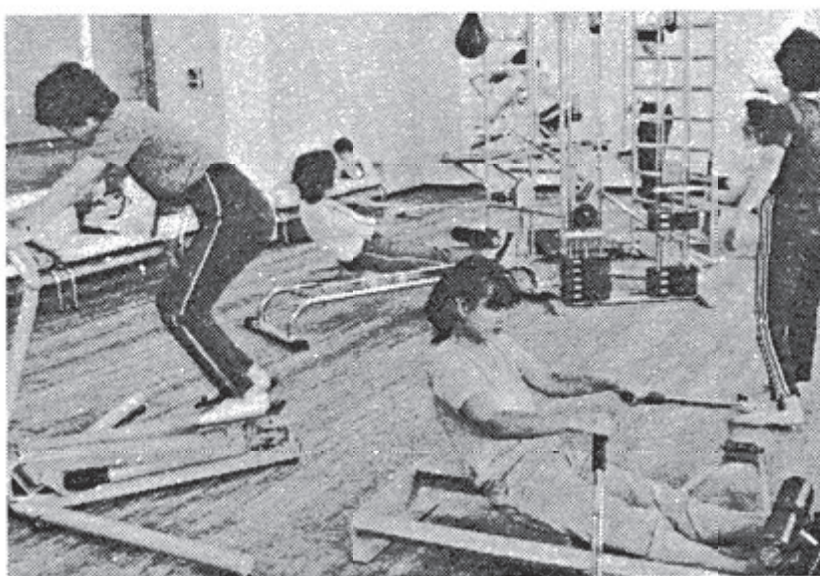
活躍をお祈りします。

相模原市で再興して四年。市内ではまだ一つのクラブとして復活した二本中クラブの登録者も一語を聞いてみました。三本中クラブの歴史は古く、昭和十四年に創部されました。過去の東博大会では数えきれないほどの優勝をさらってきた間もほかのクラブより入部者が減少し、自然消滅状態に。その後、十年以上のブランクが続き、再出発が実現したは五十五歳の現役選手が創設されたこの指導者部が創設されたころの指導者

きやから入部しました。上級生とぶつかりげいこをするときは少し恐いです」

相撲が敬遠される理由の一つに、他のスポーツと違ってマワシ一つで土俵に上がるため、憎好が悪いという声も聞

運動不足解消に
 緑が丘町公民館のトレーニングルームが市民の人気を集め、運動不足を解消しようというサラリーマンや主婦たちが連日、シェイプアップにさわやかな汗を流しています。



昭和57年 9月 広報みき

硬式テニス教室
 市硬式庭球協会では、初心者から中級者を対象にテニス教室を開催します。
 マー一般男女コース 9月26日から毎週日曜午前10時～正午、高木公園テニスコート
 マ小学高学年男女コース 9月24日から毎週金曜午後3時～5時、緑が丘コート
 いずれも定員20人、費用二千円、回数10回です。申込みは9月18日までに、佐藤充さん（緑が丘町東1丁目4-100-15）へ。（先着順）



**▲近畿の大会で
 排釜会が優勝**
 バレーボールクラブ三木排釜会が十二月十二日、大阪府立体育会館で開かれた近畿クラブバレーボール連盟発足記念大会の男子九人制で見事に優勝しました。同クラブは昭和五十二年に結成され、平均年齢は二十二歳。選手たちは「国体出場をめざしたい」と抱負を語っていました。

県民健康マラソン大会

▽日時 1月15日午前9時からマ会場 グリーンピア三木陸上競技場マ対象 幼稚園児から高齢者までの健康な人
 マ種目 ジョギングの部ⅡAコース（1500m）、Bコース（3000m）、Cコース（5000m）。歩け歩きの部ⅡDコース（5000m）

▽参加料 無料マ注意 歩走に要したタイムの計測および順位はつけません。各自で胸と背にコース（A～D）を記入したゼッケンをつけてください。
 申込みは、はがきに氏名、年齢、住所、参加コースを記入して1月10日までに、市教委・体育青少年課（上の丸町4-15）へ。

サッカー公認 審判講習会

県サッカー協会主催の公認審判講習会を開催します。受講修了者は4級審判員として認定されますので、受講してください。

▽日時 12月27日午前9時30分からマ会場 勤労青少年ホームマ対象 市内に在住・在勤の成人マ持ち物 筆記具、写真（4・5cm×3・5cm）一枚マ費用 二千五百円
 申込み・問い合わせは、市教委・体育青少年課へ。

市制・体育協会設立30周年記念 三木市民総合スポーツ大会

昭和59年7月1日



◀ 鷺尾体育協会々長のあいさつ

▼ 受彰に輝くひとびと
感謝状贈呈者 37名



▶ 総合開会式
250名の行進

▼ 大会参加者整列



＝加盟協会の紹介＝

陸上競技協会

会長 鷺 尾 弘 志

昭和26年3月、久米孝二氏を会長にたて、岡森晴夫、前田薫、稲垣武夫、三宅猛氏らを中心に美囊郡陸上競技協会を結成し、美囊郡選手権、東播郡市対抗への参加をメインとして発足した。そして、昭和28年9月、兵庫陸上競技協会に正式登録団体として加盟、第8回兵庫県郡市対抗に出場、郡内一周駅伝大会など、競技力向上や底辺拡大に大きな成果を生み出した。昭和29年7月1日、三木市発足とともに、三木市陸上競技協会と改名、三木市陸上競技選手権大会開催、県郡市対抗駅伝大会出場など、活動内容を拉めてきた。

その間、中学・高校を中心に、すぐれた選手を次々と生み出し、県大会・全国大会で上位入賞者を出してきた。兵庫選手権初代優勝者は、22回大会（昭29）三木高魚住智恵子さんの走高跳。兵庫県高校対抗選手権では、第5回大会（昭27）井上滋己現副会長（当時小野工）が棒高跳で優勝、兵庫県中学総体では第10回（昭33）大会で、三木中学校市川守君が走幅跳で6m13をとんで1位、全国レベルでは、口吉川中学校岸本鈴代さんが放送陸上、走高跳で日本一に入賞するなど、すばらしい選手が続出した。



走高跳 岸本鈴代さん



棒高跳 小林敬典氏

また、昭和30年5月、第8回東播郡市対抗陸上競技大会を主管し、三木中学校に250mトラックで準公認をうけて開催、17回大会を社高校で、25回大会を三木高校（昭47）、第35回大会を新設されたグリーンピア三木陸上競技場（公認）（昭57）で開催するなど、多くの愛好家の支援をうけてきた。昭和32年、協会結成以来、岡森晴夫氏とともに中心的な役割りを果たされた前田薫氏を副会長に推挙、小倉滋氏を中心とした体制で約10年、昭和42年鷺尾弘志現会長が就任された。

底辺拡充、小中学生にゆめを持たせようと、昭和42年2月11日、三木市教育委員会のキモ入りで建国記念三木市民ロードレース大会を催した。当初は、中学生対象のロードレースとして、三木中学校からスタートして、平田橋折り返しの3Kコースで、三木中、細川中などが参加、以後、小学生種目を加え、大会が次第に成長し、会場も三木高、別所町ライスセンター、三木高、など転々とし、現在は、グリーンピア三木の協力を得て、約2,000名参加の大ロードレースに発展、

本年度で17回大会となった。昭和55年1月、第1回小学生駅伝大会を開催、今年で5回目となり、すっかり市民生活の中に定着した感があり、その間の関係各位の御支援に厚く感謝申し上げます。

兵庫陸協関係から永年の功勞に対して表彰された方は次の各氏です。

- 兵庫陸協再建20周年記念功勞賞（昭42）岡森晴夫
- 河野一郎章（18歳未満優秀競技者、県で1名）昭41、岸本鈴代、
- 兵庫県都市対抗駅伝30回大会記念賞（昭51）岡森晴夫、小倉滋、
- 兵庫陸協創設50周年記念功勞賞（昭56）鷺尾弘志、前田薫、小倉滋、池町耕一、魚住正男、
生田勝、村上晴郎、告野嘉朗、常深憲人、
- 兵庫県ゆずりは賞（昭41）岸本鈴代

◆ 上級大会上位入賞者

1. 国民体育大会 第22回埼玉大会(42) 高校女子走高跳 1位 岸本鈴代 1m59
教員高校 400R 2位 光川敏郎 42秒1
2. 兵庫選手権 22回(29) 走高 1位 魚住智恵子、棒高 3位 小山浩
23回(30) 走高 3位 魚住智恵子 27回(34) 棒高 2位 岩本龍一
28回(35) 100m 2位 澤井照明 29回(36) 棒高 1位 小林敬典
30回(37) 400m 1位 光川敏郎 31回(38) 棒高 1位 小林敬典
32回(39) 400m 1位 光川敏郎 走高 3位 岸本鈴代
33回(40) 400m 3位 光川敏郎、十種競技 2位 小林敬典、走高 1位 岸本鈴代
34回(41) 400m 2位 光川敏郎 35回(42) 走高 1位 岸本鈴代
36回(43) 走高 1位 岸本鈴代、円盤投 2位 片山勝子
39回(46) 走高 1位 岸本鈴代 41回(48) 400m 3位・400R 1位 狩場陽子
43回(50) 100m 3位・200m 3位・400R 2位 狩場陽子
45回(52) 100m 2位 狩場陽子 46回(53) 200m 3位 狩場陽子
47回(54) 砲丸投 3位 八木睦美
48回(55) 400m 2位・800m 3位 金鹿玉緒、円盤投 3位 八木睦美
49回(56) 800m 2位 金鹿玉緒、3,000m 1位 安随ゆかり
50回(57) 800m 3位・1,500m 3位 金鹿玉緒



第25回都市対抗駅伝大会

昭和46年1月24日

3. 全国高校選手権入賞者 11回(33) 棒高 2位 小林敬典、19~21回 走高 1位 岸本鈴代
4. 兵庫県高校選手権優勝者 5回(27) 棒高 井上滋己 7回(29) 棒高 小山浩、走高 魚住知恵子
11回(29) 棒高 小林敬典、12回(34) 棒高 岩本龍一、19~21回(41~43) 岸本鈴代
25回(47) ハンマー投 松原正文
5. 近畿中学総体優勝者 (33) 走幅 市川守、(39~40) 走高 岸本鈴代、
(44) 2,000m 浅原明敏
6. 兵庫県歴代 100傑 (56年12月8日現在)
- | | |
|--|-----------------------------------|
| 800m (28) 1'55"0 藤井晃正 (53年) | 400H (47) 56"1 鯉岡幹夫 (54年) |
| 3,000障 (95) 10'7"6 浅原明敏 (48年) | 棒高跳 (67) 3m91 小林敬典 (36年) |
| 三段跳 (96) 13m99 藤本浩正 (54年) | 100m (37) 12"5 狩場陽子 (50年) |
| 200m (21) 25"7 狩場陽子 (53年) * | 400m (3) 57"4 金鹿玉緒 (55)、(75) 狩場陽子 |
| 800m (6) 2'13"5 金鹿玉緒、(64) 戸田香織、(75) 太田美栄、(89) 宮脇美和 | |
| 1,500m (4) 4'40"5 金鹿玉緒、(18) 安随ゆかり | 走高跳 (24) 1m64 岸本鈴代 (42年) |
| 走幅跳 (16) 5m59 西田幸子 | 砲丸投 (11) 11m75 八木睦美 |
| 円盤投 (45) 34m32 八木睦美 (55年) | |



兵庫県郡市対抗駅伝大会参加の記録

○初出場は、第9回(昭30)赤穂市一県庁 19チーム中13位

(12～19回)は 明石一社町 コース				明 石 一 平 野 小	平 野 一 田 井	田 井 一 大 村	大 村 一 大 池	大 池 一 社	社 一 住 吉 神 社	住 吉 一 大 村	大 村 一 田 井	田 井 一 平 野	平 野 一 明 石	
回	年	参加	順位	8.0	5.0	7.5	7.0	8.0	10.0	5.0	7.5	5.0	8.0	
12	33	15	13											
15	36	16	15											
17	38	15	13	29.17 常森	17.31 浜田	28.40 岸本	25.26 藤田	29.48 中富	36.39 安福	17.20 藤川	30.13 橘田	16.07 小山	31.17 藤本	4°22'18"
18	39	15	13	27.22 常森	18.26 達山	26.35 藤田	25.49 藤本	29.29 木下	36.03 藤川	17.13 小林	30.12 村上	16.26 藤原	30.41 高芝	4°18'16"
19	40	15	14	25.49 常森	17.17 達山	26.17 藤田晃	24.06 清水	27.18 藤田憲	36.03 藤原	16.59 高芝	31.41 山口太	17.28 戸田	30.22 山口祐	4°18'20"

23、44 赤穂市

(24～26回は佐用町千種川コース)

回	年	参加	順位	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	
24	45	21	18	27.51 大西	22.22 常森	21.58 神田	18.01 田中	32.16 河合	16.38 長谷田	37.29 藤本	2°56'35"
25	46	24	23	27.45 大西	21.47 木梨	23.00 神田	21.48 戸田	30.08 長谷田	16.53 和泉	36.09 藤田	2°57'30"
26	47	30	26	28.31 大西	20.41 清原	22.09 常深	18.43 山本	30.50 衆	16.36 岡田	36.52 藤田	2°54'22"

(27～36回は北淡町コース)

回数	年 度	参 加	順 位	部 順	1区 7.45 K	2区 6.3	3区 6.3	4区 6.5	5区 5.85	6区 7.6	7区 10.0	総合タイム
27	48	30	28	2 ・ 19	24.27 猪瀬	20.53 常深憲	20.45 岡田	22.53 清原	20.10 山本	27.12 岸本	36.44 藤原	2*53'04"
28	49	36	33	2 ・ 23	24.37 猪瀬	22.53 筒井	23.02 藤本	22.56 坂本	19.30 常深憲	27.18 常深達	35.10 岡田	2*55'26"
29	50	38	28	3 ・ 10	27.27 常深達	22.05 常深憲	20.35 糸	21.56 石井	18.48 筒井	26.05 浅原	35.44 藤原康	2*52'40"
30	51	38	25	3 ・ 7	24.53 常深	20.17 筒井	21.22 糸	22.04 春川	16.56 藤井	26.52 藤原康	37.48 尾崎	2*50'12"
31	52	39	20	3 ・ 4	25.22 尾崎	20.34 荒内	20.07 河中	20.24 秦	18.20 常深憲	25.21 藤原康	32.22 藤井	2*42'30"
32	53	39	13	2 ・ 4	24.12 藤井	21.33 常深洋	20.08 荒内	20.43 河中	18.59 常深憲	26.24 大東	33.28 藤原和	2*45'24"
33	54	41	25	2 ・ 8	24.04 藤井	20.31 大東	20.57 清水	20.48 岩井	19.09 小畑	25.36 荒内	36.11 藤原和	2*47'16"
34	55	41	33	3 ・ 15	24.52 光川大	21.40 本町	20.10 光川茂	21.02 藤原和	18.55 岡田	27.07 武内	35.09 井沢	2*48'55"
35	56	42	27	4 ・ 2	24.15 吉田	19.53 本町	20.33 光川茂	20.18 吉永	17.57 横山	26.05 財田	34.16 大野	2*43'17"
36	57	42	33	3 ・ 8	24.25 吉永	21.00 本町	20.50 植村	20.59 五百蔵	17.35 光川茂	26.17 宮脇	34.58 横山	2*46'04"

(37回より三田コース)

37	58	44	15	4 ・ 2	21.59 横山	16.15 光川茂	17.07 本町	16.28 山本	25.38 吉田	17.19 田中	33.23 吉永	2*28'09"
38	59	46	33	2 ・ 10	23.01 光川茂	16.40 生田	17.03 本町	18.50 河野	26.10 中嶋	18.15 平原	33.42 武内	2*33'41"

市制25周年記念三木市民マラソン成績一覧表

54.12.23

第1部 県駅伝選考 6K	第2部 高校一般 5K	20,52 照井 光治 (三木中)
19,50 光川 大造 (小野工)	17,12 藤原 徳司 (小野工)	20,54 切原 孝治 (三木中)
20,05 岩井 昭仁 (三木高)	18,29 坂口 和彦 (三木東)	20,57 中尾 和貴 (三木中)
20,13 井沢 和彦 (三木高)	19,22 桑原 浩樹 (三木東)	20,59 久米厚太郎 (三木中)
20,18 横山 重政 (三木中)	20,47 田沢 敦 (三木東)	21,03 斉藤 淳逸 (三木中)
20,23 光川 茂 (三木中)	21,22 大橋 哲二 (大橋外)	21,04 長谷川英樹 (星陽中)
20,24 大野 四男 (川 鉄)	21,43 石田 浩章 (末広2)	21,05 吉田 高幸 (三木中)
20,29 武内 勇人 (星陽中)	25,20 本岡 昇 (跡 部)	21,26 実井 順司 (星陽中)
20,31 本町 秀晴 (三木中)	第3部 中学男子 5K	21,29 小林 智彦 (三木中)
20,58 宮脇 健次 (三木中)	18,15 鷺尾 博和 (星陽中)	21,30 前田 弘史 (三木中)
21,05 橋本 克也 (三木高)	18,33 岸本 吉昭 (星陽中)	21,36 腰前 圭司 (三木中)
21,32	18,35 池町 徹也 (星陽中)	21,36 清瀬 仁章 (三木中)
21,36 藤原 和則 (三木中)	18,43 河本 和敏 (三木中)	21,44 上川床博一 (三木中)
21,56 吉永 一 (三木中)	18,47 馬野 滋 (三木中)	21,47 高山 浩 (三木中)
21,59 寺脇 章浩 (三木中)	18,48 岩佐 直彦 (三木中)	21,50 大西 伯典 (星陽中)
22,08	18,51 松浦 勝利 (三木中)	22,00 森本 茂樹 (三木中)
22,09 新川 紀昭 (三 電)	19,10 室谷 啓介 (星陽中)	22,18 小林 哲也 (三木中)
22,12 大林 倫浩 (三木東)	19,11 四村 道弘 (三木中)	22,19 上川 博之 (三木中)
22,15 宮本 政一 (三木中)	19,32 岩崎 祐二 (三木中)	22,19 吉田 和典 (三木中)
22,29 藤井 健次 (三木中)	19,42 永畑 昌稔 (三木中)	22,24 今井 学士 (星陽中)
22,31 述谷 昌則 (三木中)	19,52 田中 秀 (三木中)	22,29 増永 隆司 (三木中)
22,32 太田 康介 (三木中)	19,55 秋田 清 (三木中)	22,30 にしき 昇 (三木中)
22,54 松田 昇久 (三木中)	20,02 松永 弘昭 (三木中)	22,30 山崎 弘樹 (三木中)
22,55 藤本 宏司 (三木中)	20,05 田中 一郎 (三木中)	22,41 西垣 昇 (三木中)
23,05 寺脇 秀幸 (三木中)	20,07 山田 勝美 (星陽中)	22,41 小西 司 (三木中)
23,13 来住 幸長 (三木中)	20,08 小山 敏充 (星陽中)	23,14 実井 誠治 (三木中)
23,31	20,10 西垣 賀正 (三木中)	23,26 河本 洋一 (三木中)
23,36 藤原 史朗 (三木中)	20,19 松原 茂樹 (三木中)	23,52 阿部 義宏 (三木中)
23,45 中井 啓之 (神戸大)	20,21 岸中 次郎 (星陽中)	24,43 清水 尚治 (三木中)
23,45 半 信雄 (三木中)	20,30 井上 哲治 (三木中)	24,46 谷田 智宏 (三木中)
23,58 藤井 忠勝 (三木中)	20,33 河木 孝光 (三木中)	24,53 ()
25,03 宮岡 龍二 (三木中)	20,34 小山 富誉 (星陽中)	第4部健康マラソン男子4K
25,39 入船 吉正 (三木中)	20,35 藤田 一己 (星陽中)	15,45 獅岡 幹夫 (芝 町)
27,24	20,45 藤田 卓也 (星陽中)	三木中教
28,34	20,46 音田 鶴男 (三木中)	16,03 仲上 亮武 (細 川)
	20,49 藤本 博康 (三木中)	志染小教

16,19 古田 寛明 (別 所) 三木中教	6,12 松尾 功 (平田小4)	第7部 小学女子 1.6K
17,12 砥上 守 (東自由ヶ丘)	6,13 戸田 敬介 (平田小4)	
17,12 大西 達也 (三木東)	6,14 片山 康裕 (三樹小6)	6,45 田村 あや (平田小6)
18,07 藤本 雅信 (三木東)	6,19 高田 一馬 (三樹小5)	6,51 告野 美穂 (志染小6)
第5部健康マラソン女子3K	6,23 亀尾 泰昭 (三樹小6)	7,10 三木 育子 (志染小4)
	6,24 魚谷 健一 (三樹小6)	7,18 山本 有里 (平田小5)
11,22 金鹿 玉緒 (大 塚) 夙川学院高	6,32 岩谷 秀也 (三樹小)	7,23 赤松 牧子 (志染小4)
11,23 安随ゆかり (与呂木) 三木中学	6,34 大西 学 (志染小)	7,23 赤松 道子 (志染小3)
12,16 湯通堂さゆみ (三木中) 自由ヶ丘	6,35 藤枝 豊茂 (口吉川)	7,31 木下 則子 (志染小3)
12,54 青野 千寿 (三木中)	6,35 稲見かいち (豊 地)	7,41 橘田かおる (志染小6)
12,58 大西 静佳 (三木中)	6,42 寺尾 直樹 (志染小)	7,41 森本日出子 (平田小6)
13,07 狩場 陽子 (福 井) 中京女大	6,45 山本 充良 (志染小)	7,48 今井めぐみ (志染小)
13,10 吉沢 周子 (三木中)	6,48 岩城 雄二 (平田小5)	8,07 横山 道代 (志染小)
13,31 由良 育代 (三木東高)	6,57 橘田 睦之 (志染小2)	
13,48 佐藤 房子 (三木中)	6,59 稲上 博 (志染小)	
14,11 東 千恵子 (三木中)	7,01 松原 哲志 (平田小)	
第6部 小学男子 1.6K	7,04 竹内 清 (志染小)	
	7,13 西本 雅人 (志染小)	
5,34 生田 博一 (別所小6)	7,22 岡本 和夫 (平田小)	
5,45 稲見 尚人 (口吉川6)	7,24 清水みつお (平田小)	
5,52 中島 一博 (三樹小6)	7,24 森田 信道 (志染小)	
5,53 宮本 勝 (豊地小6)	7,27 金井 好孝 (志染小)	
5,54 寺口 史生 (三樹小6)	7,30 市原 文裕 (志染小)	
5,54 金井 俊治 (志染小6)	7,30 黒井 俊光 (志染小)	
5,58 久米 栄二 (三樹小6)	7,37 橘田 隆義 (志染小)	
6,00 山崎 力 (志染小5)	7,42 今井 昭喜 (志染小)	
6,04 長田 秀明 (三樹小6)	7,48 三木 勝博 (志染小2)	
6,07 松野 勉 (三樹小6)	7,49 山崎いわお (志染小2)	
6,08 梅沢 徳介 (三樹小5)	7,58 生田 雅哉 (別所小)	
6,09 寺口 茂樹 (三樹小)	8,15 滝谷 功 (志染小2)	
6,10 岡田 大輔 (三樹小)	8,17	
6,11 黒川 旬一 (平田小5)	8,19 三島 忠 (平田小4)	
	8,19 森本 和徳 (平田小4)	
	8,24 告野 浩三 (志染小3)	
	6,46 戸沢 哲也 (平田小5)	
	6,46 篠島 秀雄 (志染小5)	

三木野球協会

会長 大林 嘉 蔵

三木野球協会が設立されて今年で三十八周年の年月を迎えることが出来ました。

終戦間もない時、世の中も荒廃しており、特に若い人たちには、何の希望も娯楽とてなかった時、青少年を対象とし、野球を通じて青少年の健全な育成にと…………

先輩諸氏と協会を設立してはとのお話で、兵庫県軟式野球連盟に加入させていただき今日にいたりました。一口に三十八年と申しますが、この長い年月の歩みの中にあって、三木野球協会が今日の隆昌を迎える事ができましたのは、歴代の役員が、一意専心協会の発展に努力されましたのは勿論のこと、登録加盟チーム及び関係者各位のご協力と深く感謝を申し上げる次第でございます。

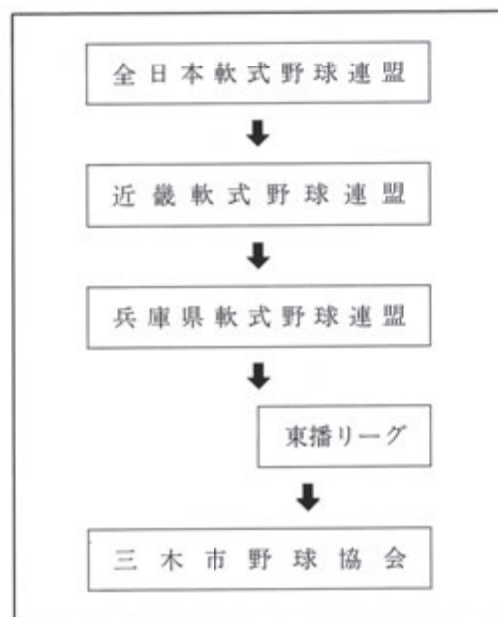
今日野球は私達国民にとりまして、最も親しまれているスポーツであります。

この三十八年間の足跡を振り返り、よりいっそうの前進と、三木野球協会の益々の充実発展の為、微力ながら努力してまいりたいと存じております。

今後とも青少年の健全な育成と新道奨励の思召しをもちまして関係各位のご指導と、ご支援を心よりお願い申し上げます。

終りに本協会役員諸氏ならびに、登録加盟チーム各位のいつまでもご健勝で、なおかついっそうのご活躍されんことを、ご期待申し上げ、ごあいさつと致します。

全日本軟式野球連盟組織図



昭和59年度三木野球協会役員及理事名簿

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会 長	大林 嘉蔵	理 事	藤原 正
副 会 長	田中 一磨	〃	田中 昭
〃	高 昂 暢宏	〃	藤木 博文
理 事 長	河合 正美	〃	小谷 常一
副理事長	池町 早苗	〃	北野 亮逸
〃	五百蔵征幸	〃	住野 大志
総務会計	岡田 正一	〃	小山 義郎
審 判 長	魚住 英雄	〃	岩崎 正佳
副審判長	〃	〃	大西志津雄
〃	泉谷 博	〃	山本 公大
〃	堀内 修次	〃	中田 英富
理 事	仲上 一郎	〃	安随亀代治
〃	神沢 誠吾	〃	藤田 光
〃	浦崎 秀一	〃	

三木野球協会歴代役員名簿

年度	会長名	年度	会長名	年度	会長名	年度	会長名	年度	会長名	副会長名
28	井本政夫	34	岡田 勇	40	高田真光	46	大林嘉蔵	54	大林嘉蔵	井上宏美 小林琢二
29	"	35	渡辺克己	41	大林嘉蔵	47	"	55	"	"
30	"	36	"	42	"	48	"	56	"	"
31	岡田 勇	37	神沢康介	43	"	49	"	57	"	田中一磨
32	"	38	"	44	"	50	"	"	"	"
33	"	39	高田真光	45	"	51	"	58	"	高島暢宏

三木野球協会59年度登録チーム

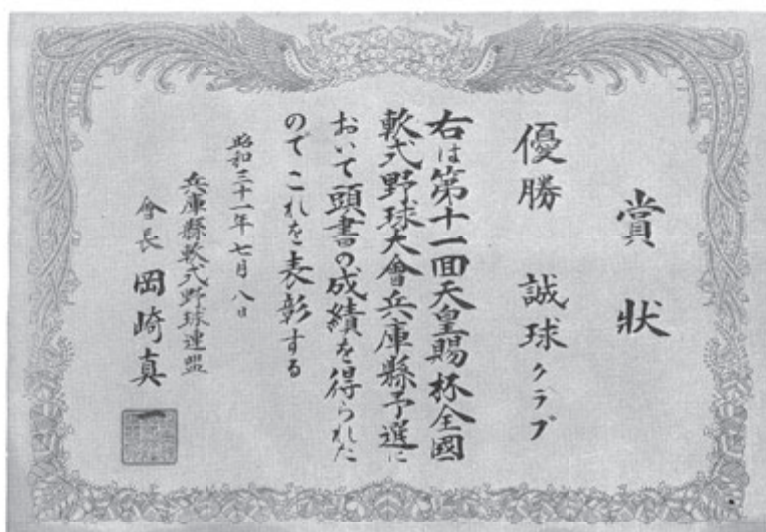
Aクラス	エマニエル	ナリス化粧品	シビルスターズ	ピコレッツ
豪球	エンジェルス	兵庫パン粉	ジャックポット	広野化学
三共	オーシャンズ	棒球隊	神菱	富士
電々三木	極東開発工業	三木教員	スコーピオンズ	ボーンヘッズ
常栄	剣硬	三木市消防署	ステイラーズ	三木精密機
ボンバーズ	小林ギムネ製作所	金蔵	ストーム	三木農協
別所	コブラーズ	イーストグリーン	水道ガス事業所	ミッキーズ
兵庫県信連	志染サンセット	高木ファイヤーズ	垂水病院	ミヤナガホールズ
三木市役所	十条セントラル	大和ハウス	ダークホース	本岡設備
ライオンズ	スティータス	丸紅飼料	トイトイ	スドージャム
排釜会	聖球スターズ	Cクラス	ドルフィンズ	三徳金属
Bクラス	東条	アトランダム	ドンキーズ	高木クラブ
あかねヶ丘ファイターズ	東播用水	大村	中橋製作所	マイナーズ

三木野球協会事業一覧表

大会名	クラス	大会名	クラス	大会名	クラス
第6回 西日本選手権大会1部	B	第39回 国民体育大会	A	第18回 兵庫県選手権大会1部	B
同 上 2部	C	第39回 近畿秋季大会 1部	B	同 上 2部	C
第10回 兵庫県民大会	A	同 上 2部	C	第9回 三木市々長杯大会	A
第28回 高松宮賜杯大会 1部	B	第35回 兵庫県都市対抗大会	A	第9回 野球協会々長杯大会	B
同 上 2部	C	第3回 秩父宮賜杯大会	A	第1回 体育協会々長杯大会	C
第39回 天皇賜杯大会	A	第18回 兵庫県選手権大会A級	A		

三木野球協会代表チームとして県大会で活躍したチーム名

S 21～30	三木金物クラブ 金星クラブ 交球クラブ	S 51～52	常栄クラブ 別所クラブ 三木市役所
S 31～35	キングクラブ 誠球クラブ	S 53～54	別所クラブ ライオンズクラブ 三木市役所 排釜会
S 36～40	キングクラブ ライオンズクラブ 三木信用金庫	S 55～56	別所クラブ ライオンズクラブ 常栄クラブ 金蔵クラブ
S 41～45	キングクラブ ライオンズクラブ	S 57～58	別所クラブ ボンバーズクラブ 豪球クラブ 兵庫県信連
S 46～50	ライオンズクラブ 別所クラブ 三木市役所		



(誠球クラブ
全国大会出場
和歌山於て)

三木球史回顧録 三木金物俱樂部盛衰記

横山 甲子夫

◆チーム構成メンバー (敬称略)

- 監督 大林嘉蔵 (三木市末広2丁目) 鋸製作
- チーフマネージャー 久米博司 (小野市檜山) 山口金
属勤務
- サブマネージャー 田中義雄 (金物商)
- 投手 横山甲子夫 (三木市末広2丁目) 病氣療養中
- 捕手 高柳常治 (朝来郡生野町) 足立商店勤務
- 一塁手 山本一郎 (神戸市西区神出町)
- 二塁手 吉田 勉 (故人)
- 三塁手 井村 功 (加西市北条町) 三洋電機勤務
- 遊撃手 三宅和春 (故人)
- 左翼手 白井一夫 (三木市平田) 鍼力商自営
- 中堅手 小林琢二 (末広2丁目) 小林利金物専務
- 右翼手 山崎隆司 (日通海運神戸港勤務)
- 補欠 改発達彌 (神戸市須磨区在住)
- " 吉田有雄 (三木市福井1 在住)
- " 山本 昇 (三木市本町2 丁目)

◆後援会

- 会長 岡田 勇 (岡田金属工業所会長)
- 二代目会長 高田真光
- 副会長 井本政夫 (土牛刃物株式会社会長)
- 相談役 田中新治 (故人)
神沢作二 (末広2 丁目)
鬼頭金治郎 (名古屋市在住)
杉浦悟郎 (故人)
丸橋常雄 (明盛街)
- 賛助会員 118 名

上記の如く三木球史初の強力メンバーやスタッフで誕生したが、裏には色々のエピソードがあった。永い永い戦争の末敗戦に至り荒涼たる人心の中に、近世では想像もつかぬ一種の放心状態が続いた。幸い当時の三木町は戦火を免かれ、美しい緑の山々もその俣残っており、又あちこちで懐かしい人々が復員して顔を見せ出した。

さて、三木球史に戻すと戦前中を通じて、チームらしい数は少なく、理髪店中心に、三木理容俱樂部が結成され、筆者と、小河護親・小林琢二・羽田賞一郎 (故人) ら学生が這入って随所で健闘した。戦後は各町内対抗戦が盛んで、東は大塚町から西は東這田町まで、各町のエース格が出場し三樹小校庭を興奮させたものだ。(大塚町) は山田双生兄弟・和田年弘・津田孝亀。(大手町) は土出義雄 (滑原町) 大林嘉蔵、白井一夫。(新町) 高橋昇三兄弟・渡辺忠。(明石町) 藤村正也、健介兄弟、河合進、茂兄弟、中島庄一。(下町) 小林正一、琢二、利夫、三兄弟加藤栄吉。(全末広) 井村功、佐藤輝臣、和田照夫、永尾省三、今井長次、筆者。(東這田町) 志原兄弟、守沢兄弟、その他数々の町内会対抗意識をむき出しにした熱戦が繰り広げられた。

昭和21年10月には田中新治 (故人) の後援により交球クラブを結成、筆者、藤村健介、河合進、井村功、砂川憲三、小林琢二、諸君らと他に、太平俱樂部は、山本一郎、三和和春 (政人)。天狗クラブは、大林嘉蔵、高橋正一、諸氏らで、團栗の背競べであり、後に、鬼頭金治郎氏の出現による発展的解消とも言ふべき、若駒クラブが誕生した。筆者と同窓生であった、高柳常治を、神戸から呼び捕手に起用した、彼は北神商事時代県下有数の各中堅手で鳴らした、後には阪急ブレーブスに入団した経歴の持主である。

然し乍ら皆弱小クラブで、せいぜい東播地方で覇を競う程度で、阪神間の強豪チームからの呼びかけからない。そこで、昭和二十二年春各チームの代表者による大同合併会議が行われた。議論百出で、チーム名さえ決まらない。

三木クラブ、三樹クラブ等々、最終的には、三木郷土特産品の金物をPRも兼ねて且又、広く金物業者の賛助を得る為、三木金物俱樂部と決定された、選手人選も難航し交球から一人も参加してくれず、若駒より、筆者、高柳、吉田兄弟、白井、改発、天狗より、大林氏を監督に迎え、太平より井村、

山本、三宅、山本昇の諸選手でスタートした。

段々実力を備え、神戸市から南風クラブや、三輪組、赤龍ドラゴンズ、須磨化学クラブ等々、当時の強豪チームを招待出来る迄に成長した。

南風クラブは前川八郎氏（元巨人軍投手元滝川高校監督であり、別所昭、青田昇等各選手を育てた有名な人である）引きやるスマートなクラブであった、又三輪組も神戸最高のチームで、トップバッターに中務（育英商業出身）を据え何でもかんでもファールにする厭なバッターで一打席平均二十五球位の投球を要したあの、平家蟹の様な顔は夢の中でもうなされる始末であった。

先にチーム結成時にユニホームについて新調する案も出たが、山本一郎の友人で元阪急投手で、後にチーフスカウトとして活躍した、丸尾千年次（現日本ハムチーフスカウト）を通じ阪急の古ユニホームを買い受けた。

チームも充実し愈々全国制覇を目指し進む事になったが、何か一本太い柱が欠けた様な物足りなさがあって、既に四番打者と守備面の補強を必要とした、交球クラブから小林琢二と砂川憲三に白羽の矢を立て説得したが、小林琢二のみ獲得、中堅手四番打者として活躍して貰い大いに助かった。

一番三宅、二番山本一郎、三番筆者、四番小林、五番井村、六番白井、七番高柳、八番吉田勉、九番山崎の打順を組め守備も外野陣が強化された。

軟式野球二十周年記念全国大会予選（近畿大会）兵庫代表として、大阪天王寺公園球場へ駒を進め第一戦大阪一部代表、水上製造所を退け第二戦大阪二部代表、大福製作所、キング除虫菊（蚊取線香製作会社）と延々三十一回延長戦の末、一対〇で降した、二〇分後、優勝戦は奈良県代表五条市役所三対〇で降し近畿代表を獲得、市民球場での全国大会に出場することになった。

文字で書けば優しい事だが、筆者も我々よく頑張ったと思う、準優勝三十一回、優勝九回と二十分間休んだだけで、四十回投げ抜いたのだから、相手側もよく戦ったと思う、二十七回表、一死二、三塁で相手打者が、スクイズを成功させ、あ、やられたと思った時捕手高柳が、イリガリバットでボール（不正打撃）を見破り早速アピールして見認められ、無得点になり三十一回裏、三宅、井村の殊勲打で勝を取めた。

全国大会では一、二戦は難なく勝ち、準優で四国代表、道後温泉クラブとの激戦で相手は尾茂田（明大出身東急セネタースの名外野手）引きやる強豪チームであった、これを四対一で破り、優勝戦は関東代表全千葉クラブを一対〇で破り、全国制覇を遂げたのである。ここまで来るには、全員筆舌に盡くせぬ努力をした、大林監督初めとして家業を忘れる位の練習の明け暮れであった、毎日雨天を除いて、三時に三樹校庭に集合して猛練習に励んだものだった。

連戦連勝する内に、第七回国民体育大会（福岡平和台球場）に、兵庫県代表で出場が決まった費用は当時の金で二十万位要したが、後援会の人々や賛助会員による熱烈な運動により、一ヶ月程で、チーム一同が安心して遠征出来る様準備して下さった、今の時代なら新幹線あり飛行機ありで造作も無いが当時列車のみで十四時間は要した記憶がある。

旅館も米持参でないと泊めて貰えない、大会は高松宮殿下の台臨を仰いで開催され、第一戦は大阪県代表全津久見クラブを三対〇で降し緒戦を飾った。

その日夜半から豪雨になり「あ、明日は中止や」と選手はのんびり博多の街へ遊びに出た。翌朝になり、からりと晴れ渡りプロが使用する程一流球場故、水揚げが良く試合が行われる旨連絡が来た。第二戦は岐阜県代表丸物百貨店で当方の心の油断もあり完膚なき迄叩かれ七対一で敗れた。

久しい間敗戦のわびしさを味あわなかった一同言葉も無く遠い帰路に立った、その後暫く連勝を続けたが、天皇杯争奪兵庫予選（西宮球場）で、神戸早駒運輸に完敗し、そろそろ選手間に秋風が立ち始めた、何と言っても草野球の哀しさで収入源が無い上に、皆生活がかかって居る、先づ井村功、山本一郎、高柳常治三名が生野町の足立林吉商店に引き抜かれた、これで戦意をそがれ、八十九勝七敗の栄光あるチームも解散に追いこまれたのである。

時あたかも奈良若草国民体育大会（第三十九回）が開催されているが想えば、三十二年前にさかのばる訳である。当時の三木金物は全国焼土復興の為未曾有の好景気であり我々一同もその恩恵に浴し有意義な青春時代を送らせて貰った。

今や三木市も人口七万余余も増えすぐ十萬都市に手が届く様になったが、その文化スポーツ等交流は殆ど自由ヶ丘や緑ヶ丘中心に行われ、旧三木市内は影が薄くなった感さえするが、市制三十周年を迎え、旧三木市にもこんな古い球史があった事も知って欲しいので敢えて筆を取った次第である。

県大会出場チームの横顔

豪球クラブ

チームの設立は昭和50年9月。神沢現監督が主に同級生を集め、当時は「シャレーダーズ」と名乗った。52年には公式戦17勝4敗、優勝2回と早くも三木市No.1に。さらに56年には「豪球クラブ」と名を変更、十数年ぶりに名門の名称を復活させた。これは「旧豪球クラブ」解散時に神沢、平井、加藤らが在籍していたことによる。

現在の三木市では最強。毎週のハードな練習ぶりは有名であり、絶えず県レベルでの野球を目指す。昨58年度も天皇賜杯大会、県都市対抗及び播磨都市対抗などに出場、「豪球時代」の到来かといわれる。それを裏付けるかのように本年度最初の大会である兵庫県民大会予選に三木市はおろか東播地区でも優勝代表に選ばれ、三木市勢として久々の快挙を成し遂げた。

ほぼ全員が高校又は大学での硬式野球経験者。毎年意欲的な補強を行い、既に高校の野球部出身というだけでは通用しない程のチームレベルに達している。今季は高校時17連勝を記録した左腕の本格派中井が加入、ベテラン加藤も健在で左右両輪が揃った。打撃陣も松浦に始まり中田、加藤が主軸、前後を平尾、安田、兼古らの強打者が占める。さらに大型新人山口、長打力の野村、楠原らが並ぶ打線は迫力に溢れる。

チーム(23名)の若返りにも成功、神沢、平井、松山ら設立メンバーは30才台半ばにもなったが、25才以下の若手が半数近くを占めるようになった。そしてチームメイト全員の仲の良さがチームの自慢である。

又、特筆すべきこととして、チーム及び個人の記録が完全に整理保存され、毎年詳細な記録を載せたイヤーブックを発行していることが挙げられる。

三木市役所野球部

我がチームを一言で紹介しますと、力のチームでなく、和のチームと言えます。

昭和29年、三木市市制施行以来からすでに野球部が結成され、以来30年三木市役所野球部として長き伝統を引き継いでいます。その間、全く他のチームの足もとにも寄れなかった時代、連勝に連勝を重ね県大会にも出場した黄金時代を歩んできました。その中からはまた多くの名(迷)選手が、そしてエピソードが生まれ、今にして楽しい語りぐさとなっています。

夏の試合、目にしみる汗をぬぐいながら、照りつける暑さの中、相手のチームと戦っている以上に、自分の体力と精神力に挑戦し、力いっぱいプレーにとりくんでいる自分、勝敗を越え、暑さにうち勝って試合をやりぬいたあとの充実感……共に苦しみをのり越えてきた仲間の心意気……これからも求めつづけ、大事にしていきたい。

別所クラブ

一、結成年月日は、昭和44年、夏頃三木章刃物本舗(株) 社長の協力のもとに三木章クラブとして一步を歩む。その時のメンバーは、別所中野球部OB (昭和41年度東播中学野球選手権覇者13名) と他7名であった。その後昭和43年度東播中学野球選手権覇者7名が合流し、別所クラブと命名する。当クラブの結成目的は、別所中野球部時代恩師、藤江環先生の教えのもとに、別所中出身の親睦を計ることである。

二、メンバーの内容は、昭和41年・43年に、東播中学野球選手権大会優勝し、県大会出場した者を中心に結成し、別所中の後輩数名で現在に至る。

三、主たる成績

1. 三木大会 数回優勝
2. 東播大会 数回出場 (そのうち、一、二回優勝経験あり)
3. 県大会 数回出場

常栄クラブ

◎最初大工左官、鍛冶屋など職人の集まりで、気の合う仲間では何かスポーツをと言う事で初めた。【昭和五十年】

- ①衣笠 博文 外野⑧
- ②畑 勝美 内野⑥
- ③大西 一幸 内野⑤
- ④中川 紀則 内野②
- ⑤大辻 節文 外野⑨
- ⑥三谷 貞正 外野⑦
- ⑦達山 勉 内野③
- ⑧岩井 一郎 内野④
- ⑨大西 康雄 内野①
- ⑩田中 勉 内野
- ⑪大西 聡則 外野

- ◎兵庫県軟式野球二部東播大会 優勝
- ◎兵庫県軟式野球二部県大会ベスト4
- ◎兵庫県都市対抗三木予選 優勝
- ◎全日本軟式野球天皇賜杯 優勝
- ◎三木市長杯 準優勝三回
- ◎三木市長杯の決勝で三木市役所と最試合をふくむ、二十五回裏でサヨナラ負けをしたが熱のこもった、いい試合だったので、思い出に残る。
- ◎野球を通して多く友達が出き、色々体験出来た事をクラブ会員全員が喜んでいる。

兵庫県信連

1. 結成した年 昭和30年

職員体力向上及び試合を通して近畿各信連 (同団体) 職員との親睦

2. メンバーの内容

現在の戦力は、監督の30才を頭に20才までの16人で、平均年齢が24才のヤングチームである。

特に目立った選手はいないが、左右 (丸尾、丸山) 両エースと左の控投手を軸に、外野の守備範囲の広さ等、どちらかと言えば、守りのチームである。打線は、長打力はないが、1番から9番まで盗塁のできる脚力があり、不動の1番打者 (細川) は、毎年5割前後の出塁率を誇っている。

3. 主たる成績

57年第26回高松宮賜杯（一部）県大会出場。同年第37回近畿秋季大会（一部）県大会準決勝進出。

三木キング倶楽部

結成年月日 昭和25年

チームの評

“三木キング倶楽部。は当初戦後世相の乱れている中に於て青少年育成の一助にと結成された。

全国少年野球大会に参加する為め、昭和25年に“三木小鳩クラブ。を結成発足をした。当時は勿論学生であり少年であり乍ら幸運に恵まれ、その年の東播地区大会に優勝をして少年の心にも勝利の喜びを味わったのです。それから目標を一つ上の社会人野球に置き、県軟式野球連盟傘下の、三木野球協会に加入、クラブ名も“三木キング倶楽部。と改名をする。

当時の軟式野球界には、全国にその名を馳せた、“三木金物。があり相前後して“三木交球。が三木地区を初め、県下での強豪チームの名を欲しいままにしていた、私達キングも何時の日か、そのチームを倒さんものと、毎日の夕方を練習日に定め、ボールの見えなくなる迄虫となつて励んで来た。時を同じくして“誠球。が誕生して居り現代のプロ球団阪神・巨人の様なライバルチームでした“キング”と“誠球。の幾度かの戦の中にはチーム同志の友情があり戦いの上での憎しみもあり一筆に書き現せない色々の思い出が多くありました。三木の軟式野球界に於てはほとんどの大会予選で、優勝戦は対誠球戦であつたと記憶して居ります。

事実三木では誠球以外には敵はなかったと自負しています。

が、しかし私達全員もその域に達する迄の努力と練習は並のものではなかったのです。今の現役チームの練習などは、その非ではないと思います。

私達チームは外見荒武者の田舎チームであつたが事勝負である以上、勝たなければ意味がないので勝つ為めに練習をして来た。

一つの目標（勝つ為め）に向つて、チーム全員が一丸となつて、練習で流す汗は苦しい中に光る美しい“和。の結晶であり、又それが現役を退りぞいた今尚続く友情の汗であつたと思います。

悪評の多い反逆チームであつたが青春の思い出が一番多く残して居る（各人が）のも我がキングクラブであつたと思つて居ります。

主たる成績

昭和36年度より昭和40年度位が最強であつたと思います。

- 三木地区大会に於ては優勝数は数えきれない。
- 兵庫県都市対抗選手権ベスト4思い出に残る試合
- チームの誇りとする事

クラブ結成以来解散する迄の、何年間一貫してクラブチームのハンデを背負い乍ら県大会でもある程度の戦績も残せる力量等を持続した事。

三木ライオンズクラブ

結成年月日

昭和三十六年十月

いきさつ

当時の常勝チーム誠球クラブに対し、打倒誠球。を合い言葉に結成。

メンバーの内容

監督

主たる成績、試合その他の思い出。

大西 章

その他、結成当時のクラブ員は、最も個性的で野武士的感觉であった
と思います。しかし、現在のクラブ員は時代の流れと思いますが、個性
的な面が少なくなりチームワークを前面に押し出した「輪」のチームと
なったように思います。又、反面この様な事が連帯感を生みチームとし
て円滑に行く一因であると思います。

1. 大 西

2. 岡 田

3. 大 西

4. 藤 田

5. 長谷川

6. 行 平

7. 岩 崎

8. 広 田

9. 岡 田

三木市卓球協会

会長 中 嶋 将 雄

匿名座談会(58年9月11日、協会理事)

協会設立三十周年をひかえ協会理事の方々といっても42、43年ごろまでに就任された方で卓球協会の歴史という大げさになりますが大げさに自由に語っていただくことにします。そこで29年に市制が施されましたが、その前後から、今言いました42、43年ごろに限定しております、よろしくをお願いします。

—— 三木町の頃三木卓球クラブで活躍されていた方々によって、三木卓球協会が生まれ、山本角治さん（故人、山本呉服店）が初代会長で、今の中嶋会長さんを中心にして29年に第一回三木市軟式卓球大会を開催したり、東播六市対抗卓球大会に参加したり、市の内外で活動を始めました。

—— 第一回の市民大会は今の市立図書館のある上の丸に、当時、三木高の講堂で、4台ほどの卓球台で男子だけで始めています。大阪の卓球用具のメーカーが後援してくれたと思っています。

—— 優勝は萩原君（別所町）だった。

—— そうだ。第二回は中嶋君（現会長）、第三回、四回は土出君（現理事、金物商自営）が連覇第五回は吉田君（若人ク）が優勝している。

—— その頃の大会は軟球だった。三木市軟式卓球大会が正式の名称だったと思うよ。青年団が、軟球を使用していたので市民大会も軟球の時代が続いている。高校は硬球だった。

—— たしか35年に高校は、もう硬式になっていた。

—— 協会の成立が案外スムーズにできたのはそれ以前に土壌があったからだ。

—— 中嶋君が高校時代に、県で活躍していて、明石や加古川の卓球人と交遊があったのが大きい。地元では石田さん（サボテン印）杉森さん（塗装店）松本さん、丸橋さん（明盛街、靴店）北岡さんといった人たちが、22、23年ごろから練習をしていた。

—— 杉本さんは、軍隊から復員の途中、舞鶴で卓球をしたと言われている。

—— 練習とか大会を、石田さんの事務所（旧、中町にあった。）でやっていたと聞いている。

—— 前田町の、もとの昭和キネマに入る三角の道路、広田の食料品店の傍にも練習場があった。

—— 二十年代の後半には、今の岩宮町に剣道の岡田道場があり、卓球もそこで練習していた。旧三木町から自転車を通ったものだ。中学生もいたよ。

三木高で、はじめて近畿大会に出場した森本君もそこで育ったといえる。彼は、一年修了で大阪へ転居した。

—— 彼との同級生は、のちに会長を勤めた衣川君（故人、堯之、三木市役所）や、市民大会で優勝した吉田透君（えびす町在住）がいる。（別添資料）

—— 話はとぶが、33年に、いま話のあった三木高の講堂で第四回の東播六市対抗卓球大会を主催したが、当時、関学の小松原という全日本クラスの選手と、三木市から、いま話のあった人たちと同級の山口史郎君（緑が丘在住、東海銀行）が15—15ぐらいまで接戦していたのを覚えている。大したものだと思っていたら、そのあとストレートに点をとられた。彼は当時、三木高の三年生じゃなかったかな。

—— もう高校生の親になっているが、三木へ帰った機会にと、いまでも市民大会に参加している。

—— 旧三木町の頃は、いまの稲美町のうちの母里村と、一般・中学と対抗戦をやっていた。

—— 三木で開催のときは、今の市役所の場所に平屋建ての公民館があり、2台か3台並べてしたものだ。

理事の中にも、中学生の選手で出場したものが多いよ。

—— 市民大会に女子はいつ頃はいったかな。

—— 35・36ごろではなかったかな。盛衰があって、参加者が少なく、女子だけリーグ戦をしたこともあった。

—— 初期のころは、男子だって、大会当日に受付けて、組合せをつくっていた。それでも3時ごろには試合が終っていた。

—— 衣巻市長（体育協会会長も兼ねておられた）が、表彰式に来られることになっていながら、予定より早く試合が終って困ったこともあった。

—— 市民大会も、盛會になるに従って、春秋二回開いた。

—— 職域対抗というのをやったこともあるが長続きせず、また第一回から再開したり……。

—— ランキング戦も、いまの大会の前に、やっている。市民大会ではダブルスがないので、そのためと、女子の奨励も目的だった。

—— 中嶋会長が、高松君（昭雄、元理事東京在住）と組んで優勝している。

—— 古い話だ。

それと、三木市卓球協会は、29年9月に他の単位協会や、体育協会と同時に設立されている。ただ、私の記憶では東播六市大会を主催したときに、ある市から、三木卓球協会主催では参加できない。三木市卓球協会なら参加するとクレームがついたことがある。

—— 名前は変わっていたが、ゴム印の古いのを使って案内したために誤解が生じたのだと思う。

—— 東播六市対抗への参加費や、大会開催時は、別に援助してもらっていた。

—— 活躍した選手を挙げて貰おうか。

—— 6・7回ごろまでは、前にあがった人の他に、平井（現理事、自営）鈴木（故人、喜久雄、元理事）坂田（現理事、自営）沢井（一夫、三木市役所）

—— 阪神相互の支店長だった三木さんが、カットプレーで優勝されたことがある。

—— いつまでも、卓球を続けたいと誓ったものだ。

—— 三木高のOBでは生友（三木市役所）松原（神戸大丸）高松、寺本（現理事、三木東高教諭）井沢（自営）宮本（和光証券）白井（自営明月堂）公森（自営）山本晃一（現理事、自営）大山虎一（バンドー化学）木下（現理事）の諸君がいる。

—— ほかに、岸本君（関電三木営業所）がいた。彼は、3回ぐらい優勝している。寺本君が小野工に勤めてから（40年以後）三木から小野へ通学する選手も参加して、盛大になってきた。

—— 女子は、やはり三木高卒の選手が主だった。旧姓であげると、永尾つね子、藤田、狩野、宮嶋、大橋、吉田、鈴木、永尾、井上、明芝、堀尾、田中、西海、谷本、井筒とあげられる。

—— 市民大会には、なかったが、東播六市対抗ではいずれも頑張った。

—— そのあと、橋本、柏木などいい選手がでている。

—— 神戸市の三菱電機体育館で県の大会があり、参加している。

- 三木卓球クラブや、卓球教室のことも協会の仕事としては大きいじゃないか。
- 卓球クラブは直接、協会とは違っていたが、メンバーは重なっているものが多かったし、技術の向上には役立っている。
- 加佐の、いまの戸田精密の場所に明星という卓球場があり、週2日練習していた。
- 矢張り、いつでも練習できる場所が欲しかった。
- 30年代の終わりから40年代にかけての頃だ。
- 三木高が加佐に移転後、旧三木高の体育館が市民体育館になり、よく利用した。三木高の移転は42年だったと思う。
- 市教委が卓球教室の開催を依頼してきたのが、47年だった。
- 緑が丘の、現協会理事の宮本さんがそのころ中心となり、熱心に参加された。
- 寺本君、山本君、木下君、沢田君（理事）が献身的に努力してくれたので教室も度を重ね、市の卓球人口も、急増した。
- 勤労者体育センターが52年にオープンし、場所に恵まれたことも大きい。
- 古い話に戻るが、市民大会も市内の他の行事と重なると参加者が激減していた。日程を選ぶのにも苦労した。
- その点、七万都市となると、そんなことは気にならなくなった。
- 小学生の県大会で優勝者（辻田明君）がでるなど、素晴らしいことが見られるようになった。
- この選手を育てることが大事だ。
- まだまだ、お話しになりたいことが多いと思いますが、おめでたい優勝の話がでましたので、きょうはこのあたりで閉じることにしましょう。今後も、一層、当協会に力を貸していただき、三木市の卓球の発展にご尽力下さい。本当に、お疲れのところ有難うございました。

——卓球クラブは直接、協会とは違っていたが、メンバーは重なっているものが多かったし、技術の向上には役立っている。

——加佐の、いまの戸田精密の場所に明星という卓球場があり、週2日練習していた。

——矢張り、いつでも練習できる場所が欲しかった。

—— 30年代の終わりから40年代にかけての頃だ。

—— 三木高が加佐に移転後、旧三木高の体育館が市民体育館になり、よく利用した。三木高の移転は42年だったと思う。

——市教委が卓球教室の開催を依頼してきたのが、47年だった。

—— 緑が丘の、現協会理事の宮本さんがそのころ中心となり、熱心に参加された。

——寺本君、山本君、木下君、沢田君（理事）が献身的に努力してくれたので教室も度を重ね、市の卓球人口も、急増した。

—— 勤労者体育センターが52年にオープンし、場所に恵まれたことも大きい。

——古い話に戻るが、市民大会も市内の他の行事と重なると参加者が激減していた。日程を選ぶのにも苦勞した。

——その点、七万都市となると、そんなことは気にならなくなった。

——小学生の県大会で優勝者（辻田明君）がでるなど、素晴らしいことが見られるようになった。

——この選手を育てることが大事だ。

—— まだまだ、お話しになりたいことが多いと思いますが、おめでたい優勝の話がでしたので、きょうはこのあたりで閉じることにしましょう。今後も、一層、当協会に力を貸していただき、三木市の卓球の発展にご尽力下さい。本当に、お疲れのところ有難うございました。

柔道協会

会長 小 山 伊 一

現在会長に小山伊一氏副会長今井隆之氏

理事長池田哲雄氏を選出している。

昭和 39 年より始めた青少年柔道サークルは現在別所公民館に於いて少人数ではあるが、引続き指導を行なっている。

これまでの三木市柔道協会の主な活躍のあとをふりかえてみると。

まず三木高校柔道部OBを中心とした全国青年大会への出場である。

昭和 31 年兵庫県青年大会で初優勝をして以来六度県大会に優勝、全国大会に出場し。兵庫に三木ありとその名を全国に知らしめたのである。

特に昭和 38 年第 12 回全国青年大会に於いて、団体戦 3 位に入賞（監督 池田哲雄軽量級 今井隆之 中量級故井本源治 重量級 横出豪樹）個人戦に於いても準優勝（中量級故井本源治）という輝やかな成績を残している。

全国青年大会出場者

昭和 31 年 守沢、梶山、生友

昭和 34 年 広田、池田、向山

昭和 38 年 今井、井本、横山

昭和 41 年 久保田、岡野、大辻、宮野、増井、大杉

昭和 47 年 告野、常深、腰前、武川、金井

昭和 55 年 藤原、門、森下、前田、宮地

又、昭和 33 年、兵庫県代表として近畿高校柔道大会に出場、兵庫県の 6 年ぶりの優勝に貢献した池田哲雄 5 段（三木高校 11 回生）今尚、兵庫県警察柔道大会の現役で活躍している官野公平 4 段

（三木高校 15 回生）特にその中でも、岡田靖宏 5 段（三木高校 18 回生）常深進次郎 5 段（三木高校 20 回生）の両名は昭和 47 年 3 月より 49 年 4 月まで、外務省より、ザンビア、マレーシアへ派遣され、各国の柔道指導者として活躍したことは、我が三木市柔道協会としての誇りである。今後もこのすばらしい伝統を受けついで青少年諸君の益々の期待するものである。

最後に協会発足当初より御指導いただいた武川茂夫、故常深陽太郎、両先生の功績に対し心より感謝申しあげるものである。

三木市軟式庭球協会のあゆみ

会長 小 西 啓 一

当三木市における、軟式庭球の歴史は古く、大正初期に、コスモス倶楽部（三宅得之氏主宰）が結成されており、正入寺横の和田萬のコートで、阪神間からも多くの選手が集って、大会が催されていた。又、当時の小野中にも庭球部があって、活躍されていたらしい。以後、昭和初期、戦前と続いていたようだ。以上は三木史談、第6号（三木郷土史の会、発刊）に寄稿されている。三宅得之氏の記述による。

戦後、昭和23年頃、光川五十二氏（写真館経営）が三木庭協を作られたのが始まりである。

当初町役場前にコート进行仮設し、後に三樹小北側にもコートが出来練習をしていたが、光川氏が急逝された後、三宅祐治氏が引継がれた。いつの時代もコートの不足には難渋し、コートなしで庭球はできないので、各界に賛成提出を乞い、当時の金額で25万円の浄財を集め、三木中学校の東南部の空地に、2面のコートを作り、第一回三木市民庭球大会をコート開きをかねて、開催し、以来毎年、夏に大会を開催した。後に、中学校にプール建設が決り、テニスコート地にプールが作られた。この様に先輩達が苦勞して作られたコートが無くなったのは本当に残念でなりません。以後三木中学校、三木高校、小林ギムネ等のコートを借りて大会を開催していたものであるが市民コートが無いため、今一步、盛り上りに欠けていた。東播、加古川、明石、北播、西脇小野と立派なコートのあるところは、テニスも盛んで、都市対抗に参加しても苦杯のなめどうしであつたものです。

戦後20年～40年後半迄、大会記録や写真等資料が一切なく、協会では、記録を整理し保存を考へておりますので、古い資料をお持ちの方は、協会迄御一報いただければ幸です。

この紙上をお借りしてお願い申し上げます。

現在は、社会人の協会登録会員数 300 名を数え、市民大会は、春季、夏季、選手権、会長杯大会と年 4 回開催し、中学生、高校生、社会人と男女130 チーム以上参加のもと、盛大に熱戦が展開されております。県大会、東播大会、北播大会へと積極的に参加して、技術的にもレベルアップして来ております。しかし、コート不足による練習不足と、20代、30代前半の若手が少数である、又、休日のみテニスが出来ないのが現状であり残念である。

昭和56年、高木公園テニスコートが4面開設されましたが、コートがハードコートの為め、軟式庭球には、若干不向きで、仮称、松ヶ丘造成地に計画されている、クレーの6面のコートの完成を早期に実現していただけます様、望まれてなりません。

学生時代に庭球に親しまれた往年の方々、今一度、青春を取り戻して、共にプレーに汗を流しませんか。皆さんの参加をお待ちいたしております。

◆役員

顧問 門長
 会長 副会長
 理事長 副理事長
 会計 常任理事
 〃
 〃

井口威和緒
 小西啓一
 佐藤充
 中川清矩
 若林博之
 財田佳郎
 岡本利昭
 坂田敏夫
 新田爲章
 大西一明

理事 磯忠重
 〃 曾良晨一郎
 〃 稲田義秋
 〃 股野昇
 〃 平松真吾
 〃 岸田正輔
 〃 寺尾忠司
 〃 永尾隆保
 〃 井井口和延
 小谷賢次
 会計監査



昭和52年8月7日 小林ギムネコートにて

三木市軟式庭球協会

年次 (昭和)	会 長 名	副 会 長 名	役 員 名	主な大会・行事	功 労 者 表 彰 スポーツ優秀選手	氏 団 体 名
28	井口威和緒	三宅 祐治	武井 節	市民大会(夏季)		
29	"	"	"	"		
30	"	"	"	"		
31	"	"	理事長 岡野 清	"		
32	"	"	"	"		
33	"	"	"	"		
34	"	"	"	"		
35	"	"	"	"		
36	"	"	"	"		
37	"	"	"	"		
38	三宅 祐治	井口威和緒	"	"	市功労者表彰	井口威和緒
39	"	"	"	"		
40	井口威和緒	三宅 祐治	"	"		
41	"	"	"	"		
42	"	"	"	"		
43	"	岡野 清	武井 節	"		
44	"	"	"	"		
45	"	"	"	"		
46	"	"	"	"		
47	"	"	"	"		
48	"	"	永尾 隆保	"		
49	"	"	"	市制20周年記念大会 市民大会(春季・夏季) 選手権大会 会長杯		
50	"	"	"	"		
51	"	"	"	"		
52	"	"	"	"		
53	"	"	"	"		
54	"	"	"	"		
55	"	中川 清矩	佐藤 充	"	(市・県) 功労者表彰	井口威和緒
56	"	"	"	(市制25周年記念大会)		
57	小西 啓一	西 昭信	"	"		
58	"	"	"	"		
59	"	佐藤 充	中川 清矩	"		

三木市剣道連盟

会長 宮 脇 義 昌

日本民族が長い伝統の中で培ってきた文化遺産の一つ剣道。この剣道を世相の変遷にも臆することなく、先輩達の精進により。その活動を続けてまいりました。尚武の地三木市で意義深いことと思います。

終戦の混乱の中からも、故岡田逸治前会長を中心に同好の者が集い、三木市（三木町）の社会体育の先駆ともなりました。

剣道は、稽古をくり返すことにより、丹田を錬り、心を澄して他を生かし己を磨く人間づくりです。この目標に会員一同が30数年取り組んできました。その中で、少年剣道教室が、次々と生まれました。三木中央・平田・別所・志染・緑が丘・緑が丘東・自由が丘の各教室があります。また、大会も、演武始め・三木市武道大会・J C大会と姿や形が変わりましたが、現在では、別所公春まつり剣道大会、

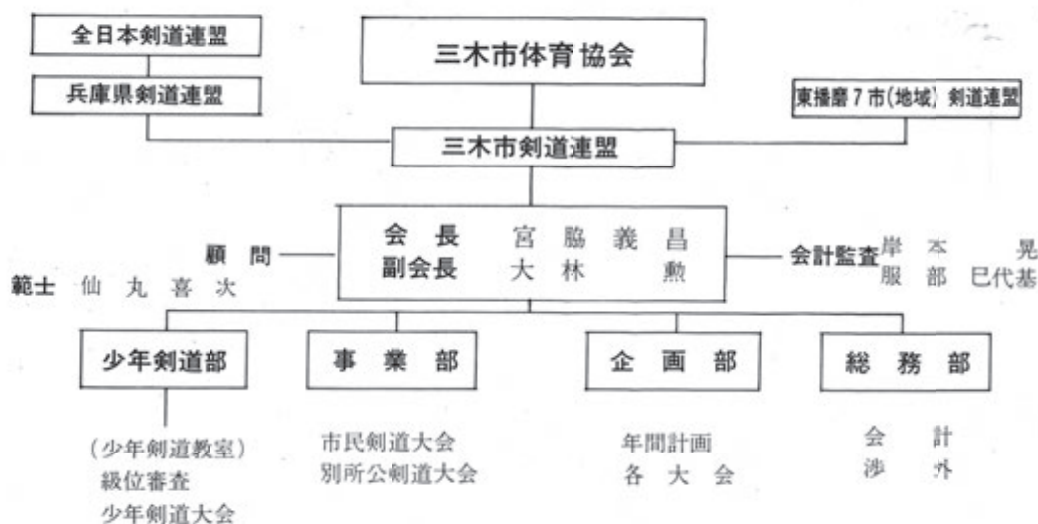


昭和58年 東播7市親善剣道大会（30回記念）

三木市民剣道大会（第5回）・三木市剣道教室対抗優勝大会（第3回）。対外的には一般が東播七市親善剣道大会（第30回記念大会）を昨年度三木市で開催いたしました。そのほか少年達の稽古の意欲を計るため、年三回の級位認定審査会・合同稽古（年3回）・稽古始め稽古納めの会・審判講習会（年2回程度）を市連盟として計画運営しています。今後とも一層の充実を計り、地域の社会体育の核として活動を続けます。

これからも剣道のもつ精神面を大切に、流行におもねることなく、正しい剣道の普及に努め、社会体育の一分野として、三木市体育協会の中の三木市剣道連盟として活動を続けたいと考えています。

1. 三木市剣道連盟の組織（昭和59年3月31日現在）



2. 三木市剣道連盟・30年の思い出

昭和26年8月1日に三木市剣道連盟の前身である同好会が、前会長、故岡田逸治先生を会長として発足した。昭和24年頃より、愛好者が集い三樹小学校の工作室や講堂を借りて稽古をした。また、三木警察署（本町3丁目）の道場や公民館等で稽古も行なわれた。

当時よく稽古された方は、宮脇義昌・岡田栄之助・川井市郎・伏水力松・大西勝治・財田辰治・山田 勲・岸本 晃・岸本 昇・澤井正幸・澤井人司・久保田達男・小紫邦夫・井口 正・井口功・久米田奎史郎・丸山秀隆・大城正城・警察より、鹿嶋・福本の各氏であった。

また、警察の演武始めの大会があり、昭和29年頃より、小野市へも稽古に行くようになり、盛んになっていった。

三木警察署の道場は、土足で使用しているので、板目が荒く水拭きをしなくてもよくなり、足裏をいためることが多かった。また、公民館では、板が薄かった為に床をいため使用できなくなることもあった。

昭和31年3月21日、三木修武館道場が開館し愛好者に喜ばれた。創立者は岡田逸治先生で三木市の剣道が、東播磨地域の各市町村より

も早く剣道が普及したのはこの道場のおかげであると言える。この前年、昭和29年12月8日より、第1回柔・剣・空手道大会が、三木武道連盟の主催で大会がもたれて恒例の行事（ふいご祭～金物祭）となった。大会費を作るため、映画会を催したり、広告費をお願いして大会を運営した。また余剰金で、三木高校へ防具を贈り、三木高校剣道部創立の一役にもなった。

剣道も年を追って盛んとなり、近隣の市においても同好者が増え、東播磨の西脇市・小野市・三木市・加古川市・高砂市の五市が集い。昭和29年5月7日西脇市において、第1回東播五市親善剣道大会が催された。一般男子個人の部で橋口 新氏（三木市）優勝、三位・岡田栄之助氏と好成績であった。第二回大会は昭和29年12月5日小野市で催され、一般個人の部三位に岸本 晃氏が入賞。昭和32年9月1日は三木市が主管し、一般個人の部で二刀流井口 正氏が、活躍された。

その他主な事項を年次をおってあげると、昭和31年国体旗リレー神戸電鉄三木駅～大村坂まで、昭和32年、第一回別所公春まつり大会・第一回市民武道大会・第一回市民総合体育大会。33年・少年剣道教室開講（三木小・修武館道場）34年・東播五市親善剣道大会で三木中優勝、39年・東播六市親善剣道大会で三木中優勝、昭和41年・東播六市親善剣道大会で三木高校優勝、昭和44年第16回東播七市親善剣道大会を記念して、三木・別所・星陽各中学校へ防具を寄贈（23万円）、昭和48年よりJ C大会三年間、昭和48年12月22日第一回級位認定審



「国体旗リレー 神戸電鉄駅前」



修武館初開記念（昭31. 3. 21）

判で三木高校優勝、昭和44年第16回東播七市親善剣道大会を記念して、三木・別所・星陽各中学校へ防具を寄贈（23万円）、昭和48年よりJ C大会三年間、昭和48年12月22日第一回級位認定審

査会の催し、少年の剣道にはげみと正しい剣道の習得を期す、昭和54年第28回青年大会に県代表として、戸田・黒田・光川・小林・吉岡・金井・津村各氏が参加。昭和55年より新たに第一回三木市民剣道大会、昭和56年東播七市親善剣道大会で女子個人の部で形本ゆかりさん優勝、昭和57年第一回三木市少年剣道大会、昭和58年東播七市親善剣道第30回記念大会を当市で開催する等その実績をあげている。

3. 三木の剣道事始め～財田辰治

(前三木市剣道連盟副会長)

昔の写真の中に、剣道部の写真が出てきました。昭和8・9年頃の三木町立青年訓練所（青年学校）の中で剣道の同好者が集い、これが三木の同好者の稽古の母体となったようです。当時は指導者として故宮脇秀雄先生を中心にして、三樹小や三木警察署（現三木信用金庫）の道場で稽古をしました。稽古を重ねるにつれて、青年学校だけでなく、小野中・加古中・県農の生徒も入会しました。稽古は夜間で九時頃になっても草谷や別所等から自転車で通い熱の入った稽古をしました。

時には、特別稽古があり明石警察署より有段者の方の応援指導も受けました。試合は警察署の正月の演武始めに一般同好者と署員との対抗試合。連合青年団の県大会へ美囊郡代表で出場していたことが思い出として残っています。



排球協会

会 長 澁 谷 守

昭和24年9月 当時三木福井郵便局長であった若田定夫氏が旧教育委員会前の広場で楽しんでいた排球を組織的に世話してはと呼びかけて若田氏を会長として三木排球協会が誕生した。

結成当時の登録チームは、三木高等学校PTA、三木警察署、三木教職員、細川クラブ、口吉川クラブ、小野工OB、教育委員会、電報電話局、など勿論男女混成チームで9人制による定期大会が実施された。会長若田定夫氏、顧問に野中高校々長、小倉教育長、常任幹事に広岡正義元三木高校々長、渋谷守現排球協会々長、理事には岡山氏（教育委員会主事）、岡森（三木高教師）、加藤（三木警察刑事）、公森（前教育委員長）、故寺本（社会福祉協議会事務局長）、藤枝（口吉川クラブ会長）で春秋盛大に開催された。特に産経新聞社に後援を願い小谷記者には随分とお世話になったものだ。大会の会場は常に教育委員会広場で県道に面していたので非常に応援も多彩であった。ルールは、昔年のもので非常に寛大であった。当時の最強チームは口吉川クラブで優勝カップ・楯など口吉川中学校に置いてあったが、星陽と合併のときに姿が見えなくなった。

昭和29年7月三木市制定にともない、陸上・野球・庭球・柔道・空手・卓球・排球の協会が合体9月に三木市体育協会となり当排球協会も三木市排球協会と発展した。加盟チームも女子の単独チームが正式に加盟し、内容も充実し、男女別の試合が実施されることとなった。後援も産経・読売・神戸と新聞社も非常に力を入れて下れるようになった。又、市内企業の三木信用金庫・三木農協等の後援も得られるようになった。昭和29年12月1日小野市制実施により既に市制実施の西脇市などの申出もあり、昭和30年春の大会後、両市教育委員会元当市教育委員会の呼びかけで東播三市対抗親善排球大会が提唱者三木市主催で、三木市で開催。会場も三木中学校バレーボールコート（野外）4面で実施。男子は口吉川クラブ、女子は細川チームが優勝した。記録が前後したが、30年の春の大会は三木信用金庫、細川クラブ、教職員女子部などが活躍されたものである。男子チームでは、三木市民病院チームなどは清水薬局長など名セッターが活躍されたものである。三市対抗も第2回は西脇市で31年8月、西脇工業高校バレーボールコートで実施。男子は口吉川クラブ、女子は二位であった。第3回は小野市河合中学校で、このときも口吉川クラブが優勝した。当時の口吉川クラブのメンバーは、主将・藤枝昭（前三樹小校長）、上中亘（元三木中校長）、上崎長太郎（元三木市課長）、西本凱昭（社教課長）、藤本欣二（岩宮区長）、井上輝之、井上勝策、西本某、藤原隆夫、岸本某、会長・故藤枝義夫、副会長・渋谷守であったが、この年藤枝会長が死去された。

昭和34年5月、若田会長が辞任され、昭和37年4月まで高田真光氏に会長をお願いした。この頃の試合は、屋外で三木中の校庭・裏庭と時として移動はしたが、主として教育委員会の広場でコートも2面、協会員相互の努力によって出来、以来教育委員会、隣接の三木郵便局、三木電報電話局の職員、それに、非番の三木警察の方々などが、申し合わせて、昼食後の休憩時間にもRとしてゲームを楽しむようになった。

定例大会も上の丸の元三木高校の校庭で実施したこともある。特記すべきは西脇、小野が打倒三木ことに口吉川で強力チームを養成し小野工〇Ｂで編成された若手が出場するようになり三市対抗も非常に技術も高度化して来た。

昭和40年前後から社町、滝野市、東条町などが是非参加したいとの申出があり三市対抗の外に東播市町対抗として別に発足年一回の大会を8月実施することとした。前記諸町の外に吉川町、加美町などが参加することとなったので、三市対抗を発展的に解散し新たに、北播地区市町対抗バレーボール大会とした。第1回大会を小野市のお世話で開催。男女共主催市の小野市チームが優勝した。当時は勿論9人制で晴天下に白球を追ったものであった。現在の様に6人制になってからはそれ程経過していない。この大会も本年59年には第14回として吉川町で実施されると思う。

このようなときに口吉川クラブの老令化に伴い市内若年層に急激にバレーボール熱が盛り上がり新たなチームが誕生した。たまたま三木高等学校の加佐移転による体育館グラウンドの市移管が実現、教育委員会の管理となり小中学校々庭のような制約もなく自由に使用出来ることとなり夜間特に青少年非行防止を兼ねてと協会直轄の三木クラブを結成した。移管まで放置されていた体育館をクラブ員が練習の前後雑布がけまでして使用した練習の成果を挙げ公式試合にも43年頃より出場。逐次三木市代表としてその実力を表し50年には兵庫県実業団で優勝、全国大会（東京体育館）に出場、惜しくも第3位となる。翌51年には、クラブカップ兵庫県優勝、これも全国大会（岡山県倉敷市体育館）に出場、準々決勝で埼玉教職員に敗れる。しかし全くの素人司好の青年だけでのチームが結成以来8年で2年続けて兵庫県代表として出場出来たことは協会として社会体育、アマチアススポーツとして最高最大の誇りとしている。このチームの育成指導に直接手を掛けた広田勇現副会長・松井藤男理事長の功績に対しては深甚の敬意を表します。とは申せその間全力を挙げて努力したチーム各位の心情、スポーツがあればこそだと会長として共に行動した身の有難さをしみじみと感じます。たまたま会長であった小生が体育指導委員会で作成した家庭バレーボールを委員長の小生が持ち帰り普及した際、当初子供会の大会種目となり早急に実施することとなったためこれの指導に三木市全域に亘り三木クラブ員が担当して下さり、第1回から非常に盛になり本年度16回。これに非常な関心をよせられた市当局が、市民の共通スポーツとして、取り上げられ今日では県下でも又、全国でも類をみない三木市民大会として市民スポーツの最大行事として市長を大会長として開催されるのを見ると、その感激は実に無量。本年1月三木クラブも世代交代のため一軍は二軍に総べてを譲り新たな三木クラブとして排球協会の代表チームとして出発することとなった。

三木市空手道同好会

佐藤 綱 記

昭和42年、5月県立三木高等学校空手道部OBを主体として、三木市空手道同好会を発足と同時に、組織の強化と技術の向上のため、全国に支部、団体をもつ、全日本空手道連合修交会（会長・谷 長治郎師範、本部、神戸市兵庫区大開通り7丁目3-10）の三木支部として登録し修交会の支部機関としても発足した。目的として、空手道の修業により、会員相互の連けいと相互援助により、自から進んで身心をきたえ、品格の陶冶をはかり識見の啓発につとめ人格の向上と完成を期することにより、空手道の普及発展につとめると共に、空手道を通じて社会に貢献せんことを目的とする。

又、事業として

- ①空手道総合選手権大会の参加
- ②交歓試合、合同練習
- ③演武大会、研究会
- ④各種施設への慰問
- ⑤本部の事業等の参加、協力
- ⑥その他目的達成に必要なこと

等を行う。練習場所を三木中学校の、体育館を借用して、週3回、火、木、土曜日、19時～21時まで、主として、一般社会人を対象として、空手道の修練を開始した。

昭和43年3月、三木市体育協会に入会と同時に、練習場所を市民体育館に移す。この年より毎年2月11日の建国記念日に大宮神社において、三木高校空手道部と合同で奉納演武を実施する。さらに5月には別所公奉賛会主催の春祭には上の丸公園において、空手道演武を実施している。又、修交会空手道の年間行事、全国大会、夏の合宿、型の講習、等に積極的に参加して、身心の練磨と、空手道の普及発展に努めてきた。又、年2回、昇級、昇段試験を実施して、会員の技術の向上に努めている。

昭和52年4月3日、青年会議所主催の武道大会に参加、緑が丘小学校において空手道演武を実施した。

修交会空手道の発展と共に、選手権大会、講習会、等の行事もふえ、現在では、2ヶ月に1回の型の講習、少年、少女空手道選手権大会、学生空手道選手権大会、地区別による、空手道選手権大会が実施されている。

現在、会員数、25人、有段者、7人を有し、指導体制も、強化され空手道発展のため、日々鍛練にはげんでいる。練習日時は、月曜日体育センター、木、土曜日市民体育館、いずれも午後7時30分から9時まで実施している。

三木市水泳協会

会長 山村 富 和

三木市体育協会が30周年を迎えるに当たり心より御祝い申し上げます。30と数字では余り大きな数ではありませんが年数となりますと昔から10年一昔という言葉があるとおり協会発足当時より現在に至る迄の幾多の人々の御苦労御努力になみなみならぬものがうかがえます。

三木市水泳協会は発足して15年、当時を振り返ってみますと、昭和40年市立三木小学校に三木市内小学校では2番目の25米プールが完成し当時三木小学校には飯田弘次先生、西阪義雄先生を筆頭に体育の指導には懸命の努力をされました。特に水泳指導には、6月7月8月の夏期指導期間中、太陽が西にしずむのも忘れて練習して居りました。その成果の表われが昭和43年より学童県記録を次々と獲得し県下50傑に記録される者が続出しました。昭和45年、ついに市立三木小学校は日本水泳連盟より全国優良校として表彰を受ける事となりました、これに平行して市内各小学校とも水泳指導に熱が徐々に高まり指導方法又はプールの管理等互に交流を持ち話合う様になりました。昭和45年三木小学校に於て体育研究発表会が持たれました。その時の三木小学校の調査では1年生より6年生迄の学童で昭和40年には50米泳げるもの6%、泳げないもの54%が昭和45年には50米泳げるもの38%、泳げないもの16%と飛躍的向上を見ました。当然の事ながらこの時期より三木中学校水泳部の活躍は目ざましく告野嘉朗先生、服部武司先生の指導のもと東播北播、三美の各大会に優勝を飾る事が多くなりました優勝を勝ち取れば連勝をとそれぞれが技術の向上水泳人口の増加を目ざし各方面に働きかけて居た時市教委の社会教育課横山課長より協会を作り社会人にも呼びかける事が将来的に見て必要ではないかとのご助言をいただきました。そこで小学校、中学校、社会人と指導者、援助者が集い昭和45年三木市水泳協会が誕生しました。

昭和46年兵庫県水泳連盟より高瀬先生三木中学告野嘉郎先生を迎えて水泳研究会と実技指導講習会を開催し各方面より好評を得る事が出来研究会終了後の懇親会の際、上部団体との関連を持つ事は必要な事であるから県連盟に加盟されてはとの高瀬先生の推薦もあり兵庫県水泳連盟にこの時期に加盟しました。



昭和47年には県水連に3名の理事が参加し各県大会には競技役員として活躍してまいりました。また地元三木では子ども会に働きかけ年中行事の中に水泳大会を企画して頂き競技役員として応援することになりました。又



昭和47年を忘れる事が出来ない年となつたのは三木市としては水泳部門で初めて国民体育大会鹿児島大会に3名も送り出した年でした。この様に全国大会に迄出場出来る経過をたどり、昭和48年三木市体育協会に対し、学校関係の水泳及び技術は相当普及発展したが一般社会人と勤労青少年の部においては泳ぐ場もなく又指導もされて居ない現状にあること、また泳げないが為の事故が毎年交通事故にも匹敵するほど起きて居りこの様な状態をなくす為にも大きな組織の体協に加盟し、水泳教室開催に、指導者の養成に、又市内の水泳施設の充実に努力したいと考え加盟申請を提出し昭和48年加盟認可されました。

以来10年の間には各小学校、中学校、高校、スイミングスクールと水泳施設は完備され水泳人口は増加の一途をたどって居ります。大会面では市民水泳大会を初め各地区に於て水泳大会、記録会等さかんに開かれ、競技役員も応援に忙がしい思いをして居ります。水泳教室も各地区で開かれて居りますが、特に子どもの水泳指導の方法を父兄母子の形で講習が持たれて居り親と子のふれあいの場作りに一役をになっている事が強く感じられます。10年たてば1才の子どもも10才になりプールが最初に出来た昭和40年からすると現在では当時子ども達も今は立派な社会人となつて居り協会の援助者として活躍していただいています。この人たちがこれからの協会を荷なっていく人達であり社会状況も年々変化しつつある現在、水泳協会の在続と一そうの発展を希望し各方面各位の御協力御鞭撻を御願ひするものです。

兵庫県水泳連盟表彰功労賞

昭和55年	告 野 嘉 朗
昭和56年	山 村 富 和
昭和57年	飯 田 弘 次
昭和58年	服 部 武 司



三木サッカー協会

会長 小山 伊一

① サッカーブーム到来

数日前の新聞に、スポーツ店の店頭からサッカーボールが消えてしまったという記事がでた。サッカー熱が再熱し、子供達の人気スポーツの1つになっているという。今このようにブームを巻きこしたサッカーも、以前は一般になじみの少ないスポーツであった。サッカーブームのきっかけは、東京オリンピック（1964年）でベスト8に入り、メキシコオリンピック（1968年）で銅メダルを獲得した日本チームの活躍によって引き起こされた。1965年に日本リーグが発足、1967年には少年サッカー全国大会が開かれ、日本のトップレベルから少年サッカーまで幅広い人達がサッカーを観戦しプレーをするようになってきた。

三木市では、サッカーは冬場のスポーツとして中学高校の学校体育として行われていた程度で、小学校では一部の学校で行われていたにすぎなかった。その1つ三木小学校ではサッカーが校技として重点的に取り上げられ、子供達に広がりつつあった。1971年（昭和46年）1月31日、小学5年6年男子を対象に少年サッカー大会が三木小学校グラウンドで行われた。三木小・平田小・口吉川小・押部谷小（神戸市）から11チームが参加し、ブームになりつつあったサッカーを三木市にも広げる役割を果たした。運営は三木小学校の教員と父兄を中心に結成された「三木少年サッカー友の会」が当たったが、友の会のメンバーの大部分はサッカーの経験はなく、神戸から招いた加藤正信氏（神戸フットボールクラブ）ら3人の指導を受けながら大会を進めるという1日であった。1973年第3回大会は、小学4年5年6年の男子チームが10チーム、女子チームが4チーム参加するなど三木市にサッカーが急激に普及したことを物語る大会となった。

この頃、市内の中学高校にもサッカークラブが誕生し、徐々にではあるがサッカーが広がっていった。1972年（昭和47年）、社会人や大学生が中心となり「三木フットボールクラブ」が結成され兵庫県サッカー協会に登録した。同年神戸ユース大会に優勝するなどめざましい活躍をした。クラブは、中学や高校で活躍した選手が集まり、自分達でプレーしながら三木市にもサッカーを定着させようと結成されたもので、少年サッカーの指導にも力を注いだ。

② 三木サッカー協会設立

前述のように、三木市にも小学校・中学校・高校・一般社会人とサッカー人口が急増し、市民の間にもサッカーが話題になっていった。「三木フットボールクラブ」と「三木少年サッカー友の会」が協力し合いながらも独自に活動していたが、統一した組織を作り三木のサッカーをより広げていこうということになり、1973年（昭和48年）11月1日、三木サッカー協会が設立された。

発足当時の協会役員は次の通りである。

（1973年11月1日～1975年3月31日）

会長……	小山 伊一	副会長……	塩田 満	今井 正人	
理事……	横山 誠一	荒川 三治	実井 憲二	藤田 剛	飯田 弘次
	岸本 博介	高田 利造	河原 絹男	桑 慶一	久保 仁
会計、書記……	西阪 義雄			監査……	藤田 博富 池町 早苗

翌1974年1月、発足間もないサッカー協会の会長杯を争う。第1回会長杯三木市少年サッカー

木サッカー協会少年部の歩みに大きな影響を与えた。

中学高校の大会も実施したが、中体連・高体連の大会との関係で現在は中断している。

少年部の活動は、1974年（昭和49年）9月21日に結成された「三木市スポーツ少年団本部」とも協力し合いながら今日に及んでいる。

② 社会人部

「三木フットボールクラブ」は、関西社会人府県大会・兵庫県社会人リーグ・天皇杯兵庫大会、天皇杯関西大会などで活躍し、「三木フットボールクラブ」の名を高めた。現在も、高校や大学のOB達を中心にチームを編成し、北播・県などで活躍を続けている。

三木サッカー協会には1チームしか登録がなく、市内で大会が持てないのが悩みである。

③ 技術部・審判部

毎年、公認審判員養成講習会を開催しており、審判技術の向上に努めている。また、サッカーの技術や指導法について、神戸フットボールクラブ、兵庫サッカー協会、日本サッカー協会から講師を招いてその向上をはかってきた。1976年（昭和51年）4月27日、三樹小グラウンドで岡野俊一郎氏（日本サッカー協会）から直接指導を受ける機会を持った。

④ まとめ

サッカーは、体力や身体の動きの基礎を身につけたりチームプレーやルールなど社会人として大切なことを教えてくれるスポーツだといわれる。今後も、市民スポーツの1つとして普及発展していくことを願っている。

バドミントン協会のこと……

会 長 高 井 孝 行

日本のバドミントン技術は世界一といっても過言ではない。特に日本の女子は世界のチャンピオンである。ユーバ杯の二年連続の保持国である。しかしながら、それにもかかわらず、バドミントンをスポーツとしてやられている人はたいへん少ない。

三木バドミントン協会は、別記の「協会の歩み」にもあるように、昭和52年1月に発足した。約8年前である。当時は三木市民体育館において、三つのクラブが細々と活動していた。三木にももっとバドミントンの輪を広げよう！と市内唯一の学校クラブであった三木東校バドミントンクラブにも呼びかけ、市教委の体育係のご指導をいただきながらなんとか小さいながらも、協会の設立にこぎつけた。その年の5月には、はやくも第1回会長杯争奪戦、8月には、第1回市民大会を開催している。また、より多くの方にバドミントンのおもしろさを知ってもらおうと、家庭婦人を対象に、初心者教室を実施した。会員も少なく、指導者もいない状況のなか、悪戦苦闘の連続だった。

その後、年々会員も増加を続け、昭和56年度には 100名を数え、現在は 150名をこえている。昭和57年度には、婦人バドミントン連盟も結成されて、婦人層の間にもバドミントンが浸透しつつある。現在協会所属のクラブの連習は、三木市民体育館、三木勤労者体育センター、別所町公民館、緑が丘町公民館、自由が丘コミュニティセンター、そして、三木東高校（部活動）でやられている。

他の体育協会に比較すれば、まだまだ歴史も浅く、実績もないが、一步一步着実に歩んでいきたいと願っている。

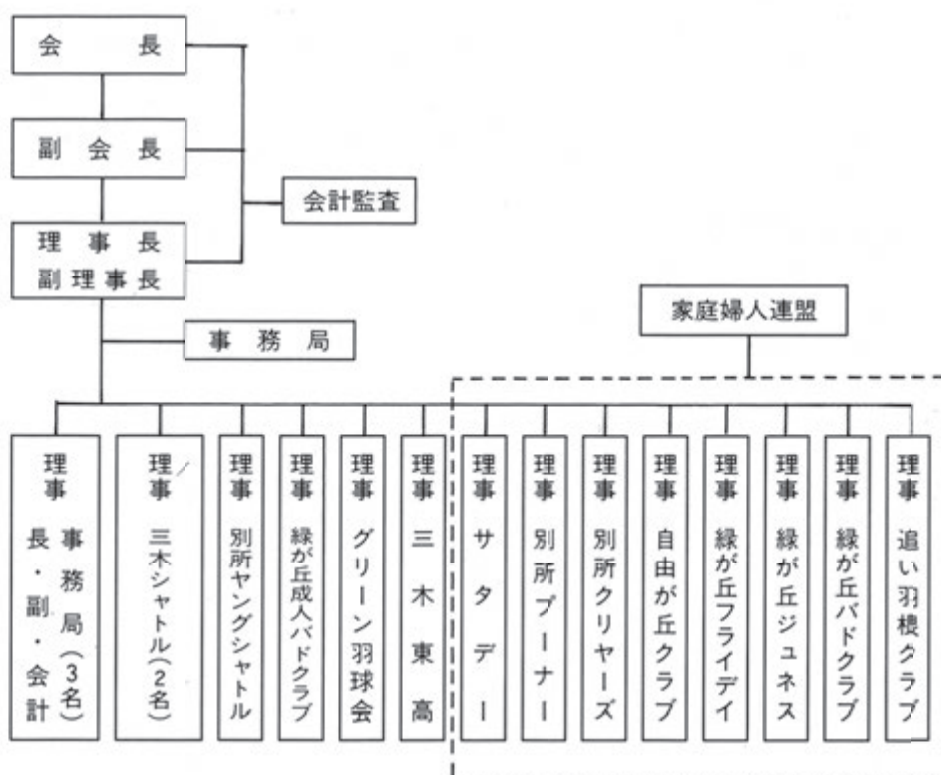
三木バドミントン協会の歩み

- S.49.5 市勤労青少年ホームにて、バドミントンサークル発足。
- S.50.8 市職員互助会バドサークル発足。
- S.51.5 三木バドクラブ発足。
- S.52.1 上記の3クラブと三木東高校バド部が母体となり「三木バドミントン協会」を設立。
会長に玉木芳弘氏就任。
 - 52.5 第1回会長杯争奪バドミントン大会を開催。
 - 8 第1回市民バドミントン大会を開催。
 - 12 初めて、家庭婦人を対象とした「バドミントン教室」を開催。（市民体育館にて）
- S.53.4 三木市体育協会に加盟。
 - 5 ジュネスバドサークル（家庭婦人）協会加盟。
 - 6 別所町公民館にて、成人・家庭婦人・青少年対象のバドミントン教室を開催。
 - 6 姫路バドミントン協会に加盟し、対外試合に積極的に参加。
- S.54.1 サタデーバドクラブ（家庭婦人）協会加盟。
- S.55.1 別所ブーナークラブ（家庭婦人）、別所ヤングシャトル（青年）、自由が丘バドクラブ（家庭婦人）協会加盟。

ラブ（家庭婦人）協会加盟

- 9 県青年大会（県連合青年団主催）に優勝
- 11 全国青年大会（日本青年団協議会主催）に出場
- S. 56. 1 玉木芳弘氏、会長を勇退、会長代行として高井孝行氏が就任
56. 1 別所クリヤーズ（家庭婦人）協会加盟
56. 4 県社会人連盟に登録
- 7 第1回三木オープンバドミントン大会を開催、近隣市町より、バド愛好者多数参加
57. 4 高井孝行氏会長に就任
- 4 協会内に婦人バドミントン連盟が発足。会長に山岡美佐子氏
- 8 緑が丘町公民館にて、成人、家庭婦人、青少年対象のバドミントン教室を開催
58. 4 緑が丘フライデーバドクラブ、緑が丘ジュネス、緑が丘バドクラブ（以上家庭婦人）、緑が丘成人バド、グリーン羽球会、追い羽根バドクラブ、協会加盟
59. 3 婦人バドミントン連盟会長、山岡美佐子氏勇退。後任に吉田絳佐代氏。
- 4 協会加盟クラブ 13団体、150名となる。

昭和59年度協会組織図



過去の市民大会結果一覧表



●第1回市民大会 (52.8.21) ～市民体育館～

	1 位	2 位	3 位
一般男子 単	時 沢 義 照	高 井 孝 行	姥 浩 二
" 女子 単	岡 田 倫 子	今 井 登 代 美	岡 田 富 士 子
小学生 " 単	平 田 房 美		

●第2回市民大会 (53.8.27)

～市民体育館・勤労者体育センター～

	1 位	2 位	3 位
一般男子 単	時 沢 義 照	松 田 繁 利	姥 浩 二
" 複	高 井 孝 行 高 前 田 栄 一	時 沢 義 照 姥 浩 二	大 熊 伸 一 長 曾 我 部 二 郎
一般女子 単	馬 渡 美 香	笹 田 朋 子	藪 田 和 子
" 複	大 前 友 子 大 前 嘉 子	岡 田 倫 子 鳥 田 雅 子	馬 渡 美 香 福 井 佳 子

●市制25周年記念大会 (54.7.1)

～三木東高校体育館～

	1 位	2 位	3 位
一般男子 単	高 井 孝 行	姥 浩 二	平 原 暎 彦
" 複	高 井 孝 行 高 前 田 栄 一	姥 浩 二 下 田 寿 雄	吉 田 敏 宏 山 口 剛
一般女子 単	山 岡 美 佐 子	大 前 嘉 子	馬 渡 美 香
" 複	吉 田 緋 佐 代 山 岡 美 佐 子	馬 渡 美 香 福 井 佳 子	岡 美 好 小 川 幸 江
家庭婦人 複	福 井 沢 子 平 原 幸 子	大 前 京 子 竹 中 文 子	大 泉 久 代 伊 藤 清 江

●第3回市民大会 (54.11.4)

～三木東高校体育館～

	1 位	2 位	3 位
一般男子 単	高 井 孝 行	姥 浩 二	平 原 暎 彦
" 複	高 井 孝 行 高 前 田 栄 一	姥 浩 二 生 友 哲	幸 田 太 郎 山 口 剛
一般女子 単	長 池 典 子	木 下 順 子	正 井 陽 子
" 複	長 池 典 子 西 原 久 美	辻 野 幸 子 磯 谷 知 子	菊 本 啓 子 福 井 沢 子

●第4回市民大会 (55.11.16)

～三木東高校体育館～

	1 位	2 位	3 位
一般男子 単	時 沢 義 照	高 井 孝 行	下 田 寿 雄
" 複	高 井 孝 行 松 田 繁 利	高 井 孝 行 姥 浩 二	蓬 萊 勝 夫 中 村 和 夫
一般女子 単	山 岡 美 佐 子	長 池 典 子	古 田 和 子
" 複	山 岡 美 佐 子 吉 田 緋 佐 代	長 池 典 子 西 原 久 美	葛 西 浩 子 武 内 知 枝
家庭婦人 複	田 中 豊 子 垣 内 和 美	山 下 久 子 二 杉 真 弓	菊 本 啓 子 平 原 幸 子

●第5回市民大会 (56.11.15)

～三木東高校体育館～

	1 位	2 位	3 位
一般男子 単	姥 浩 二	高 井 孝 行	北 村 健
" 複	北 村 健 下 田 寿 雄	高 井 孝 行 松 沢 功	芝 崎 長 武 西 馬 孝 晶
一般女子 単	古 田 和 子	長 池 典 子	西 原 久 美
" (1部) 複	吉 田 緋 佐 子 福 井 沢 子	古 田 和 子 野 沢 優 子	長 池 典 子 西 原 久 美
" (2部) 複	高 山 悦 子 福 留 美 枝 子	小 原 満 智 子 山 中 千 代 子	小 藤 智 代 美 小 藤 美 保

●第6回市民大会 (57.11.14～11.21)

～三木東高校体育館～

	1 位	2 位	3 位
一般男子一部 単	大 片 貞 雄	北 村 健	西 馬 孝 晶
一般男子一部 複	姥 浩 二 大 片 貞 雄	高 井 孝 行 松 田 繁 利	西 馬 孝 晶 山 元 良 晃
一般男子二部 単	清 瀬 悦 男	吉 田 一 茂	半 田 剛 也
一般男子二部 複	平 原 咲 彦 清 瀬 悦 男	松 沢 功 藤 木 義 和	中 本 亨 大 塚 芳 弥
一般女子 単	山 岡 美 佐 子	万 屋 美 千 代	大 片 美 由 紀
一般女子一部 複	山 岡 美 佐 子 大 片 美 由 紀	秋 田 トヨミ 百 武 美 津 子	有 村 則 子 吉 田 緋 佐 代
一般女子二部 複	万 屋 美 千 代 中 島 ひ と み	谷 川 三 枝 子 小 坂 純 子	今 井 登 代 美 片 山 幸 子

●第7回市民大会 (58.10.23～11.6)

～三木東高校体育館～

	1 位	2 位	3 位
一般男子一部 単	大 片 貞 雄	西 馬 孝 晶	北 村 健
一般男子一部 複	高 井 孝 行 松 田 繁 利	西 馬 孝 晶 芝 崎 長 武	西 垣 英 行 小 嶋 富 之
一般男子二部 単	中 西 久 昌	平 原 咲 彦	藤 木 義 和
一般男子二部 複	平 原 咲 彦 中 西 久 昌	姥 浩 二 桃 田 武 司	田 中 佐 一 郎 荒 木 保
一般女子一部 複	百 武 美 津 子 秋 田 トヨミ	千 脇 治 美 吉 田 緋 佐 代	高 山 悦 子 牛 田 英 子
一般女子二部 複	二 杉 真 弓 垣 内 裕 子	正 井 陽 子 香 山 恵 理 子	谷 川 三 枝 子 大 塚 真 知 子

ソフトボール協会5周年を振り返って

理事長 大塚 躬智也

ソフトボールの特色は、「野球のルールと興味を土台としながら、狭い場所で、短時間内に、簡単な用具と技術で、しかも、わずかな運動量で、気軽にプレーを楽しめる」という大衆性にあると思う。だから野球をしている人から見ると「何やソフトボールか」と言われたり、また、歳をとって力が衰えてからするスポーツと思っている人が多い様だが、実際には、ソフトボール競技に於いては、野球と同様にいやそれ以上に激しい動きと、スポーツを要求する競技でもある。

三木市に於いても、昭和52年頃に三木高OBで編成するキャンデーズ（女子）というチームがあったが、近くに試合する相手がなくて、また当時、三木市には協会もなく、隣市の小野協会に加入して大会に参加していた。人口7万都市三木に協会が無いのも恥と思い、協会の結成を思いついた。協会ができれば、中学校のソフトボール大会も支部対抗等ができ、試合の数が増え、技術の向上にもなると確信する。当時、旧三木地区、自由ヶ丘地区、緑ヶ丘地区には同好会としてのチームが多くあり「強いチームは自チームの力をためすためにも、市外の大会に出場することを望むこともあった」。このようにして協会結成の時期も熟して来たので、色々な関係の人と相談し、ソフトボール協会の創立を決意する。しかし兵庫県ソフトボール協会に加盟するためには、各地区の体育協会の推薦と承認が必要との事であり、三木市体育協会では、大会の実績をつくってからでないと認めないとのことであったので、昭和53年度に次の2つの行事を持った、

一) 市民大会

8月27日に三木市民ソフトボール大会を三木東高・緑ヶ丘中・三木中・自由ヶ丘小の4つの会場で、男子37チーム、女子4チームの参加のもとで開催した。初めての大会で、慣れない者の運営としては、盛大に挙げてきた。この大会も昭和59年で第7回目を迎える。三木市民の多くの参加は、非常に喜ばしいことであるのだが、その反面会場の確保に頭を痛めている。

特にこの大会の実施の時期は、スポーツの秋にふさわしく、さわやかな秋空のもので行いたいのだが、各学校のグラウンドを借りる都合で、どうしても夏休みを利用するしかない、それでもお盆の一番暑い時期である。初めは1日で決勝戦まで強行したが最近では2日間に亘って運営している。

第7回までの成績は次の通りである。

	男 子 の 部		中 壮 年 地 域 の 部		女 子 の 部	
	優 勝	準 優 勝	優 勝	準 優 勝	優 勝	準 優 勝
第1回	排 釜 会	誠球クラブ				
第2回	オール自由ヶ丘	緑ヶ丘西3	西自由ヶ丘	ナ メ ラ		
第3回	緑ヶ丘西3	ベ ア ー ズ	え び す 町	ナ メ ラ	東自由ヶ丘	自 由 ヶ 丘 ファミリーズ
第4回	緑ヶ丘西3	オール自由ヶ丘	西自由ヶ丘	ナ メ ラ	自由ヶ丘 ファミリーズ	ナ イ ン ズ
第5回	緑ヶ丘西3	自 由 ヶ 丘	え び す 町	フリーヒルズ	自由ヶ丘 ファミリーズ	レ ッ ド ミ ッ キ ー ス
第6回	緑ヶ丘西3	志染クラブ	ナ メ ラ	自由ヶ丘本町	自由ヶ丘 ファミリーズ	レ イ ン ボ
第7回	丸一フォックス	フェニックス	フリーヒルズ	え び す 町	自由ヶ丘 ファミリーズ	レ イ ン ボ

二) 講習会

三木市民のソフトボールの人口は多いのだが、ルールやマナーなどの浸透が浅いように思われるので、正しいソフトボールを学んでもらうために昭和52年11月18日、11月25日の2日間に亘って、ソフトボール講習会を緑ヶ丘中学校で開催し、50人余りの参加をみた。翌年には、全日本の3種の公認審判員の合格者も30人を超した。ただし、現在では認定方法も変わり、県の公認審判員を取得後一年を経過しないと次の3種公認が受検できない。三種公認に合格すれば毎年継続申請を行わなければならないのだが……。この様にして、昭和53年4月に三木市ソフトボール協会を結成し、昭和54年4月に三木市体育協会、県ソフトボール協会に加盟申請し認められ、三木市ソフトボール協会会長藤枝啓吾、理事長大塚躬智也、事務局前田友子として発足した。

三木市ソフトボール協会にチーム登録をする条件として

- ① メンバーは三木市に在住、あるいは勤務する者（学生は除く）
- ② チームの中に指導者として、2名以上の審判の資格を持っている者がいること。
- ③ 年間登録料を支払うこと
- ④ チームは同一のユニフォームと帽子を着用すること。

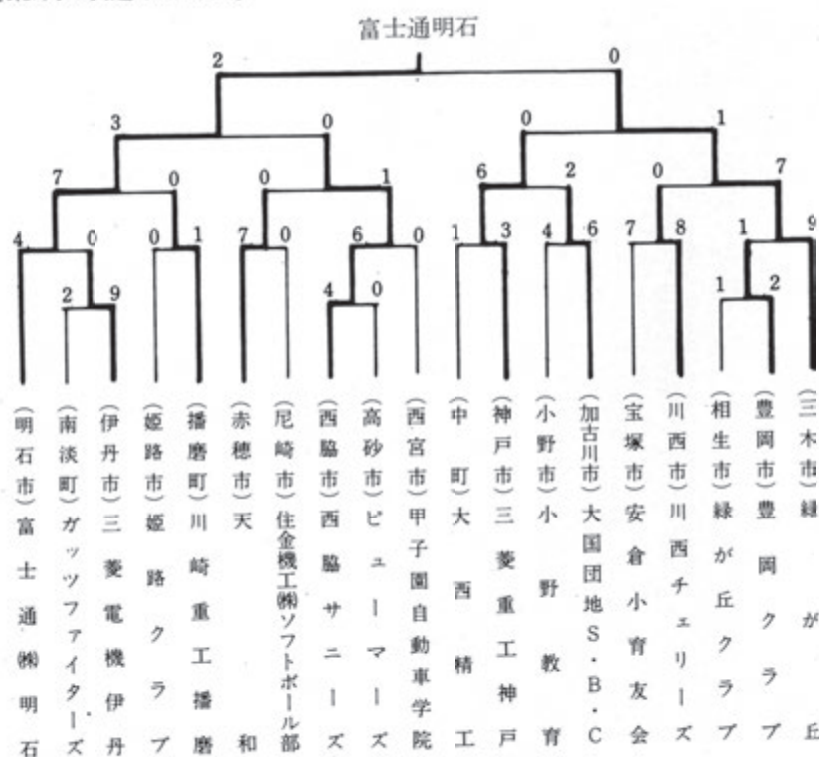
以上の4つの条件が充たされると、そのチームの登録は理事会で決定する。ただし、登録が認められても、マナー等に不都合があれば脱退してもらうこともある。三木市ソフトボール協会に加盟すると、中学・高校・大学・一般男女・教員・クラブの各大学に参加できるが、三木市体協では、①男子の部—全日本一般・全日本クラブ・国体成年・都市対抗 ②女子の部—全日本クラブ・家庭婦人 ③中学生の部—中体連主催の外に都市対抗・西日大会に出場できる。

三木市協会代表としての中央大会へのチームと成績は次の通りである。

	全日本大会	国民体育大会	都市対抗大会	全日本クラブ
54年度	オール自由ヶ丘 (2回戦)	広 の 化 学 (1回戦)	オール自由ヶ丘 (1回戦)	
55年度	オール自由ヶ丘 (1回戦)	東 海 ク ラ ブ (1回戦)	オール自由ヶ丘 (1回戦)	
56年度	緑ヶ丘西3 (1回戦)	緑ヶ丘西3 (1回戦)	三木ネツレン (1回戦)	
57年度	緑ヶ丘西3 (3回戦)	緑ヶ丘西3 (2回戦)	緑ヶ丘西3 (3位)	自由ヶ丘クラブ (1回戦)
58年度	緑ヶ丘西3 (1回戦)	オール自由ヶ丘 (3回戦)	緑ヶ丘西3 (準優勝)	緑ヶ丘西3 (準優勝)

協会創立当時には、自由ヶ丘地域の自由ヶ丘小学校のP.T.A.で結成されたオール自由ヶ丘チームが常勝となっていた。その時は協会代表として出場した全日本大会で1勝しただけであったが、

実際、10月23日・30日の両日に於ける、兵庫県都市対抗ソフトボール大会は、新設の県立三木北高校のグラウンドで、三木市吹奏楽団、三木ボーイスカウト、三木ガールスカウトの特別出場を得て盛大に開会式が挙行できた。成績も三木市代表の緑が丘3丁目のチームが、堂々と優勝戦まで進出し、全国レベルの富士通（明石）と戦い、善戦して準優勝に輝き、地元の面目が保てた。大会結果は次の表通りである。



— 94 —

〔男子の部〕

チーム名	代表者名	チーム名	代表者名
志 染 ク ラ ブ	岡田 秀信	自由が丘クラブ	折野 貞夫
カ マ ロ	森本 克彦	三 木 ク ラ ブ	実井 伸行
自由が丘ピアン	持永 弘治	丸一フォックス	吉田 平三
エ ビ ス 町	前田 優	シャネルズ	江原 政己
三木ネツレン	富田 進	オール自由が丘	北野 亮逸
東 這 ク ラ ブ	正井 隆良	緑が丘西3丁目	松田登志夫
三木エラーズ	長浜 達夫	ベ ア ー ズ	宮脇 進
ダルマクラブ	上山 登	栄 町 倶 楽 部	佐藤 末男
前 田 ク ラ ブ	小嶋 剛志		

〔女子の部〕

キャンデーズ 酒井 友子

〔家庭婦人の部〕

自由が丘ファミリーズ
西坂 豊



第25回兵庫県都市対抗ソフトボール大会 昭和58年10月23日
於 県立三木北高グラウンド

三木市テニス協会の歩み

現在、会員数 527名を擁する三木市テニス協会の歴史は以外と新しく、その設立は、緑が丘・自由ヶ丘地区の新興住宅街の出現を待たねばならなかった。

昭和49年8月、神鉄の線路沿いに4面の広野田園テニスクラブが誕生し、又、緑が丘にも2面のコートが出来、多数のテニス愛好家が集って来るようになった。

そして、緑が丘テニス同好会が生まれ、当時役員をしていた佐藤充氏（現協会副会長）から、我々のこの三木市にも、神戸市や兵庫県に負けないような立派な庭球協会を作ろうではないかと、提案がなされ、教育委員会に相談したり、新聞社に後援をお願いしたり、既存のクラブ、同好会に働きかけて、早速、緑が丘テニス同好会、広野田園テニスクラブ、天王山倶楽部、市役所同好会、広野化学工業同好会の5団体が集まり、役員が選出され、理事長に佐藤充氏、副理事長に長曾我部次郎氏（広野化学工業）、専務理事に石原義勝氏（広野田園テニスクラブ）が就任し、役員数11名、会員数72名で、三木市テニス協会が発足したのが、昭和52年9月8日であった。

協会会則の作成、後援をお願いする新聞社との交渉、（朝日新聞社と日刊スポーツ新聞社が緑が丘町にある朝日新聞専売店の白井嘉彦氏の尽力で三木オープンテニス大会の後援を心よく引き受けて下さった）大会に使用するコートの確保……等、佐藤充氏の活躍により、同年11月27日にやっと第1回三木市民硬式庭球大会・ダブルスが開催された。当時、三木市内には、市民大会を行うようなコートが無く、神戸市の神出にある天王山倶楽部のコート（8面）を借りて行い、新聞の見出しに「第1回三木市民大会神戸市で開かれる」と書かれ複雑な思いをしたものである。

当時、一部の人達を除いて、ラケットを持って間もないプレーヤーが多く、協会役員の目指す神戸市・明石市の市民大会のようなわけにはいかず、参加者も少なく、正に、神戸・明石を走る新幹線とローカル色濃い国鉄三木線との差がそのまま出て来たような感があった。それでも、他市からの高度な技術を導入したいと言う前向の姿勢で、オープン制をもとり入れ、神戸・明石・加古川・大阪等レベルの高い地区のプレーヤーを集めた三木オープンテニス大会の開催は協会発展のためにも成功であった。この大会も春のダブルス、秋のシングルスと第7回を数え、参加者も300名を超える盛況である。

その後、テニスブームの到来とあいまって回を重ねる毎に、会員数も増加の一途をたどり、又、市民大会の参加者も急激に増えていった。市民大会も種目がふえ、男・女、ダブルス・シングルスに、A級・B級・初心者も参加出来るようにC級、壮年、（家族でプレーを楽しめる家庭が増えたので）ミックス、又、団体戦と巾広い市民大会へと成長していった。

昭和53年春、空席であった会長に大原市長さんを、副会長に原春男市議を迎えし、組織立った活動が出来るようになった。

昭和56年、大原市長（現名誉会長）始め、市当局並びに原春男市議（現会長）のご尽力により、待望の市民コート（高木公園テニスコート）4面が完成したことは非常に喜ばしいことである。

が、しかし、市民コート4面では会員の増加が著しい今日ではとうてい不足であり、市民大会ですら2週間に分けて、又、3会場に分散して開催せざるを得ず、ましてオープン大会ともなる

といまだ神戸市にある天王山倶楽部のお世話になっている状態である。

早く、三木市の大会は全て三木市内で行えるよう。又、三木市は東播地区の中心的都市でもあるので、東播地区の大会を三木市で開催できることが、東播住民全ての願いだと考えられ、仮称松ヶ丘造成のスポーツ公園に計画中の6面のコートの完成を一日千秋の思いで待望するものである。

さて、当協会も試行錯誤を重ねながら、どうにか、しっかりした基礎も出来、形も整って来た、会則にうたっている如く市民の健康増進とテニスの普及発展に努めると言う目的も、初心者向のテニス教室を開いたり、又、教育委員会主催のママさん向テニススクールに講師を派遣したりして、徐々ではあるが成果は上りつつある。又、三木市のテニスのレベルも神戸に較べるには程遠いが、全体にレベルアップして来ており、毎年10月10日の体育の日に開かれる北播地区の大会では、第1回から今日に至るまで、全て上位を当協会のペアが独占している状態である。

当協会を構成する団体も、発足当時の5団体の他にも新しく、極東開発、グリーンテニス志染、のじぎく療育センター、高木クラブ、ミヤナガ、古野電気と数団体も加わり益々隆盛の一途をたどっている。

今後共、当協会としては、加入団体及び会員相互の親睦をはかり、各種大会及びテニススクール等を通じて、市民の健康増進とテニスの普及発展に役員一同、微力を尽す所存である。

テニスは60歳、70歳になってもできる息の永いスポーツである。

テニス、それは青春である。そしてコートには永遠の青春がある。

楽しきかなテニス！テニス、我等が心にあり！

(三木市テニス協会副理事長 福間俊史記)

三木市テニス協会

年次 (昭和)	会 長 名	副 会 長 名	役 員 名	主な大会・行事	功 労 者 表 彰 スポーツ優秀選手	氏 団 体 名
51						
52			理事長 佐藤 充	市民大会 市民大会・オープン大会		
53	大原 義治	原 春男	〃	〃		
54	〃	〃	〃	〃		
55	〃	〃	〃	〃		
56	〃	〃	〃	〃		
57	原 春男		〃	〃	テニス教室	
58	〃		〃	〃	〃	
59	〃	佐藤 充	長曾我部次郎	〃	〃	

役 員

名誉会長	大 原 義 治	〃	萩 原 よ し 子
会 長	大 原 春 男	理 事	宮 地 征 男
副 会 長	佐 藤 充	〃	田 中 綾 子
理 事 長	長曾我部 次郎	〃	森 茂
副理事長	石 原 義 勝	〃	十 王 寺 俊 己
〃	若 林 博 之	〃	須 本 一 雄
〃	福 間 俊 史	〃	三 枝 弘 二 郎
専務理事	藤 原 和 実	〃	清 岡 正 利
会計理事	田 中 敏 明	〃	中 河 修
監 査 役	郡 山 孝 志	〃	高 見 一 男
事 務 局	木 田 慎 一	〃	井 藤 良 一



第1回 三木市民硬式庭球大会 シングルス
昭和53年4月30日 広野田園テニスクラブ

市制体育協会30周年記念市民総合スポーツ大会

陸上競技協会

400名 場所：県立三木高校

種 目	順 位	1	2	3	4	5	6
一般40代女子 100 m		富永アヤ子(三木東A C) 1 5" 6					
一般20代男子1500 m		武内 勇人(大阪学院大) 4' 2 8" 0 6	前田 晴夫(緑 中 教) 4' 5 2" 1 4				
一般30代男子1500 m		古田 寛明(三 木 中 教) 5' 1 0" 3 6	常本 重次(宿 原) 5' 2 9" 1 7				
高 校 男 子1500 m		生田 博一(三 木) 4' 1 5" 9 5	長谷川亮一(東) 4' 1 7" 6 7	中嶋 一博(三 木) 4' 2 2" 9 6	吉井 昌之(東) 4' 2 9" 6 8	下地 一弘(三 木) 4' 3 0" 1 2	太田 康介(東) 4' 3 2" 9 8
中学1年男子 200 m		西垣 慶之(三 木) 2 7" 7	藤井 宏(三 木) 2 7" 9	浮島 徹(緑 ヶ 丘) 2 8" 4	上田 崇志(三 木) 2 8" 5	森本 武文(三 木) 2 8" 7	三木 武夫(緑 ヶ 丘) 3 0" 1
中学2年男子 200 m		東坂 真(三 木) 2 7" 1	甲崎 栄一(三 木) 2 7" 1	岡田 卓士(三 木) 2 7" 5	喜田 泰弘(三 木) 2 7" 8	下地 秀則(三 木) 2 7" 8	山本 博譽(三 木) 2 8" 2
小 5 男 子 100 m		西村 和行(別 所) 1 5" 2	藤原 修司(平 田) 1 5" 8	小林 智也(別 所) 1 5" 9	森本 健二(平 田) 1 6" 1	藤井 剛(別 所) 1 6" 1	清川 一雄(三 樹) 1 6" 4
小 6 男 子 100 m		平田 鉄章(自由ヶ丘) 1 4" 4	石田 浩隆(別 所) 1 4" 8	山本龍二郎(三 樹) 1 4" 8	神出 邦裕(三 樹) 1 5" 4	中城 康貴(自由ヶ丘) 1 5" 5	
小 6 女 子 100 m		中安 輝子(自由ヶ丘東) 1 5" 2	西村公美子(自由ヶ丘東) 1 5" 4	江口加奈子(自由ヶ丘) 1 5" 0	高橋 由佳(自由ヶ丘) 1 6" 0	永尾 名月(三 樹) 1 6" 3	佐藤 香織(自由ヶ丘) 1 6" 4
小 5 女 子 100 m		岡田 清香(平 田) 1 5" 3	花田加代子(平 田) 1 5" 3	田中 泰恵(別 所) 1 6" 3	上田 任美(別 所) 1 6" 3	清水 麻美(平 田) 1 6" 8	石塚 舞(平 田) 1 7" 1
高 校 女 子 100 m		阿南みゆき(東) 1 3" 4	浜口 佳美(三 木) 1 3" 4	住野 雅代(三 木) 1 3" 9	赤松 智美(三 木) 1 4" 2	吉岡 希美(東) 1 4" 2	斉藤千江子(東) 1 4" 3
高 校 男 子 100 m		石倉 一弥(三 木) 1 1" 1	小倉 修(三 木) 1 1" 5	神沢 昌輝(東) 1 1" 7	和布 孝信(東) 1 1" 7	佐藤 清一(東)、 1 1" 9	貞任 和也(三 木) 1 2" 0
小学校女子リレー		自由ヶ丘東小学校 1' 0 4" 0 8	自由ヶ丘小学校 A 1' 0 6" 5 5	三 樹 小 学 校 A 1' 0 7" 0 4	別 所 小 学 校 1' 0 8" 4 0	三 樹 小 学 校 B 1' 0 8" 8 5	平 田 小 学 校 C 1' 0 9" 6 9
小学校男子リレー		三 樹 小 学 校 A 1' 0 3" 5 1	別 所 小 学 校 1' 0 5" 2 9	三 樹 小 学 校 B 1' 0 9" 5 0			
中学校女子リレー		三 木 中 学 校 1' 0 0" 6 2	緑 ヶ 丘 中 学 校 A 1' 0 2" 8 3	緑 ヶ 丘 中 学 校 B 1' 0 4" 5 7			
中学校男子リレー		三 木 中 学 校 A 5 3" 3 9	三 木 中 学 校 B 5 6" 3 6	三 木 中 学 校 E 5 6" 7 9	緑 ヶ 丘 中 学 校 A 5 7" 2 1	三 木 中 学 校 C 5 9" 5 4	三 木 中 学 校 F 1' 0 0" 4 6
高校女子リレー		三 木 高 校 5 4" 0 2	三 木 東 高 校 A 5 4" 7 8	三 木 東 高 校 B 1' 0 1" 4 3			

種目	順位	1	2	3	4	5	6
小 5 男 子1500 m		二杉 浩司(別 所) 5' 45" 28	岩本 文浩(松ヶ丘) 5' 48" 50	三宅 準星(平 田) 5' 56" 57	条 智之(松ヶ丘) 6' 01" 76	森本 修路(自由ヶ丘東) 6' 15" 27	藤井 義文(自由ヶ丘東) 6' 18" 63
小 6 男 子1500 m		大西 正悟(別 所) 5' 23" 22	石田 浩隆(別 所) 5' 24" 58	陣在 茂章(三 樹) 5' 36" 14	津村 和秀(別 所) 5' 36" 95	岸野 正知(別 所) 5' 38" 15	正井 利和(三 樹) 5' 55" 79
中学 1 女 子 200 m		藤原 法子(三 木) 33" 6	武田千賀子(三 木) 33" 6				
中学 2 女 子 200 m		尾西美奈子(三 木) 30" 9	徳永 朝子(三 木) 31" 9	中島 理恵(三 木) 34" 4			
小 5 女 子走幅跳		垂井 香(自由ヶ丘) 3 m 40	関 聡子(自由ヶ丘) 2 m 77	平井めぐみ(自由ヶ丘) 2 m 73			
小 6 女 子走幅跳		中嶋 里美(三 樹) 3 m 36	大山 優子(三 樹) 3 m 32	末広かおり(三 樹) 3 m 10			
小 6 男 子走幅跳		栗田 光雄(三 樹) 3 m 66	増本 和浩(自由ヶ丘東) 3 m 49	新田 清(自由ヶ丘東) 3 m 38			
中学 1 男 子1500 m		梶川 篤司(緑ヶ丘) 5' 02" 47	清水 英俊(緑ヶ丘) 5' 04" 88	宮家 秀行(緑ヶ丘) 5' 13" 30	木下 真吾(三 木) 5' 15" 93	小坂 裕士(緑ヶ丘) 5' 16" 55	藤原 信之(三 木) 5' 28" 31
中学 2 男 子1500 m		飯嶋 孝(緑ヶ丘) 4' 48" 77	若本 秀正(緑ヶ丘) 5' 03" 61	末松 慎玄(緑ヶ丘) 5' 08" 29			
中学 3 男 子1500 m		広田 雅彦(三 木) 4' 47" 18					
小 5 女 子 800 m		杉田 和穂(平 田) 2' 56" 60	中野奈津美(別 所) 3' 00" 16	常本万里子(三 木) 3' 01" 18	生田さつき(別 所) 3' 01" 42	中居 知絵(三 樹) 3' 01" 73	稲垣 友紀(別 所) 3' 11" 91
小 6 女 子 800 m		久崎 裕子(自由ヶ丘東) 3' 01" 00	中居 浩美(三 樹) 3' 01" 64	岡田 幸子(三 樹) 3' 01" 82	田中 陽子(別 所) 3' 10" 47		
中学 1 女 子 800 m		橋 明子(三 木) 2' 42" 20	野口佳世子(緑ヶ丘) 2' 42" 76	藤本 裕子(緑ヶ丘) 2' 43" 19	村上 詩里(緑ヶ丘) 2' 45" 48	西竹 美香(緑ヶ丘) 2' 45" 60	宮内真樹子(緑ヶ丘) 2' 50" 70
中学 2 女 子 800 m		田中 善子(三 木) 2' 33" 56	池村 晶子(三 木) 2' 33" 73	福本 浩子(三 木) 2' 37" 57			
中学 3 女 子 800 m		入江 聡子(三 木) 2' 33" 15	谷口美知子(緑ヶ丘) 2' 36" 27	梶原 陽子(三 木) 2' 47" 33			
高 校 女 子 800 m		田村 綾(東) 2' 28" 76	戸田 香織(東) 2' 31" 90	秦 由起子(東) 2' 33" 46	田中ゆかり(東) 2' 37" 84	若林 聖子(三 木) 2' 39" 18	下村 千恵(三 木) 2' 40" 64
一般10代男子 100 m		井沢 元治(消 防 署) 11" 6					
一般20代男子 100 m		藤原 寿夫(吉川高教) 12" 1	野田 裕二(立命館大) 12" 3	山本 健造(緑ヶ丘中教) 12" 7			
一般50代男子 100 m		鈴木 芳郎(三木東AC) 12" 8					
一般30代女子 100 m		石橋 博子(三木東AC) 15" 3					

三木市民軟式庭球大会

254名 場所 三木東高等学校

一般男子

1 大西・岸田(緑ク) 4
2 竹内・竹下(緑ク) 4
3 岸本・植之原(三ク) 1
4 村部・森脇(緑ク) 4
5 坂田・財田(三ク) 1 0
6 涌本・岩井(東高) 4 4
7 賀内・青木(三ク) 0
8 竹崎・稲田(緑ク) 3
9 岸本・井口(三ク) 4 1 3位

10 木山・西(緑ク) 4 4
11 松下・大島(緑ク) 2
12 田中・中川(緑ク) 1
13 小谷・木村(三ク) 1 4
14 西村・岡本(緑ク) 4 4
15 太田・股野(緑ク) 0
16 守沢・柏木(三ク) 4
17 平松・寺尾(緑ク) 4 0
18 佐藤・若林(緑ク) 0 2

①大西 岸田(緑丘ク) ②木山 西(緑丘ク) ③涌本 岩井(三木東高) ④西村 岡本(緑丘ク)

一般女子

1 鎌田・岸田(緑ク) 4
2 松本・高尾(緑ク) 4
3 鯛勝・坂田(三ク) 0
4 賀内・宮本(三ク) 4
5 松浦・田名網(緑ク) 1

4 4 4 4 1 3 位 4 2 - ④ 7

0 3 0 4 4 4 4 2 4 2 寺尾・吉川(緑ク) 10

内田・蔵本(緑ク) 6
小谷・塩田(三ク) 7
村上・真鍋(緑ク) 8
磯平・井(緑ク) 9

①鎌田 岸田(緑丘ク) ②村上 真鍋(緑丘ク) ③小谷 塩田(三木ク) ④賀内 宮本(三木ク)

高校男子

[illegible]

①藤本 永井(三木東) ②大野 鈴木(三木東) ③石森 寺尾(三木東) ④竹田 花屋(三木東) 0 ———— 平 石・吉 永(三高) 27

高校女子

1 下道・上村(東高) 4
2 野村・宇都宮(北高) 0 2 4
3 寺岡・井川(三高) 4 4
4 池本・金森(北高) 4 0 4
5 井上・津田(三高) 1 4
6 山本・浜ノ園(東高) 2 2 4
7 平井・石崎(北高) 0 4
8 砂泊・谷口(北高) 4 4
9 岡本・大本(三高) 4 4
10 藤川・高田(北高) 4 4
11 宮口・近藤(三高) 4 0 4
12 堀川・藤井(北高) 1 4
13 安田・安達(北高) 0 4
14 清水・松下(東高) 0 1
15 小松・柳瀬(北高) 0 1 4
16 岩佐・源島(東高) 4 1
17 大条・野浦(北高) 0 1 4
18 福本・永井(東高) 4 1 4
19 生友・尾田(三高) 4 4

3 位
104-2 38

木村・谷村(東高) 20
福井・中尾(北高) 21
吉田・高橋(三高) 22
藤本・藤本(北高) 23
神沢・高木(三高) 24
岩崎・小原(東高) 25
岩崎・児玉(東高) 26
安藤・阿部(北高) 27
山城・藤本(東高) 28
前田・梅谷(北高) 29
安本・友定(東高) 30
細田・瀬尾(北高) 31
中谷・平石(北高) 32
高田・坂梨(三高) 33
伏見・植之原(東高) 34
出山・谷口(北高) 35
八木・十都(三高) 36
花房・岡本(北高) 37
吉水・奥野(三高) 38

①下道 上村(三木東) ②木村 谷村(三木東) ③藤川 高田(三木北) ④吉永 奥野(三木)

中学男子

1 横谷・八木(三中) 4
2 藤原・生田(自中) 4 1
3 松浦・山口(三中) 3
4 平井・森(自中) 2 4
5 山田・堂本(三中) 4 4 1
6 大西・豊田(三中) 2 2
7 木下・大城(別中) 4 1
8 津村・神沢(別中) 1
9 尾田・岩居(三中) 4 0
10 藤岡・知平(三中) 0 4
11 塩見・大和(三中) 4 4
12 池田・藤本(別中) 0 0
13 土出・山中(三中) 4 1 3 位
14 羽藤・鎌田(自中) 4 1 ④-1 15

4 横山・平井(三中) 15
2 牛尾・吉川(別中) 16
4 井沢・腰前(三中) 17
2 神沢・近藤(別中) 18
2 今畑・藤原(三中) 19
4 岩崎・三木(三中) 20
4 福田・打田(自中) 21
4 平井・西森(三中) 22
4 榊井・井沢(別中) 23
2 西山・芦原(三中) 24
4 間宮・岩本(自中) 25
2 森・高橋(自中) 26
4 腰前・亀尾(三中) 27
4 稲垣・石原(別中) 28

①稲垣 石原(別所) ②塩見 大和(三木) ③横谷 八木(三木) ④横山 平井(三木)

中 学 女 子

1	石 田・渋谷(三中)	4		4		4		佐 藤・岩 (三中)	13
2	渡 辺・水 谷(自中)	1		2		3		横 山・横 (志中)	14
3	衣 川・菅 原(三中)	4		0		0		阿 部・大 (三中)	15
4	中 西・山 田(三中)	4		4		4		岩 本・杉 (三中)	16
5	谷 口・畑 (自中)	1		4		4		宮 脇・中 (志中)	17
6	大 西・久 斗(志中)	1		0		0		大 野・徳 (自中)	18
7	今 井・赤 松(志中)	4		4		0		福 田・小 (自中)	19
8	斧 村・村上(三中)	0		3		4		村 山・脇 (三中)	20
9	土 井・岩 崎(三中)	4		4		4		宮 口・川 (三中)	21
10	清 水・宮 崎(三中)	1		1		4		神 沢・戸 (三中)	22
11	炭 谷・吉 村(三中)	4		1		4		松 藤・浜 (三中)	23
12	橋 米 村(自中)	4		3.3 位		4		岡 田・今 (志中)	24
				1 ④-1		16			

①今井 赤松(志染) ②岡田 今井(志染) ③石田 渋谷(三木) ④岩本 杉浦(三木)

三木テニス協会

300名

場所：高木公園テニスコート

一般男子

優 勝	森 茂・藤森 茂樹 (広野田園ク)
準優勝	木村 俊紀・藤原 和実 (市役所)
第3位	大辻 幹男・野津 千巻 (広野田園ク)
第4位	竹内 秀夫・岡田 英雄 (天王山ク)

一般女子

優 勝	磯 道子・平井 順子 (緑が丘ク)
準優勝	田中 綾子・沢 比佐子 (緑が丘ク)
第3位	岡田 輝子・橘 すみ子 (天王山ク)
第4位	足立 道子・萩原より子 (緑が丘ク)

卓球協会 120名 場所：三木勤労者体育センター

優勝 三木卓球クラブA

準優勝 自由ヶ丘 A

第3位 緑ヶ丘 A

(決勝戦)

(三木卓球クラブA) 4—3 (自由ヶ丘 A)

(3位決定戦)

(緑ヶ丘 A) 7—0 (緑ヶ丘 B)

(Aリーグ)

チーム名	チーム名	三木卓球クA	緑ヶ丘 A	自由ヶ丘 B	三木東高校	順位
三木卓球クA			○ 4-3	○ 5-2	○ 6-1	1
緑ヶ丘 A	×	3-4		○ 6-1	○ 4-3	2
自由ヶ丘 B	×	2-5	×		×	4
三木東高校	×	1-6	×	○ 5-2		3

(Bリーグ)

チーム名	チーム名	三木卓球クB	緑ヶ丘 B	自由ヶ丘 A	三木高校	順位
三木卓球クB			×	×	×	4
緑ヶ丘 B	○	6-1		×	○	2
自由ヶ丘 A	○	5-2	○		○	1
三木高校	○	4-3	×	×		3

剣道連盟 230名 場所：三木市民体育館

	1	2	3
小学校4年生以下の部	原 敬一郎	小西 啓司	石川 陽一・高橋こすえ
5・6年生の部	五百蔵 勝	久保田英樹	谷本 道男・金沢 吉哲
中学校女子の部	高橋あかり	小林 雅子	喜島万作子・本郷 珠実
男子の部	池田 和功	高橋 龍	大西 信行・脇本 禎夫
高校女子の部	若田 祐子	石原佐知子	山崎 理恵・野見 恭子
男子の部	見方 克	態丸 隆	中西 勝利・土出 勝敏
一般男子青年の部(3段以下)	沢田 薫	小柴 雄彦	藤田 敏彦・植田 吉則
〃 壮年の部	高橋 洋三	岸本 晃	小柴 邦夫
一般女子の部	形本ゆかり		

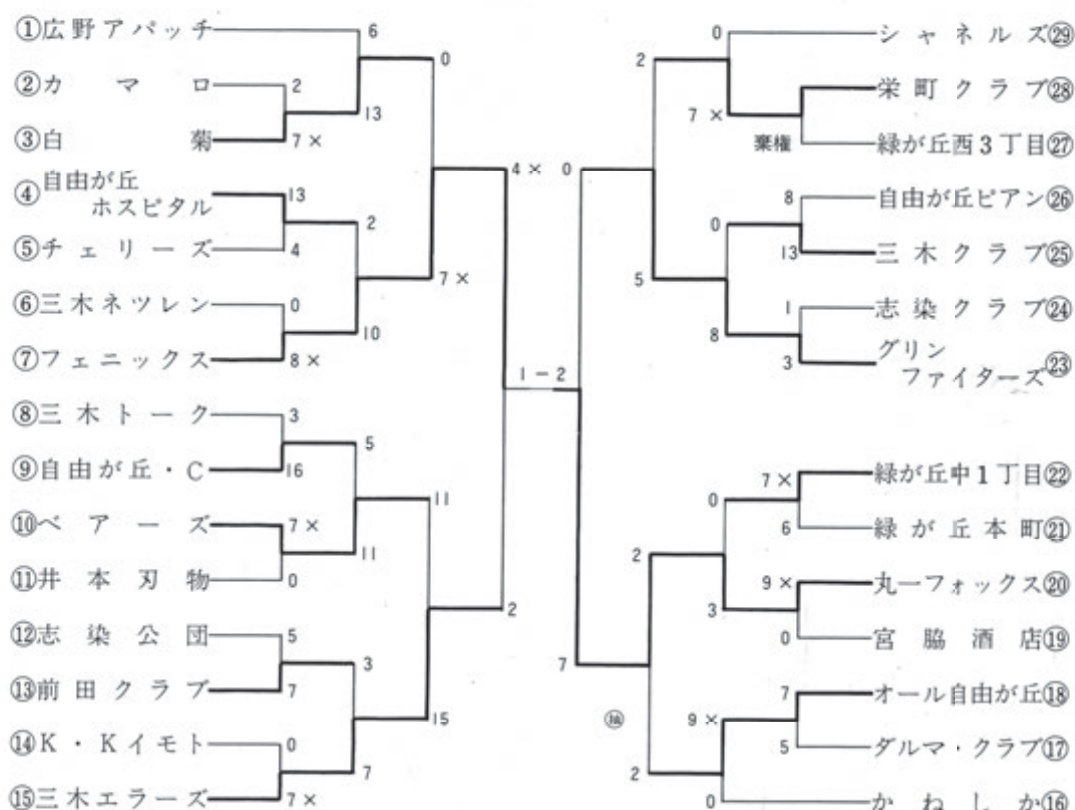
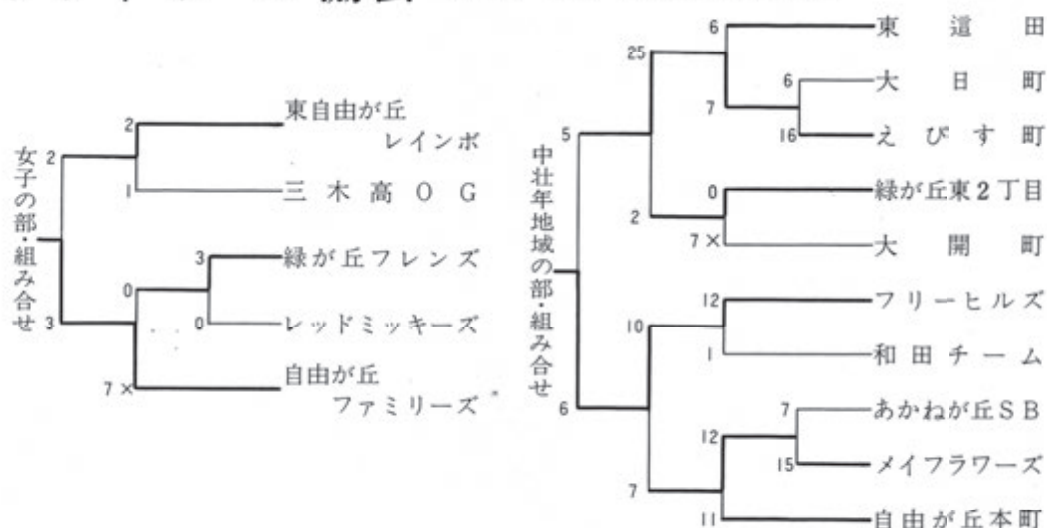
空手道同好会 場所：県立三木高校武道場

演武のみ

柔道協会 125名 場所：県立三木高校武道場

	1	2	3
幼・小1の部	吉本 友昭	工藤くにひろ	西岡しんご・竹本まこと
小 小2 〃	吉本 幸司	野口 博志	山本 聡史・三津井のりお
小 小3 〃	黒宮 秀仁	福本 一規	谷田 康久・宮脇 知宏
小 小4 〃	東山 芳樹	胸永 訓良	中村 健雄・藤原 孝
小 小5 〃	藤原 祥造	宮崎 俊隆	大山 友也・立石 篤史
小 小6 〃	先久 大吾	溝下 勲	栗田 淳・藤原 誠
中 校 〃	吉田 昌史	渋谷 昇	杉山 秀一・林野 一義
高 校 〃	府内 聡生	梶本 隆介	五百蔵 勲・常森 亮介
団体2チーム	1 柔道協会	2 三木高校	

ソフトボール協会 600名 場所：県立三木東高校



野球協会 150名

場所：巴グラウンド

別所クラブ	3	
ボンバース	5	9
常 栄		3
ライオンズ		3
三 共		0
電々三木		0
豪 球		3
三木市役所		5
排 釜 会		2

排球協会 130名

場所：県立三木高校体育館

優 勝	口吉川スポーツ少年団
準優勝	緑ヶ丘 "
第3位	三木小 "
第4位	自由ヶ丘 "

一般男子	優 勝	細 川 ク ラ ブ
	準優勝	排 釜 会
	第3位	ホワイトホース

一般女子	優 勝	自由ヶ丘 M C	3勝0敗
	準優勝	百 合 の 実	2 " 1 "
	第3位	三 木 農 協	1 " 2 "

バドミントン協会

親子バドミントン大会 130名

場所：県立三木東高校体育館

1 部	優 勝	準優勝	3 位	4 位
	高井 孝行	姥 浩二	吉田 一茂	中田 典昭
	高井 雅也	中井 貴子	尾中 葉子	木村奈々恵
2 部	福井 沢子	奥山 泰子	坂本 一子	吉田緋佐代
	福井 基文	橋岡 泰子	高山 敏一	高山 里子
3 部	三浦 克子	田村 義勝	高井 淑子	後藤 正名
	三浦 英明	田村 裕子	高井 裕文	後藤 友希

サッカー協会 (参加チーム35団体・人数 350名)

場所：三木市民グラウンド

自由が丘小 内目
緑が丘小 石丸

Aゾーン



	三木	志染	瑞穂	豊地	緑が丘	得点	失点	得点差	勝点	順位
三木		0-0 △	3-0 ○	0-1 ×	0-1 ×	3	2	+1	3	3
志染	0-0 △		1-0 ○	0-1 ×	0-2 ×	1	3	-2	3	4
瑞穂	0-3 ×	0-1 ×		0-3 ×	0-2 ×	0	9	-9	0	5
豊地	1-0 ○	1-0 ○	3-0 ○		1-1 △	6	1	+5	7	1
緑が丘	1-0 ○	2-0 ○	2-0 ○	1-1 △		6	1	+5	7	1

Bゾーン



	自由が丘	緑が丘東	広野	三木	別所	得点	失点	得点差	勝点	順位
自由が丘		0-0 △	0-2 ×	1-0 ○	0-1 ×	1	3	-2	3	3
緑が丘東	0-0 △		0-2 ×	0-0 △	0-3 ×	0	5	-5	2	4
広野	2-0 ○	2-0 ○		5-0 ○	0-1 ×	9	1	+8	6	2
三木	0-1 ×	0-0 △	0-5 ×		0-2 ×	0	8	-8	1	5
別所	1-0 ○	3-0 ○	1-0 ○	2-0 ○		7	0	+7	8	1

Cゾーン



	緑が丘	口吉川	自由が丘	緑が丘東	広野	得点	失点	得点差	勝点	順位
緑が丘		0-3 ×	0-0 △	1-0 ○	0-1 ×	1	4	-3	3	4
口吉川	3-0 ○		2-0 ○	0-0 △	0-0 △	5	0	+5	6	1
自由が丘	0-0 △	0-2 ×		1-2 ×	1-1 △	2	5	-3	2	5
緑が丘東	0-1 ×	0-0 △	2-1 ○		0-1 ×	2	3	-1	3	3
広野	1-0 ○	0-0 △	1-1 △	1-0 ○		3	1	+2	6	2

Dゾーン



	広野	自由が丘	別所	豊地	緑が丘	得点	失点	得点差	勝点	順位
広野		0-1 ×	0-0 △	5-0 ○	2-1 ○	7	2	+5	5	2
自由が丘	1-0 ○		1-0 ○	4-0 ○	1-1 △	7	1	+6	7	1
別所	0-0 △	0-1 ×		1-0 ○	2-0 ○	3	1	+2	5	3
豊地	0-5 ×	0-4 ×	0-1 ×		0-1 ×	0	11	-11	0	5
緑が丘	1-2 ×	1-1 △	0-2 ×	1-0 ○		3	5	-2	3	4

Eゾーン



	志染	三木	口吉川	広野	瑞穂	得点	失点	得点差	勝点	順位
志染		1-0 ○	1-0 ○	0-1 ×	0-0 △	2	1	+1	5	2
三木	0-1 ×		2-0 ○	0-1 ×	1-0 ○	3	2	+1	4	3
口吉川	0-1 ×	0-2 ×		1-1 △	1-0 ○	2	4	-2	3	4
広野	1-0 ○	1-0 ○	1-1 △		0-0 △	3	1	+2	6	1
瑞穂	0-0 △	0-1 ×	0-1 ×	0-0 △		0	2	-2	2	5

Fゾーン



	別所	緑が丘	緑が丘東	自由が丘	豊地	得点	失点	得点差	勝点	順位
別所		1-0 ○	0-0 △	0-1 ×	1-0 ○	2	1	+1	5	1
緑が丘	0-1 ×		0-0 △	0-0 △	0-2 ×	0	3	-3	2	5
緑が丘東	0-0 △	0-0 △		1-1 △	1-0 ○	2	1	+1	5	1
自由が丘	1-0 ○	0-0 △	1-1 △		0-2 ×	2	3	-1	4	4
豊地	0-1 ×	2-0 ○	0-1 ×	2-0 ○		4	2	+2	4	3

Gゾーン



	緑が丘東	緑が丘A	志染	緑が丘B	三木	得点	失点	得点差	勝点	順位
緑が丘東		1-0 ○	1-1 △	2-0 ○	1-1 △	5	2	+3	6	1
緑が丘A	0-1 ×		0-0 △	1-0 ○	1-0 ○	2	1	+1	5	2
志染	1-1 △	0-0 △		0-0 △	0-0 △	1	1	0	4	3
緑が丘B	0-2 ×	0-1 ×	0-0 △		1-1 △	1	4	-3	2	5
三木	1-1 △	0-1 ×	0-0 △	1-1 △		2	3	-1	3	4

三木市制・体育協会30周年記念 第10回三木市民水泳大会

●参加者数 280名 昭和59年 8月26日(日) 場所：三木中プール

㊦ 大会新

1. バタフライ 小学生男子 50m

- ① 伊 東 秀 晃 (広 野) 39"37
- ② 芝 孝 一 (緑 東) 39"73
- ③ 寺 口 満 (平 田) 41"06

2. バタフライ 小学生女子 50m

- ① 黒 田 真由美 (三 木) 45"52
- ② 小 林 良 子 (") 46"40
- ③ 澤 田 裕 子 (自 由) 49"90

3. バタフライ 中学生男子 100m

- ① 縄 井 秀 彰 (自 由) 1'14"07
- ② 森 崎 秀 士 (三 木) 1'17"98
- ③ 宮 脇 和 幸 (") 1'18"71

4. バタフライ 中学生女子 100m

- ① 名 倉 有 美 (三 木) 1'24"60
- ② 末 瀬 小 糸 (") 1'24"74
- ③ 後 藤 早 織 (") 1'30"17

5. バタフライ 青年男子 50m(オープン)

- ① 藤 木 孝 夫 (スイミング) 29"33㊦

6. 自由形 小学生男子 50m

- ① 石 崎 義 忠 (緑が丘) 34"34
- ② 楠 克 氏 (自由が丘) 34"81
- ③ 水 本 貴 司 (三 木) 35"86

7. 自由形 小学生女子 50m

- ① 高 橋 まどか (三 木) 36"78
- ② 西 明 美 (自由が丘) 38"67
- ③ 佐 藤 香 織 (自由小) 39"79

8. 自由形 中学生男子 100m

- ① 渡 部 弘 也 (三 木) 1'04"85
- ② 永 尾 光 弘 (") 1'07"15
- ③ 板 東 弘 二 (") 1'09"98

9. 自由形 中学生女子 100m

- ① 三 浦 由紀子 (緑が丘) 1'11"68
- ② 藤 田 恵 子 (三 木) 1'13"15
- ③ 末 瀬 小 糸 (") 1'13"82

10. 自由形 高校生男子 100mオープン

- ① 栗 林 正 弘 (吉 川) 1'10"02

11. 自由形 高校生女子 100mオープン

- ① 古 里 利恵子 (三木スイミング
鳳 川) 1'19"43

12. 自由形 青年男子 50m

- ① 石 橋 直 人 (三木スイミング) 27"45㊦
- ② 小 堀 秀 樹 (") 27"94㊦
- ③ 藤 田 靖 二 (") 28"19㊦

13. 自由形 壮年男子 50mオープン

- ① 面 川 勝 治 (ナリス) 35"32

14. 平泳 小学生男子 50m

- ① 衆 田 隆 平 (加 佐) 40"33㊦
- ② 加 藤 誠 志 (三 木) 41"30㊦
- ③ 市 原 孝 一 (") 41"59

15. 平泳 小学生女子 50m

- ① 西 明 美 (自 由) 45"12
- ② 小 林 良 子 (三 木) 47"70
- ③ 衆 田 卯 月 (平 田) 48"16

16. 平泳 中学生男子 100m

- ① 渡 辺 弘 也 (三 木) 1'20"22
- ② 藤 本 伯 志 (") 1'22"84
- ③ 田 宮 歩 (緑が丘) 1'25"57

17. 平泳 中学生女子 100m

- ① 山 田 由 美 (三 木) 1'30"16
- ② 名 倉 有 美 (") 1'34"07
- ③ 神 沢 味 穂 (") 1'34"36

18. 平泳 高校男子 100mオープン

- ① 門 秀 治 (三木東) 1'15"56^N

19. 平泳 青年女子 50mオープン

- ① 向 山 恵 (自由が丘東) 46"28^N

20. 平泳 青年男子 50mオープン

- ① 武 部 義 久 (三木スイミング) 36"29
- ② 西 本 心 一 (") 41"27
- ③ 小 林 吏 孝 (") 44"25

21. 平泳 青年男子 100mオープン

- ① 岩 崎 国 彦 (教 委) 1'28"56^N

23. 背泳小学生男子 50m

- ① 石 崎 義 忠 (緑が丘) 38"66^N
- ② 市 原 孝 一 (三 木) 38"66^N
- ③ 伊 東 秀 晃 (広 野) 39"32^N

24. 背泳 小学生女子 50m

- ① 糸 田 卯 月 (平 田) 41"27
- ② 高 橋 まどか (三 木) 43"96
- ③ 黒 田 真由美 (") 44"17

25. 背泳 中学生男子 100m

- ① 宮 脇 和 幸 (三 木) 1'20"15
- ② 縄 井 秀 彰 (自 由) 1'23"97
- ③ 高 見 功 輝 (三 木) 1'26"78

26. 背泳 中学生女子 100m

- ① 笹 谷 薫 (三 木) 1'25"63
- ② 井 上 志 穂 (") 1'25"95
- ③ 伊 東 鈴 恵 (") 1'32"39

27. 背泳 高校生男子 100mオープン

- ① 徳 平 一 朗 (吉 川) 1'07"82^N

◎大会新 (N) 8種目に13

スポーツ少年団一覧表

昭和60年1月現在

番号	名 称	発足年月日	代表者住所・氏名	活動の本拠地	活動曜日及び種目
1	三木スポーツ少年団	昭和48年	西 阪 義 雄 三木市宿原1270-401 Tel 3-3549	三 木 小 学 校 運 動 場 プ ール	サッカー、水 泳 毎土曜日PM2:00~4:00 (夏16:20~18:30連日)
2	別所スポーツ少年団	昭和51年	平 田 義 則 三木市別所町石野 Tel 2-4710	別 所 小 学 校 運 動 場	サッカー(バドミントン、 ソフトボール) 毎土曜日 14:00~
3	志染スポーツ少年団	昭和48年	沢 田 薫 三木市別所町高木70 県住6-107 Tel 3-6127	志 染 小 学 校 志染公民館	剣 道 毎金18:30~20:30 サッカー、ソフトボール 毎土14:00~16:00
4	豊地スポーツ少年団	昭和49年	小 西 俊 弘 三木市細川町増田 Tel 6-2591	豊 地 小 学 校 運 動 場	サッカー水、木、土 バレーボール木、土
5	自由が丘スポーツ少年団	昭和53年 ↓ 自由が丘特別 サッカークラブ 昭和55年 名称改める	内 田 忠 志 三木市志染町中自由が丘 3-70 Tel 5-1300	自由が丘小学校 運 動 場 体 育 館	サッカー、水泳、 バレーボール 火 16:00~17:00 土 14:00~16:00
6	口吉川スポーツ少年団	昭和48年	実 井 憲 二 三木市口吉川町船場666 口吉川小学校内 Tel 8-0224	口 吉 川 小 学 校 運 動 場 体 育 館 プ ール	サッカー、 バレーボール 月、木、土
7	瑞穂スポーツ少年団	昭和53年	常 深 克 己 三木市細川町中里92 Tel 6-2377	瑞 穂 小 学 校 運 動 場 体 育 館	サッカー、 バレーボール 木 15:00~16:30 第2・4 土曜日午後
8	緑が丘スポーツ少年団	昭和57年4月	石 丸 和 馬 三木市緑が丘西1丁目 10-8 Tel 4-0744	緑 が 丘 小 学 校 運 動 場 体 育 館	剣道、月、金4:00~ サッカー、月火、木金4:00~ バレーボール、火、木、土4:00~
9	広野小 特別サッカークラブ	昭和57年	永 尾 貢 三木市本町3丁目9-37 Tel 2-4818	広 野 小 学 校 運 動 場 プ ール	サッカー、水泳 火、木16:00~18:00 土 14:00~17:00
10	緑が丘東スポーツ少年団	昭和55年4月	赤 松 篤 三木市志染町広野甲132 -26 Tel 5-1900	緑 が 丘 東 小 学 校 運 動 場	サッカー 男子 火、木、土 女子 土

三木市の社会体育関係団体紹介

●三木市家庭婦人バレーボール連盟

三木市に広くバレーボールを広め、家庭婦人に平等にスポーツの喜びを知ってもらい、婦人の健康と健全なる精神を養うことを目的とし、小山伊一氏を会長にたて、昭和52年12月4日に創立した。

- 主な事業（定期大会） 7月 連盟招待バレーボール大会
10月 三木シニアバレーボール大会
11月 会長杯争奪バレーボール大会

●三木市家庭バレーボール連盟

三木市内の家庭バレーボールをもって集まっているグループ相互の親睦と交流をはかり、その技術を磨き、健康で明るい家庭生活を築いて地域発展に資することを目的とし井ノ元美恵子氏を会長に昭和52年5月18日に創立した。

- 主な事業（定期大会） 6月 連盟杯争奪大会
10月 三木シニアバレーボール大会
11月 三木市長杯争奪戦秋季大会
12月 三木・吉川親善バレーボール大会
3月 三田・三木親善バレーボール大会

●スポーツ少年団

東京オリンピックを記念して昭和37年に1人でも多くの青少年をスポーツに親しませ、体力づくり・仲間づくりなど、健全な児童の育成を目的として創立されたスポーツ少年団は、昭和44年頃から三木市内の各小学校区で次々と誕生し、別表の団体が活発に活動中である。

●広野小特別サッカークラブ

昭和57年4月に創部。学校体育の延長として、広野小の児童の体力の向上をはかるという理由で、発足した。当初は、6年生男子十数人という小世帯だった。

昭和58年には、4年生以上6年生までの間約五十名もの部員が集まった。火、木、土、週三回の猛練習。夏季休業中も午前中水泳、午後サッカーと真黒になりきたえあげた。その成果が、市長杯サッカー大会で5年生がみごと初優勝。会長杯サッカー大会で、5・6年の部3位とがんばった。

今年度も約六十名の部員が、強い体づくりと、強い心づくりに、そして北播初制覇めざして汗を流している。

●志染スポーツ少年団

我が少年団は、志染小学校3年生以上の希望者により、サッカー、剣道を中心に活動をしています。活動時間は、サッカー毎週土曜日、2時～4時、剣道は、毎週金・土午後6時半～8時半です。

指導者は、サッカー部に小学校の教師2～3名。剣道部は、地域の方、駐在所のおまわりさんなど、3～4名があたっています。

時期に応じて、ソフトボール、水泳、合宿練習、剣道部の寒げい古などもとり入れたり、グリーンピアヘスケートの練習や、登山、ハイキングなどのレクリエーション的要素もとり入れています。

まだまだ戦績はかんばしくありませんが、のびのびとスポーツに親しみ、スポーツの良さを少しでも味わってくれればと願ってがんばっています。

●緑が丘スポーツ少年団

体育協会30周年おめでとうございます。

緑が丘スポーツ少年団は、現在、サッカー（男女）、剣道（男女）、バスケット（男）、バレー（女）、の4つの部から成り立っています。

団の基本方針は。

○仲間づくり

○体力づくり

で、特に現在の子供たちに欠けている、仲間づくりについては、常に指導しています。

この緑が丘の少年団で育った子供たちが、大きくなり、指導者としてもどってくれるのを期待しながら日々活動しています。また、スポーツを愛する子供たちに育ってくれますようお願いしてや

みません。

●自由が丘スポーツ少年団

自由が丘スポーツ少年団は昭和53年度に自由が丘特別サッカークラブとして女子児童の体育活動の場を与えることを目的に発足し、市内のサッカー大会の参加や野外活動を行いました。翌年からは男子も活動を開始し一段と大きな輪になりました。

昭和55年度、自由が丘スポーツ少年団として名称を改め、男子はサッカー、女子はバレーボールを中心に活動し、指導者は学校職員ですが、学校とは異った面をお互い知ることができます。練習日は週2回で他に夏は水泳や野外活動、冬はスケートといろいろなことを経験させています。このように健全な児童の育成（体育面）だけでなく、人として児童としての本分を忘れず、思いやりや助け合いの心になるよう願っています。

●ロ吉川スポーツ少年団

スポーツのおもしろさと厳しさを知らせるとともに、余暇時代に対応できる子供を育てることを目的としている。現在は、四年生以上の男女50人が週2回、サッカー・バレーボールを中心に、ソフトボール・水泳・陸上・ハイキング等幅広い活動をしている。

活動に当たっては、まずスポーツを好きにさせることを第一に、個々の特性や技能に合った指導を心掛けている。伸び伸びプレーし、自分の特色を発揮するという日常活動の成果は、昨年度のサッカーやバレーボール大会で十分に示された。

指導には、実井憲二と加古潤三郎（ロ吉川小教職員）が当たっている。

●三木スポーツ少年団(三木SS)

昭和44年頃、三木小学校においては、全国的にみて劣っている児童の体格、体力の向上をめざして冬はサッカー、夏は水泳を中心とする体育指導が行われていた。三木スポーツ少年団は、この体育指導の伝統を踏襲して体格、体力の向上、技能の向上を趣旨として、昭和48年に発足した市内では最も古い少年団の一つである。

過去、サッカーにおいては、兵庫少年サッカー大会、西兵庫友好少年サッカー大会等数々の大会に優勝をはじめ好成績をおさめている。また、水泳においても、スイミングクラブ対抗記録会で団体3位入賞をはじめ、兵庫学童水泳記録50傑に名を連ねる数多くの好記録を残している。父母による後援会組織も整い、毎年鉢高原で行う三木SSスキー教室には父母・団員合わせて150名前後が参加し、サッカー部とともに水泳部を併設する少年団として、特色ある活動を続けている。現在、小学2年生以上の男女200余名を団員としている。

三木市体育協会規約

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本協会は三木市体育協会という。

(目 的)

第2条 本協会は、体育諸団体が相互の親密なる協調と連絡を保ち、体育・スポーツ・レクリエーションなどの普及、振興をはかり市民の心身の健全な発達と明るく豊かな市民生活の育成に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本協会は前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

- (1) 三木市体育行政及びその他の機関、団体の施策に対して協力すること。
- (2) スポーツのアマチュア精神を確立すること。
- (3) 加盟団体の強化発展と相互の連絡融和を図ること。
- (4) スポーツの指導者養成を図ること。
- (5) 各種大会・講習会等、スポーツに関する行事の実施。
- (6) スポーツの宣伝、啓発及び研究調査に関すること。
- (7) スポーツの功労者並びに優秀選手を表彰すること。
- (8) その他本協会の目的達成に必要な事業

(登 録)

第4条 本協会は兵庫県体育協会に加盟する。

(事 務 所)

第5条 本協会の本部及び事務局は、三木市教育委員会事務局内に置く。

(加盟団体)

第6条 本協会は各種アマチュア体育団体（以下「加盟団体」という。）をもって組織する。学校体育連盟は、本協会の組織単位として認めることができる。

(加 盟)

第7条 加盟団体及び前条の組織団体として認められた団体は理事会の決議を経て加盟する。

(脱 退)

第8条 加盟団体が第6条に掲げる資格を失った時、又は加盟が不相当であると認められた時は、理事会の決議を経て脱退させることができる。

第2章 組 織

(役 員)

第9条 本協会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副 会 長 若干名
- (3) 理 事 長 1 名

- (4) 副理事長 若干名
- (5) 理 事 若干名
- (6) 監 査 若干名
- (7) 会 計 1 名

(役員の選出)

第10条 本協会の役員は次によって選出する。

- 2 会長、副会長は理事会の決議を得てこれを定める。
- 3 理事長、副理事長、監査、会計は理事会に於いて理事の中から選出する。
- 4 理事は、構成団体の中から各2名選出し、その他、学識経験者から若干名会長が推せんし、理事会の承認を得て選出することができる。

(任 務)

第11条 本協会の役員の任務は次のとおりとする。

- 2 会長は本協会を代表し会務を統理する。
- 3 副会長は会長を補佐し会長事故ある時はその職務を代行する。
- 4 理事長は会長の命を受けて会務を執行し、副理事長は理事長を補佐し理事長事故あるときは、その職務を代行する。
- 5 理事は理事会を組織し、本協会の重要会務を審議処理する。
- 6 監査は本協会の会計を監査する。
- 7 会計は本協会の会計をつかさどる。

(名誉会長、顧問、参与)

第12条 本協会は、理事会の議決を経て名誉会長、顧問、参与を置くことができる。

(職 員)

第13条 本協会の会務の処理をするために主事及び書記若干名を置くことができる。

- 2 主事及び書記は理事長の推せんにより、理事会の承認を経て会長が任命する。

(任 期)

第14条 本協会の役員の任期は2ヵ年とする。但し、再任を妨げない。補欠役員の任期は、前任者の残任期間とし、増員による役員の任期は他の役員の残任期間とする。

第3章 会 議

(理 事 会)

第15条 理事会は会長、副会長及び理事をもって構成し、会長がこれを招集する。

(議 事)

第16条 会議は招集役員の2分の1以上の出席をもって成立し議決は出席者の過半数をもってきめる。

(記 録)

第17条 すべての会議には会議録を作成する。

第4章 会 計

(経 費)

第18条 本協会の経費は次に定めるものをもって当てる。

- (1) 会 費
- (2) 事業収入
- (3) 寄 附 金
- (4) 補 助 金
- (5) そ の 他

(会計年度)

第19条 本協会の会計年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日に終わる。

第5章 専 門 委 員 会

(設 置)

第20条 本会は理事会の議決を経て各種専門委員会を設けることができる。

第21条 各種専門委員会は、それぞれの所管する事項に関しては決定及び実施の権限を有する。

但し、各種専門委員会の事業計画及び基本方針については理事会の承認を得なければならない。

第22条 各種専門委員会について必要な事項は、理事会の議決を経て別に決める。

第6章 規約の変更及び細則

(規約の変更)

第23条 本協会の規約変更は理事会において過半数の同意があればこれを変更することができる。

(細 則)

第24条 本協会の細則は別にこれを定める。

附 則

本規約は、昭和43年4月1日より施行する。

昭和32年4月1日 制 定

昭和36年4月16日 一部改正

昭和43年4月1日 改 正

三木市体育協会加盟細則

第1章 団 体 加 盟

(申 請)

第1条 本協会に加入するときは、加盟申請書に次の書類を添えて理事会に提出する。

- (1) 規 約
- (2) 役員及び組織名簿
- (3) 事業報告及び計画
- (4) 決算報告及び予算

(資 格)

第2条 本協会に加入できる資格は次のとおりとする。

- (1) 三木市内に事務所を置くアマチュア体育団体であること。
- (2) 団体はその組織メンバーが三木市民及びこれに準ずる者であること。

(会 員 証)

第3条 本協会の会員には会員証を交付する。

三木市市民スポーツ最高賞選定規則

(昭和43年7月10日)
三教委規則第7号

(目 的)

第1条 この規則は、三木市における体育及びスポーツの成績が優秀であった市民及び市民で構成する団体を表彰し、市民の範とするとともにスポーツを広く市民に普及させることを目的とする。

(表彰の種類及び対象)

第2条 表彰は三木市体育協会に加盟している単位協会ごとの部門とし、次の第1号及び第2号のいずれかに授与することができる。

(1) 個人賞

個人として体育スポーツの競技の成績が特に顕著なもの。

(2) 団体賞

団体として体育スポーツの競技の成績が特に顕著なもの。

(選定の方法)

第3条 表彰は、三木市体育協会（各単位協会を含む）から別紙様式第1号及び第2号によって推せんのあるものの中から教育委員会がこれを選定する。ただし推せん書は毎年2月末日までに教育委員会に提出するものとする。

2 教育委員会は前項によるほか、表彰すべきものがあると認めたときはこれを選定することができる。

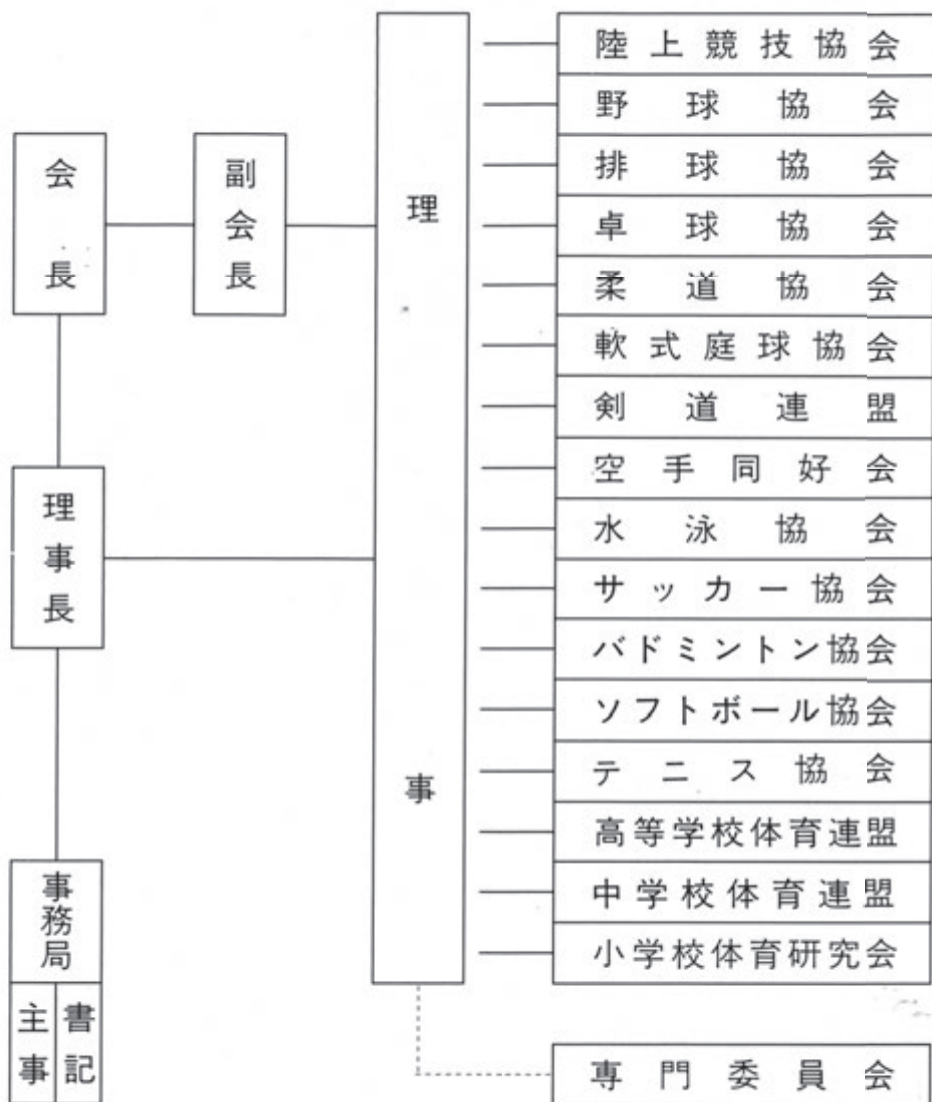
(教育長への委任)

第4条 この規則の施行に関し、必要な事項は教育長が定めることができる。

附 則

この規則は、昭和43年7月10日から施行する。

三木市体育協会組織図



社会体育施設一覧表

三木市教育委員会体育青少年課 昭和59年10月現在

No.	施設名称	所 管	所 在 地	用 途	規 模	建 設 年 月 日
1	三木市民グラウンド	体育青少年課	上の丸町字鷹尾886	野 外 運 動 場	真 土 12,745㎡	昭和25年建設 昭和42年県立三木高より 譲渡
2	三木市民体育館	体育青少年課	〃	屋 内 運 動 場	鉄骨造 933.12㎡	昭和37年建設 昭和42年県立三木高より 譲渡
3	三木勤労者体育センター	体育青少年課	〃	屋 内 運 動 場	鉄 筋 936.00㎡	昭和52年6月 雇用促進事業団
4	わ ん ぱ く 広 場	体育青少年課	別所町小林字口ハメ谷 559-3	身 近 な 運 動 広 場	真 土 2,096.00㎡	昭和59年4月 文部省補助
5	三木城跡内 トリム・ランニングコース	体育青少年課	上の丸町字鷹尾889	屋 外 ラ ン ニ ン グ 場	2,000m往 復 コ ー ス	昭和58年国民健康体力増 強費補助金
6	と も え 運 動 公 園	都 市 整 備 課	別所町巴13	野 庭 球 場	8,000㎡ 700㎡	昭和51年10月 県土地開発公社より
7	高 木 公 園	都 市 整 備 課	別所町高木79-1	庭 球 場	全天候型 クラブハウス 100㎡ コート 2,300㎡	昭和55年開設
8	緑 が 丘 南 公 園	都 市 整 備 課	緑が丘町中1丁目21-24	野 庭 球 場	8,000㎡ 1,000㎡ (2面)	昭和51年大和ハウスより 移管
9	自 由 が 丘 中 央 公 園	自 由 が 丘 地 区 グラウンド管理委員会	志染町西自由が丘1丁目	屋 外 運 動 場	真 土 6,800㎡	昭和55年4月開設
10	仮 称 自由が丘北グラウンド	自 由 が 丘 地 区 グラウンド管理委員会	志染町吉田1246の13	屋 外 運 動 場	真 土 22,000mm	昭和59年10月 市土地開発公社より
11	ド ン ド キ ャ ン プ 場	体育青少年課	志染町三津田	野 外 活 動 場	120,000㎡	昭和59年6月開設
12	加 佐 山 キ ャ ン プ 場	体育青少年課	加 佐	野 外 活 動 場	20,000㎡	昭和49年開設

編集後記

数年前の理事会で30周年記念事業の話が持ちあがり、昭和58年末の理事会で、記念スポーツ大会と記念誌発刊が正式に決定しました。各単位協会から委員が選出され、その中から編集委員5名が任に就き、昭和59年7月1日発刊をめざして作業にとりかかりました。

各単位協会に依頼した字稿の集約がはかどらず、とうとう7月1日発刊を断念し、7月1日30周年の記念大会の記録を掲載して年度内に延期せざるを得なくなりました。

その間、体育青少年課の西山課長をはじめ事務局の方々には、三木市広報第1号から全紙面に目を通して、抜粋したり、字稿未提出者への督促、校正など全般にわたって、ひと方ならぬ御苦勞をわずらわし、やっと発刊の日を迎えることができました。

昭和29年7月、三木市体育協会発足後はや30年、その間よく風雪に耐え歴代会長によき人を得、諸役員の方々の精力的な索引力によって協会の活動内容も年と共に進展充実し、現在の盛況を見るに至っているのです。

意義ある30年の区切りに際し、その成果を永久に記念すべく不十分ではありますが、その歩みを書きとどめました。

ここで、あらためて発足以来の先輩各位のご苦勞に対し深甚の敬意と感謝を表すと共に、今後の道しるべともなれば幸いです。

末筆ながら、本誌に対し御祝辞をいただいた兵庫県体育協会々長田村亨氏をはじめ、創設当時の回顧を快くひきうけて下さった方々に厚くお礼を申しあげて編集者のことばといたします。

記念誌編集委員長 池町 耕 一



記念誌編集委員会

委員長 池町 耕一
副委員長 池町 早苗

委員 上崎長太郎
// 藤原 淳作
// 山村 富和



三木市体育協会30年のあゆみ

発行日 昭和60年3月31日

編集発行 三木市体育協会

三木市教育委員会内

三木市上の丸町4番5号

電話 2-2000

印刷 株式会社 前田精版印刷所

